

平成17・18・19・20年度

埋蔵文化財調査年報

2010年3月

太子町教育委員会

平成17・18・19・20年度
埋蔵文化財調査年報

－町単費事業及び受託事業実施分－

2010年3月

太子町教育委員会



班鳩小学校遺跡第5次調査 空中写真



吉福西遺跡第2次調査 空中写真



船遺跡第 23 次調査北端自然河道出土「銅鏃」



斑鳩小学校遺跡第 5 次調査出土「焜炉」

例 言

1. 本報告書は、平成 17・18・19・20 年度に実施した埋蔵文化財調査のうち、町単費事業及び受託事業として実施した試掘確認調査及び本発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課文化財係三村修次・海野浩幸が担当した。
3. 本報告書の執筆・編集は、社会教育課文化財係三村・海野が行った。
4. 遺物実測・トレース等の整理作業は、岩村千穂・改発法子・丸山貴子がおこなった。
5. 各年度の調査位置図は、太子町作成 1/25,000「太子町全図」(平成 9 年)を 1/30,000 に縮小し、使用した。
6. 本報告書の示す標高は、T・P を基準とし、方位は座標北を示す。
7. 本報告書で用いた経緯度は、世界測地系を基準とした。
8. 遺物実測図の断面は、縄紋土器・弥生土器・土師器は黒塗りで、須恵器・瓦・瓦器は白抜きで、陶磁器はドットで、石・金属製品は斜線でそれぞれ示した。
9. 本報告書に使用した図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。



図 1 太子町位置図

目次

例言

I 平成17年度調査概要	1
平成17年度調査概要	
山田畑田山遺跡	3
斑鳩寺遺跡（第11次調査）	4
立岡東遺跡	6
太田字山ノ下	8
春日社跡遺跡	10
田中遺跡	11
船遺跡（第22次調査）	13
船遺跡（第23次調査）	18
東保遺跡	20
田中遺跡	21
斑鳩小学校遺跡（第3次調査）	23
東保遺跡	24
II 平成18年度調査概要	25
平成18年度調査概要	
斑鳩小学校遺跡（第4次・第5次調査）	27
東南字羽子田	36
栗原遺跡	37
吉福遺跡	39
川島遺跡	40
田中遺跡	42
III 平成19年度調査概要	45
平成19年度調査概要	
吉福西遺跡（第1次調査）	47
IV 平成20年度調査概要	52
平成20年度調査概要	
東保遺跡	54
田中遺跡	55
城山遺跡	57
斑鳩寺遺跡（第12次調査）	61
矢田部城跡	62
斑鳩寺南遺跡	64
吉福西遺跡（第2次調査）	66
船遺跡（第25次調査）	83
大津茂川床遺跡	86

東保高田遺跡	88
山田大山7号墳・10号墳	89
V 報告書抄録	103

挿 図 目 次

図1 太子町位置図		図28 トレンチ配置図	13
図2 平成17年度調査位置図	1	図29 平面図・土層断面図	14
山田畑田山遺跡		図30 北端部（北より）	15
図3 調査区配置図	3	図31 中央部（北西より）	15
図4 土層断面図	3	図32 南端部（北より）	15
斑鳩寺遺跡（第11次調査）		図33 出土遺物（1）	15
図5 調査区配置図	4	図34 出土遺物（2）	16
図6 石列（東より）	5	図35 出土遺物（3）	17
図7 石列（南西より）	5	鷺遺跡（第23次調査）	
図8 遺構平面図・土層断面図	5	図36 調査位置図	18
立岡東遺跡		図37 土層断面図	19
図9 トレンチ配置図	6	東保遺跡	
図10 1トレンチ	6	図38 トレンチ配置図	20
図11 2トレンチ	6	図39 土層断面図	20
図12 3トレンチ	6	田中遺跡	
図13 4トレンチ	6	図40 トレンチ配置図	21
図14 土層断面図	7	図41 1トレンチ	21
太田宇山ノ下		図42 1トレンチ	21
図15 トレンチ配置図	8	図43 1トレンチ	21
図16 1トレンチ	8	図44 土層断面図	22
図17 2トレンチ	8	斑鳩小学校遺跡（第3次調査）	
図18 3トレンチ	8	図45 調査区配置図	23
図19 4トレンチ	8	図46 土層断面図	23
図20 土層断面図	9	東保遺跡	
春日社跡遺跡		図47 調査区配置図	24
図21 トレンチ配置図	10	図48 土層断面図	24
図22 土層断面図	10	図49 平成18年度調査位置図	26
田中遺跡		斑鳩小学校遺跡（第4次・第5次調査）	
図23 トレンチ配置図	11	図50 調査区配置図	27
図24 1トレンチ	11	図51 調査区1遺構配置図	28
図25 3トレンチ	11	図52 土層断面図	29
図26 5トレンチ	11	図53 出土遺物（1）	30
図27 土層断面図	11		

図54	出土遺物 (2)	31	図88	調査位置図	47
図55	出土遺物 (3)	32	図89	試掘坪配置図	47
図56	出土遺物 (4)	33	図90	遺構平面・土層断面図	51
図57	出土遺物 (5)	34	図91	出土遺物	51
図58	調査区1全景 (西より)	35	図92	5坪 (北西より)	51
図59	土坑6・7 (南より)	35	図93	6坪 (北西より)	51
図60	土坑12 (南より)	35	図94	平成20年度調査位置図	53
図61	溝2 (南より)	35	東保遺跡		
図62	井戸 (南より)	35	図95	トレンチ配置図	54
図63	調査区2全景 (西より)	35	図96	土層断面図	54
東南字羽子田					
図64	トレンチ配置図	36	田中遺跡		
図65	土層断面図	36	図97	トレンチ配置図	55
栗原遺跡					
図66	トレンチ配置図	37	図98	1トレンチ	55
図67	土層断面図	38	図99	3トレンチ	55
図68	1トレンチ	38	図100	5トレンチ	55
図69	2トレンチ	38	図101	土層断面図	56
吉福遺跡					
図70	調査位置図	39	城山遺跡		
図71	吉福地区 (東より)	39	図102	トレンチ配置図	57
図72	沖代地区 (東より)	39	図103	遺構配置図	58
図73	旧河道痕跡 (南西より)	39	図104	1トレンチ (北より)	58
川島遺跡					
図74	トレンチ配置図	40	図105	2トレンチ (西より)	58
図75	土層断面図	41	図106	3トレンチ (東より)	58
図76	1トレンチ	41	図107	出土遺物 (1)	59
図77	2トレンチ	41	図108	出土遺物 (2)	59
図78	3トレンチ	41	斑鳩寺遺跡 (第12次調査)		
図79	4トレンチ	41	図109	調査区配置図	61
田中遺跡					
図80	トレンチ配置図	42	図110	サザンカ (玄関前)	61
図81	土層断面図	43	図111	土層断面図	61
図82	出土遺物	44	矢田部城跡		
図83	1トレンチ	44	図112	トレンチ配置図	62
図84	2トレンチ	44	図113	2トレンチ	62
図85	3トレンチ	44	図114	4トレンチ	62
図86	4トレンチ	44	図115	5トレンチ	62
図87	平成19年度調査位置図	46	図116	土層断面図	63
吉福西遺跡 (第1次調査)					
斑鳩寺南遺跡					
図117 トレンチ配置図					
図118 1トレンチ					
図119 2トレンチ					
図120 3トレンチ					
図121 土層断面図					

図122 1トレンチ出土遺物	65	図150 土坑3-1(東より)	82
吉福西遺跡(第2次調査)		図151 土坑3-7(東より)	82
図123 調査区配置図	66	図152 土坑3-7遺物出土状況(南より)	82
図124 調査区全体図	66	図153 溝3-1(東より)	82
図125 調査1区遺構配置図	67	図154 P1-26(南より)	82
図126 調査2区遺構配置図	68	図155 P2-1(西より)	82
図127 調査3区遺構配置図	69	鳩遺跡(第25次調査)	
図128 土層断面図(1)	70	図156 トレンチ配置図	83
図129 土層断面図(2)	71	図157 平面図・土層断面図	84
図130 出土遺物(1)	72	図158 出土遺物	83
図131 出土遺物(2)	73	大津茂川床遺跡	
図132 出土遺物(3)	74	図159 トレンチ配置図	86
図133 出土遺物(4)	75	図160 1トレンチ	86
図134 出土遺物(5)	76	図161 2トレンチ	86
図135 出土遺物(6)	77	図162 3トレンチ	86
図136 出土遺物(7)	78	図163 土層断面図	87
図137 出土遺物(8)	79	東保高田遺跡	
図138 調査区全景(西より)	80	図164 トレンチ配置図	88
図139 調査区1(北より)	80	図165 1トレンチ	88
図140 調査区2(北より)	80	図166 2トレンチ	88
図141 調査区3(北より)	80	図167 3トレンチ	88
図142 土坑1-10(南より)	80	図168 4トレンチ	88
図143 土坑2-2(北より)	80	図169 土層断面図	89
図144 土坑2-2遺物出土状況(西より)	81	山田大山7号墳・10号墳	
図145 土坑2-3(南より)	81	図170 古墳位置図	90
図146 土坑2-5(北より)	81	図171 7号墳全景(東より)	91
図146 土坑2-10(東より)	81	図172 同 奥壁	91
図148 土坑2-16(東より)	81	図173 10号墳全景(西より)	91
図149 土坑2-16遺物出土状況(南より)	81	図174 同 玄室部(西より)	91

表目次

表1 平成17年度埋蔵文化財調査一覧表	1
表2 平成18年度埋蔵文化財調査一覧表	25
表3 平成19年度埋蔵文化財調査一覧表	45
表4 平成20年度埋蔵文化財調査一覧表	52
表5 遺物観察表	92

写真目次

- 巻頭写真1 上 斑鳩小学校遺跡第5次調査 空中写真
下 吉福西遺跡第2次調査 空中写真
- 巻頭写真2 上 鶴遺跡第23次調査出土「銅鏡」
下 斑鳩小学校遺跡第5次調査出土「焔炉」



調査風景（城山遺跡）



調査風景（吉福西遺跡第2次調査）

I 平成 17 年度調査概要

平成 17 年度では、16 件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が 10 件、公共事業に伴う本発掘調査が 1 件、公共事業に伴う立会調査が 3 件、区画整理事業に伴う試掘確認調査が 2 件である。そのうち、3 箇所の民間開発事業に伴う試掘確認調査と、1 箇所の区画整理事業に伴う試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表 1 平成 17 年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺 跡 名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調 査 期 間	備 考
1	斑鳩寺遺跡 (第 10 次調査)	船字斑鳩寺	雨水設備整備 国庫補助事業	20	20	平成 17 年 5 月 30 日 ～6 月 11 日	文化財資料 第 74 集
2	樋ノ上遺跡	馬場字樋ノ上	宅地造成 国庫補助事業	1662	58.8	平成 17 年 6 月 20 日 ～6 月 22 日	文化財資料 第 74 集
3	船石田遺跡	船外前田	店舗建設 国庫補助事業	2521.78	76.2	平成 17 年 6 月 27 日 ～6 月 30 日	文化財資料 第 74 集
4	山田畑田遺跡	山田字畑	携帯電話基地 局建設	12	12	平成 17 年 8 月 3 日 ～8 月 5 日	本書掲載
5	斑鳩寺遺跡 (第 11 次調査)	船字斑鳩寺	雨水設備整備	81	81	平成 17 年 9 月 7 日 ～9 月 22 日	本書掲載
6	立岡東遺跡	立岡字小畑	宅地造成	2253	50	平成 17 年 9 月 26 日 ～9 月 30 日	本書掲載
7	太田字山ノ下	太田字山ノ下	宅地造成	3296.85	60	平成 17 年 10 月 6 日 ～10 月 11 日	本書掲載
8	春日社跡遺跡	馬場字春日	携帯電話基地 局建設	78.86	36	平成 17 年 10 月 17 日 ～10 月 20 日	本書掲載
9	太田田中遺跡	太田字五反田	宅地造成	4562	50	平成 17 年 12 月 12 日 ～12 月 16 日	本書掲載
10	船遺跡 (第 22 次調査)	船字久治田	公共下水道敷 設 受託事業	96	96	平成 18 年 1 月 6 日 ～1 月 31 日	本書掲載 公共事業
11	竹広字前田	竹広字前田	区画整理 国庫補助事業	6897	132	平成 18 年 1 月 24 日 ～2 月 3 日	文化財資料 第 74 集
12	船遺跡 (第 23 次調査)	船字久治田	水路改修 (県土木)	L=700m	50	平成 17 年 12 月 28 日 ～平成 18 年 2 月 28 日	本書掲載 公共事業
13	東保遺跡	東保字中ノ壺	宅地造成	1627	32	平成 18 年 2 月 7 日 ～2 月 10 日	本書掲載
14	太田字往田	太田字往田	区画整理	7757	249	平成 18 年 2 月 10 日 ～22 日	本書掲載
15	斑鳩小学校遺跡 (第 3 次調査)	船字斑鳩寺	小学校校舎改 築工事	13039	107	平成 18 年 2 月 28 日 ～3 月 7 日	本書掲載 公共事業
16	東保遺跡	東保	町道改良工事	123	70	平成 18 年 3 月 6 日 ～3 月 8 日	本書掲載 公共事業



図2 平成17年度調査位置図

山田畑山遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町山田字畑 497-2

2. 調査期間

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 17 年 8 月 3 日～8 月 4 日

5. 調査面積

12 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、調査区配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 4 秒)、東経(134 度 37 分 17 秒)



図3 調査区配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町山田字畑 497-2 において携帯電話無線基地局の建設が計画され、建設予定地は周知の埋蔵文化財である山田畑山遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 19.10mを測る駐車場であるが、以前は個人住宅と畑であった。

8. 調査の概要

調査は、工事予定地の 3×4m の範囲に調査区を設定して実施した。調査地の基本土層は、アスファルト、造成盛土(約 40cm)、明褐色砂質土・パイ乱土(4～6cm)で黄橙色砂質土・地山(岩盤風化土)となっている。遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、調査地点は畑造成及び宅地建築時に東面する斜面をカット・削平して造成されており、また、駐車場造成時に旧耕土を漑き取っていることも判明した。今回の調査地点には、遺構は存在しないことが確認された。

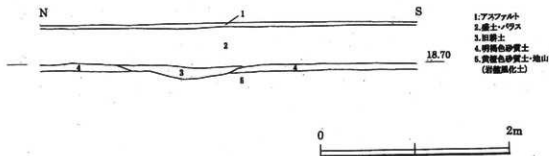


図4 土層断面図

斑鳩寺遺跡（第11次調査）

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町鳩字斑鳩寺 709

2. 調査期間

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年9月7日～9月22日

5. 調査面積

81 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺構実測図(1/20)、調査区配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34度50分13秒)、東経(134度34分31秒)

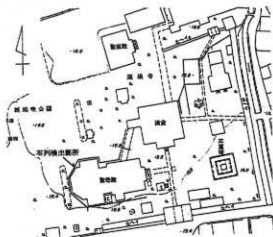


図5 調査区配置図(1/2,000)

7. 調査に至る経過

斑鳩寺の境内において雨水排水設備整備が進められており、今回は聖徳殿の南・西・北側と、講堂北東から聖霊権現社北側にかけての工事が実施されることになり、掘削掘り方が狭小であり、また、参拝客への安全面から工事の工程にあわせて立会調査を実施した。工事の概要は、幅40cm、深さ30cmの掘り方で、総延長は約211mである。

8. 調査の概要

調査地の基本土層は、聖徳殿周囲部分では上層から表土・バラス(4cm)、灰褐色～暗灰褐色盛土・ガラス含む(10～15cm)で褐色砂質土ないし明褐色土の整地層となっている。

講堂北東から聖霊権現社間では、上層から表土・バラス(4cm)、現代の盛土(8cm)、褐色整地層・小円礫混じり(15～22cm)で褐色砂礫となっている。

聖霊権現社北側では、上層から表土・バラス(4cm)、灰褐色土・盛土(16cm)で明褐色土となっている。

遺構は、聖徳殿奥殿北西部で、地表下約25cmのレベルで石列状遺構を検出した。遺構は、北側に角礫と川原石を用いた石列と、南側に川原石を用いた幅約60cmを測る敷石状の石列からなっており、北側の石列には五輪塔の火部分1個が転用されていた。全体の規模は調査区が狭小なため不明であるが、東西方向に延びているものと考えられる。

9. まとめ

調査の結果、聖徳殿奥殿北西部で東西方向に延びると考えられる石列状遺構を検出した。限られた範囲での調査であったため、全容を把握することはできなかったが、旧太子堂に付随する築地塀の基礎の一部にあたるのではないかと推測される。斑鳩寺境内の旧状を復元する上で貴重な資料を得ることができた。

なお、検出した遺構は埋設管の深度を変更し、保存処置を講じた。



図6 石列(東より)



図7 石列(南西より)

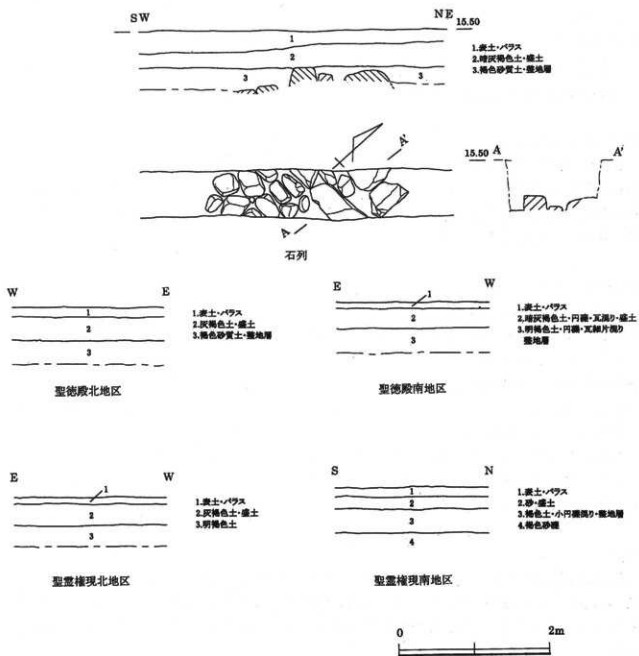


図8 遺構平面図・土層断面図

立岡東遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町立岡字小畑 131-1 他 3筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 17 年 9 月 26 日～9 月 30 日

5. 調査面積

50 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 49 分 39 秒)、東経(134 度 34 分 47 秒)



図 9 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立岡字小畑 131-1 他 3 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である立岡東遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 11m 前後を測る休耕田である。なお、調査地一帯は平成 7 年度にカドミウム汚染による土壌改良工事に伴う試掘確認調査が実施されている。

8. 調査の概要

調査は、2×5m のトレンチを 4 箇所設定して実施した。調査地の土層は、耕土(20cm)、汚染土壌改良入替土(4～8cm)で明褐色砂質土ないしは褐色砂礫の地山となっている。南端に設定した 4 トレンチでは、地山上面に灰褐色砂質土が堆積している。各トレンチとも、遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、地山面は南側へ緩やかに傾斜していることが確認された。遺構及び遺物も検出されなかったことから、東隣で平成 15 年度に実施した試掘確認調査の成果とあわせ、今回の調査地は立岡東遺跡の立地する微高地の縁辺部にあたると思われる。



図 10 1 トレンチ

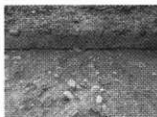


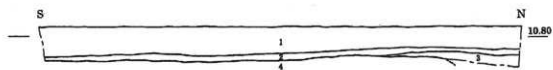
図 11 2 トレンチ



図 12 3 トレンチ

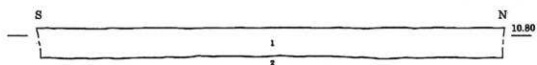


図 13 4 トレンチ



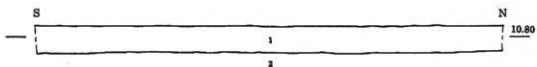
1 トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 灰色土混り褐色土 (土壌改良土)
- 3. 暗褐色砂質土・堆山
- 4. 褐色砂質土



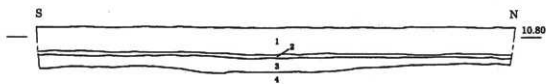
2 トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 砂礫



3 トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 暗褐色砂質土
小円礫あり



4 トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 灰色土混り黄褐色土 (土壌改良土)
- 3. 灰褐色砂質土
- 4. 暗褐色砂質土・堆山

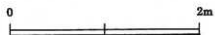


図 14 土層断面図

太田字山ノ下

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町太田字山ノ下 1570-6 他

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成17年10月6日～10月11日

5. 調査面積

60 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度49分41秒)、東経(134度36分22秒)

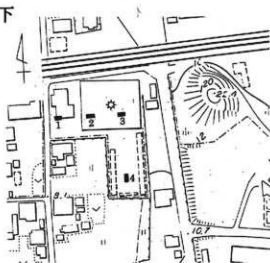


図15 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字山ノ下 1570-6 他において宅地造成が計画され、造成予定地は周地の埋蔵文化財の範囲外であるが、西に隣接して川島遺跡が存在することから、遺構及び遺物包含層の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地は以前は工場倉庫が建っていたが、現況は更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、2×5mのトレンチを4箇所設定して実施した。調査地の土層は、造成盛土(50～90cm)、耕土(20cm)、青灰色土(10～30cm)、灰色～褐色粘質土及び黄褐色粘質土が30～40cm堆積している。西端の1トレンチとその東に設定した2トレンチで黄色粘質土の地山が確認されたが、それより東と南の3・4トレンチでは黒灰色粘質土となっている。この黒灰色粘質土は、ボーリングステッキによる検索の結果1m以上の厚さを持つことが確認された。各トレンチとも、遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、川島遺跡に関連する遺構・遺物は確認されず、今回の調査地には遺跡は所在しないことが確認された。土層の観察から、微高地から南東に所在する福井大池に連なる湿地へ移行する位置にあたと考えられる。



図16 1トレンチ



図17 2トレンチ

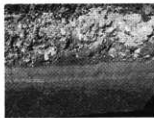


図18 3トレンチ



図19 4トレンチ

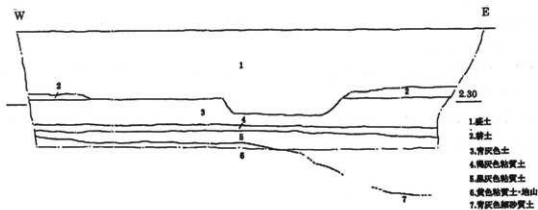
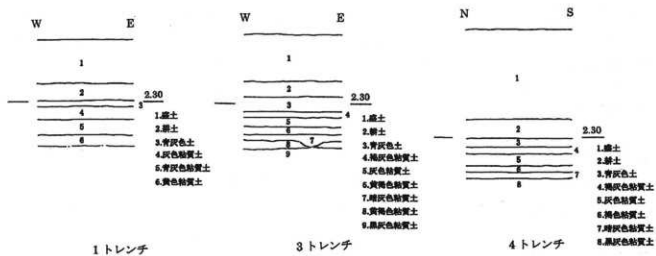


図 20 土層断面図

春日社跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町馬場字春日 433-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 17 年 10 月 17 日～10 月 20 日

5. 調査面積

36 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/100)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 34 秒)、東経(134 度 34 分 00 秒)



図 21 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経緯

太子町馬場字春日 433-1 において無線送受信用鉄塔の建設が計画され、建設予定地は周知の遺跡である春日社跡遺跡の包蔵地内に位置し、昭和 56 年度に太子・龍野パイパス建設に伴い発掘調査が実施され、2 棟の建物跡と列石・集石等の遺構が検出された箇所北東に隣接することから確認調査を実施した。

調査地の現況は、標高 18.50m 前後を測る畑で、南東方向に流れる小川の左岸で周辺の田圃より約 80cm ほど高くなっている。

8. 調査の概要

調査は、鉄塔建設予定地内に 6×6m のトレンチを 1 箇所設定して実施した。調査地の土層は、耕土(30cm)の下にレンガ・瓦・ガラス片の混ざった砂礫層が約 2.3m 続き、その下で灰色旧耕土混じり褐色砂(約 30cm)で褐色砂礫層となっていた。遺構・遺物は検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、春日社に関連する遺構・遺物は確認されなかった。当初自然堤防と考えていた地形は現代の造成による盛土であることが判明した。

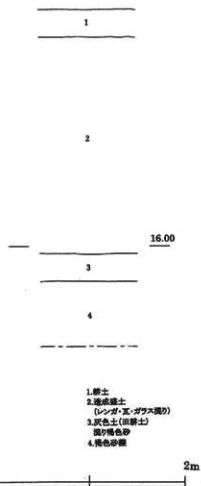


図 22 土層断面図

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町太田字五反田 672-1 他 7 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 17 年 12 月 12 日～12 月 16 日

5. 調査面積

56 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 04 秒)、東経(134 度 36 分 09 秒)

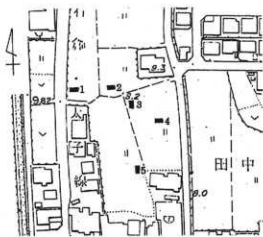


図 23 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字五反田 672-1 他 7 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周地の埋蔵文化財である田中遺跡の西端部に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、大津茂川左岸に隣接する標高 8.2m 前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、2×5m のトレンチを 5 箇所設定して実施した。調査地の土層は上層から、耕土(24cm)、淡褐色灰色砂質土(20～30cm)で明黄色～黄白色粘質土・地山となっているが、3・5 トレンチでは淡褐色灰色砂質土と地山の間に灰色粘質土の堆積が認められる。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されなかった。遺物は、淡褐色灰色砂質土から 2 トレンチで弥生土器片 1 点、土師器片 1 点と 5 トレンチで弥生土器片 1 点が出土しただけである。いずれも磨耗が著しく、流れ込みによるものであると考えられる。

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されず、遺物も流れ込みと考えられる小片が 3 点出土しただけである。今回の調査地までは田中遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。

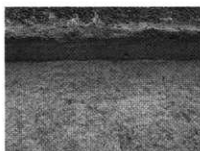


図 24 1 トレンチ

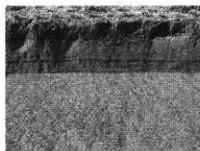
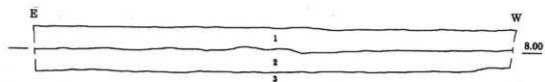


図 25 3 トレンチ

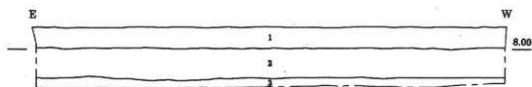


図 26 5 トレンチ



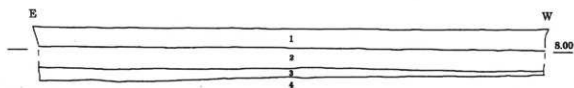
1. 耕土
2. 赤褐色砂質土
3. 黄白色土・地山

1 トレンチ



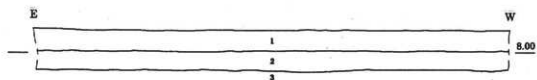
1. 耕土
2. 赤褐色砂質土
3. 黄白色土・地山(今中埋置)

2 トレンチ



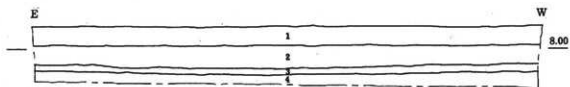
1. 耕土
2. 赤褐色砂質土
3. 灰色粘質土
4. 黄白色粘質土・地山

3 トレンチ



1. 耕土
2. 赤褐色砂質土
3. 黄白色粘質土・地山

4 トレンチ



1. 耕土
2. 赤褐色砂質土
3. 灰色粘質土
4. 黄白色粘質土・地山

5 トレンチ



図 27 土層断面図

鵜遺跡 (第22次調査)

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町鶴字久治田 1315-5

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 1 月 10 日～1 月 30 日

5. 調査面積

96 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/100)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 04 秒)、東経(134 度 34 分 49 秒)



図 28 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町経済建設部下水道課により、龍野土木工事事務所が計画する県道(主)太子御津線「街路龍野線」の国道 179 号線と、町道新町・聖徳台線間の東側歩道部分に公共下水道の敷設が計画された。敷設箇所は、周知の埋蔵文化財である鵜遺跡の包蔵地内に位置することから、発掘調査を実施した。なお、北端の町道既設下水道との接続部及びマンホール、南端のマンホール部分については、施行時に立会い調査を実施した。調査地は標高 15m 前後を測り、現況は道路用地として更地となっている。

8. 調査の概要

調査は、下水道敷設掘り方に幅 1m、長さ 71m のトレンチを設定して実施した。

調査地の基本土層は、造成盛土(1.1～1.4m)、旧耕土(約 20cm)、床土(約 4cm)で明黄色土ないし明黄色細砂質土の地山となっている。遺構は検出されなかったが、北端部、中央部及び南端部の 3 箇所で淡褐色砂質土・明灰色砂質土・暗褐色砂が堆積する自然流路を検出した。流路は、北端と中央部のものは南東方向に、南端部のものは南西方向にのびている。また、中央部では粘土採掘土坑による攪乱を受けていることが判明した。遺物は、流路に堆積する明灰色砂質土・暗褐色砂層から弥生時代末から古墳時代初頭の土器が出土した。また、北端の流路から柳葉式銅鏃 1 点が出土している。

9. まとめ

調査の結果、自然流路 3 本を検出した。また、調査地中央部で粘土採掘土坑が検出され、一帯は大規模な攪乱を受けていることが推測される。今回の調査で特筆されるのは柳葉式銅鏃 1 点が出土したことで、限られた範囲での調査であったが、鵜遺跡及び南に隣接して所在する鶴石田遺跡の性格を考えるうえで貴重な資料を得ることができた。

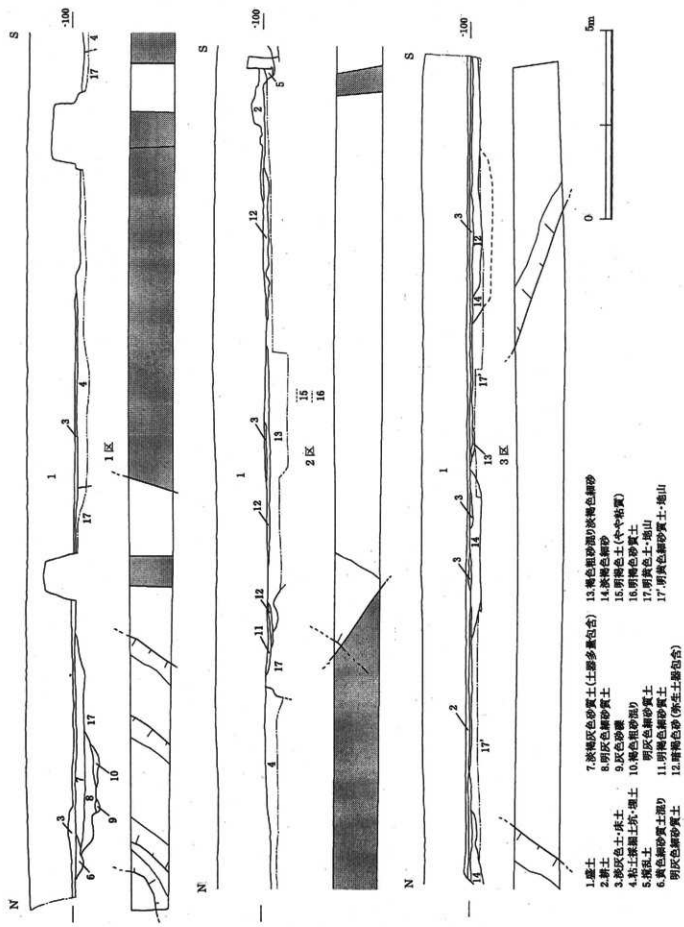


图 29 平面图・土層断面図

- 1. 盛土
- 2. 粘土
- 3. 灰白色土・床土
- 4. 粘土探掘土水・涌土
- 5. 深層土
- 6. 黄色細砂質土
- 7. 褐色細砂質土(土砂多量包含)
- 8. 明灰色細砂質土
- 9. 灰砂礫
- 10. 褐色粗砂礫
- 11. 明灰色細砂質土
- 12. 暗褐色砂(粘土土層包含)
- 13. 褐色粗砂礫の灰褐色細砂
- 14. 茶褐色細砂
- 15. 明褐色土(牛心粘質)
- 16. 明褐色砂質土
- 17. 明黄色土・崩山
- 17'. 明黄色細砂質土・崩山



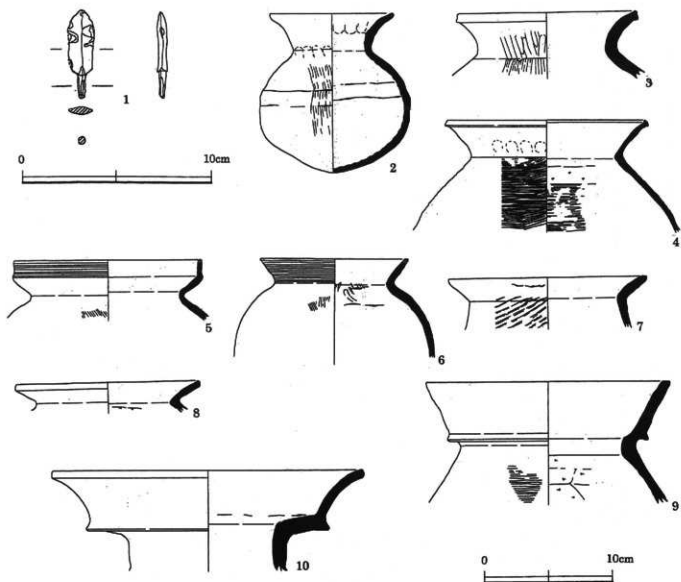
図 30 北端部(北より)



図 31 中央部(北西より)

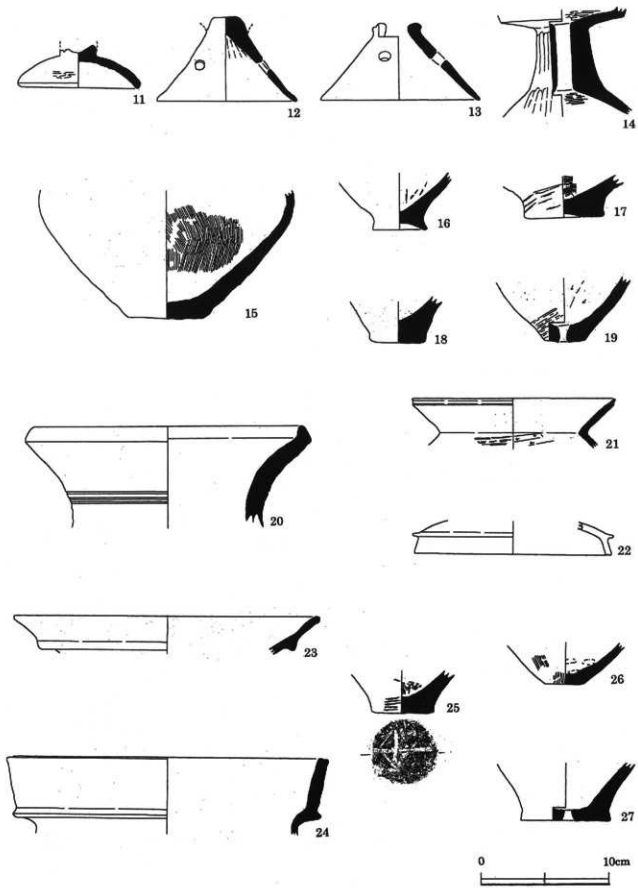


図 32 南端部(北より)



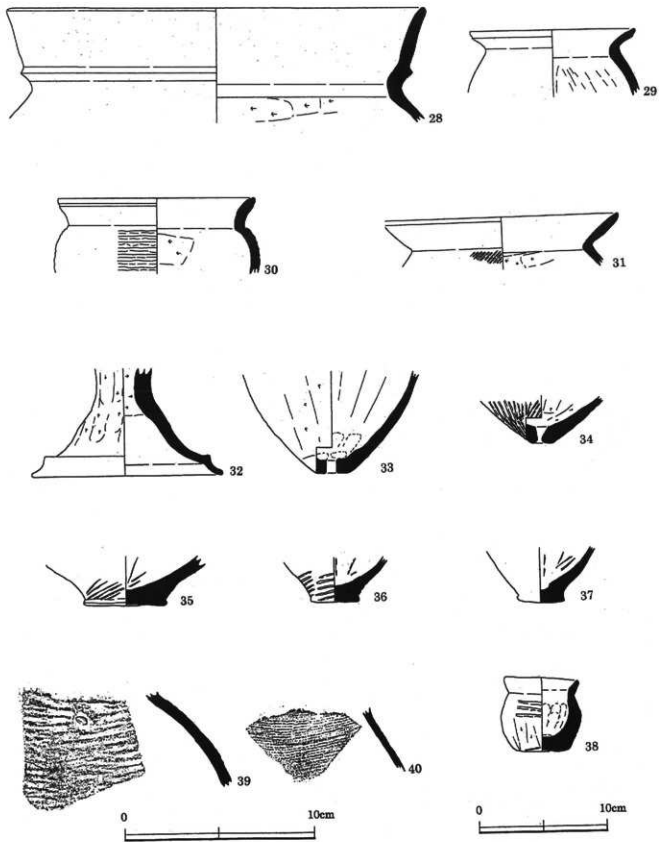
1区北端旧河道 (1~10)

図 33 出土遺物 (1)



1区北端旧河道 (11~19)、1区南端暗褐色砂质土 (20·21)、1区搅乱 (22)、2区暗褐色砂质土 (23~27)

图 34 出土遗物 (2)



3 区南端旧河道 (28~39)

图 35 出土遗物 (3)

鵜遺跡 (第23次調査)

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町鵜字久治田 1315-1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次
同 海野浩幸

4. 調査期間

平成 17 年 12 月 28 日～平成 18 年 2 月 13 日

5. 調査面積

69 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、調査位置図(1/1,000)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 02 秒)、東経(134 度 34 分 50 秒)



図 36 調査位置図(1/2,500)

7. 調査に至る経緯

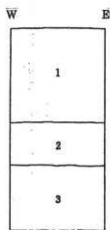
兵庫県西播磨県民局県土整備部龍野工事事務所による国道179号線バイパス工事及び都市計画道路鵜線道路改良工事に伴う水路改修工事が実施されることになった。工事箇所は、周地の埋蔵文化財である鵜遺跡の包蔵地内であるため、埋蔵文化財調査を実施することになったが、調査地は交通量が多いことから、立会調査を実施した。なお、調査は本来、兵庫県教育委員会が主体となり実施する所であるが、兵庫県教育委員会の時間的な調整がつかないことから、兵庫県教育委員会及び同埋蔵文化財調査事務所と協議のうえ、太子町教育委員会が調査を実施した。立会調査は、国道179号線鵜東交差点以北の16m区間と、都市計画道路鵜線の同交差点以東50mの区間について実施した。

8. 調査の概要

調査は、工事の工程にあわせて実施した。国道179号線バイパス工事部分の水路擁壁工事部分については、調査開始時にすでに工事が終了し埋戻し作業が実施されており、十分な調査が行えなかったが地表下1.5mで遺構面である黄色土・地山面を確認した。すでに工事が終了していたため、遺構の有無については確認することはできなかった。都市計画道路鵜線部分についても西側30m部分はすでに工事が終了しており、東側20m部分について調査を実施し、北側では現水路掘り方で、南側では国道2号線の擁壁により攪乱を受けていることが判明した。また、調査区北西部では近・現代の粘土採掘土坑による攪乱も確認された。遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

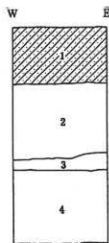
調査の結果、調査地は現水路及び国道擁壁掘り方等による攪乱を受けていることが確認された。また、周辺部で実施されてきた調査と同様に、近・現代の粘土採掘による攪乱も大規模に受けていることも確認された。



11.30

- 1.盛土
- 2.旧表土
- 3.土取跡攪乱

No.1 地点



11.30

- 1.真砂土
- 2.盛土
- 3.旧表土
- 4.土取跡攪乱

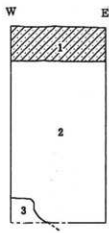
No.2 地点



11.30

- 1.真砂土
- 2.盛土
- 3.コンクリート
- 4.攪乱土
- 5.黄褐色土地山

No.3 地点



11.30

- 1.真砂土
- 2.盛土・攪乱土
- 3.地山

No.4 地点

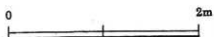


図 37 土層断面図

東保遺跡

1. 所在地

揖保郡太子町東保字中ノ壺 461-1 他 2 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 2 月 8 日～2 月 10 日

5. 調査面積

32 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、試掘坪配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 09 秒)、東経(134 度 35 分 21 秒)



図 38 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東保字中ノ壺 416-1 他 2 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である東保遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 10.10m 前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査地の 2×8m のトレンチを 2 本設定して実施した。調査地の土層は、上層から耕土(20cm)、黄灰色・床土(4～6cm)、明灰色土(18～22cm)、明灰色粘土(14～16cm)、明灰色粘土混じり黒灰色粘土(10～24cm)、明灰色粘土(20～30cm)、黒灰色粘土(22cm)で青灰色細砂質粘土あるいは青灰色粘土となっている。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されなかった。遺物は 2 トレンチの明灰色土から、土師器の小片 1 点が出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点は土層の状況からも低湿地状を呈していることが判明した。



図 39 土層断面図

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町太田字往田 1428-1 他 18 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 2 月 10 日～2 月 22 日

5. 調査面積

249 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 56 秒)、東経(134 度 36 分 19 秒)

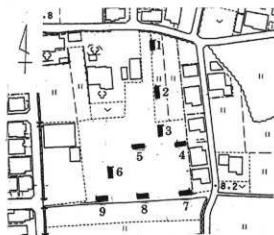


図 40 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字往田 1428-1 他 18 筆において、太子町太田農住組合による土地区画整理事業が計画され、同組合から埋蔵文化財の有無について照会があった。当該地は周知の埋蔵文化財の包蔵地ではないが、北方には太田田中遺跡及び原坂遺跡が、南方には川島遺跡が所在し、事前の分布調査で若干ではあるが弥生土器・須恵器等の遺物の散布が認められたため、教育委員会で分布調査の結果を踏まえ、太子町太田農住組合及び役場担当課と協議し、遺構及び遺物包含層の所在の有無を確認するため、試掘確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 8.65m 前後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、3×8m のトレンチ 9 箇所を街路予定部分に設定して実施した。調査地の土層は上層から、耕土(25～30cm)、黄灰色土～砂質土・床土(10～16cm)、黄色土(4～6cm)、明灰色粘質土(14～20cm)、灰色粘質土(6～10cm)、黒褐色～黒灰色粘質土(20～30cm)で明黄色粘質土・地山となっている。地山は一部還元されて明青色を呈している。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されなかった。遺物は、5 トレンチの黄灰色砂質土層から土師器片が数点出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物包含層は確認されず、遺物も流れ込みと考えられる土師器片が数点出土しただけである。土層の堆積状況から、調査地は低湿地状を呈しており、集落跡等の遺跡が存在する可能性は低いと考えられる。



図 41 1 トレンチ



図 42 3 トレンチ



図 43 9 トレンチ

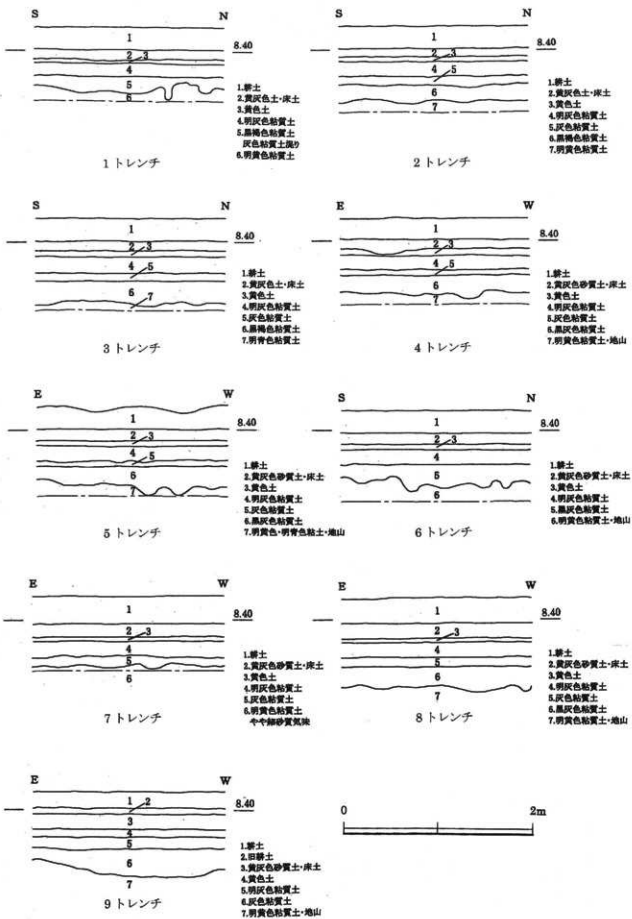


図 44 土層断面図

斑鳩小学校遺跡（第3次調査）

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町鶴字斑鳩寺 713 番

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 2 月 28 日～3 月 7 日

5. 調査面積

104 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、調査区配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 15 秒)、東経(134 度 34 分 39 秒)

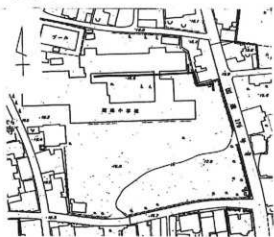


図 45 調査区配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立斑鳩小学校校舎北館の改築工事が計画され、工事に先立ち電気設備埋設工事が実施されることになった。工事予定箇所は周知の埋蔵文化財である斑鳩小学校遺跡の包蔵地内であるため遺物包含層及び遺構の状況を確認するため確認調査を実施した。埋設工事の概要は、北館校舎と南館校舎の間と、校舎東側に幅 1m、深さ 1m の掘り方で総延長約 100m の区間に電気ケーブルを埋設するものである。

8. 調査の概要

調査は、埋設工事の工程に合わせた立会調査として実施した。

調査地の土層は、校舎東側部分では上層から真砂土による校庭造成土(40～50cm)で造成盛土(70cm 以上)となっている。

掘削深度内で遺物包含層あるいは地山面には至らなかった。

南北校舎間では、東側約 15m 間は校舎東側部分と同様な土層の状況であったが、西側では上層からバラス層(10～20cm)、造成盛土(20～30cm)、旧耕土(16～20cm)、褐色砂質土(30～40cm)で黄褐色土・地山となっている。遺構・遺物とも検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、斑鳩小学校建築時に大規模な造成がおこなわれていることが確認された。今回の調査地点では、斑鳩小学校遺跡に関連する遺構・遺物は検出されなかった。



図 46 土層断面図

東保遺跡

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町東保字東川 310

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 3 月 7 日～3 月 8 日

5. 調査面積

70 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 06 秒)、東経(134 度 35 分 10 秒)

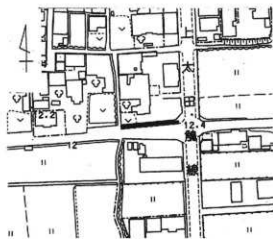


図 47 調査区配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町経済建設部街づくり課により、町道新町聖徳台線と県道上太田鳩線との接続部分の拡幅工事が計画され、工事予定地は周知の埋蔵文化財である東保遺跡の西に隣接することから、同遺跡の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地の現況は、標高 12m 前後を測る畑と宅地敷地である。

8. 調査の概要

調査は、工事の工程にあわせて立会調査を実施した。調査地の土層は、上層から真砂土・盛土(20～40cm)、耕土(16cm)、褐色土(6cm)で黄褐色・地山となっている。遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、遺構・遺物は検出されず、今回の調査地点までは東保遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

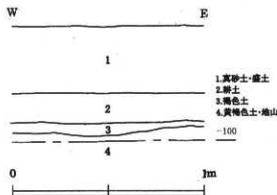


図 48 土層断面図

II 平成 18 年度調査概要

平成 18 年度では、13 件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が 10 件、公共事業に伴う本発掘調査が 1 件、分布調査が 2 件である。そのうち、6 箇所の民間開発事業に伴う試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表 2 平成 18 年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺 跡 名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調 査 期 間	備 考
1	斑鳩小学校遺跡 (第 4・5 次調査)	船字斑鳩寺	小学校校舎改築工事 受託事業	13039	730	平成 18 年 5 月 21 日 ～7 月 14 日	本書掲載 公共事業
2	松尾遺跡	松尾字大門	個人住宅建築 国庫補助事業	1361	84	平成 18 年 7 月 26 日 ～7 月 31 日	文化財資料 第 74 集
3	東南遺跡 (第 23 次調査)	船字橋ノ内	宅地造成 国庫補助事業	2365.39	132	平成 18 年 8 月 1 日 ～8 月 9 日	文化財資料 第 74 集
4	糸井字村ノ北	糸井字村ノ北	宅地造成 国庫補助事業	1934.99	84	平成 18 年 8 月 8 日 ～8 月 11 日	文化財資料 第 74 集
5	東保高田遺跡	東保字高田	宅地造成 国庫補助事業	2100	53	平成 18 年 8 月 28 日 ～9 月 1 日	文化財資料 第 74 集
6	立岡南遺跡 (第 4 次調査)	立岡字山崎	宅地造成 国庫補助事業	2050.11	32	平成 18 年 9 月 21 日 ～9 月 26 日	文化財資料 第 74 集
7	東南遺跡 (第 24 次調査)	船字橋ノ内	宅地造成 国庫補助事業	1241.80	118	平成 18 年 10 月 17 日 ～10 月 26 日	文化財資料 第 74 集
8	東南字羽子田	東南字羽子田	店舗建設	2121.9	18	平成 18 年 10 月 27 日 ～11 月 2 日	本書掲載
9	栗原遺跡	東南字栗原	宅地造成	1232.31	24	平成 18 年 11 月 2 日 ～11 月 8 日	本書掲載
10	吉福遺跡周辺分布調査	吉副字宮ノ前 他	都市計画道路整備	16,150	16,150	平成 18 年 11 月 6 日 ～11 月 8 日	本書掲載 公共事業
11	川島遺跡	太田字五反田	宅地造成	820.86	68.3	平成 18 年 11 月 27 日 ～11 月 29 日	本書掲載
12	上太田石垣遺跡 周辺分布調査	上太田字備前谷 他	近代遺跡分布調査			平成 18 年 12 月 4 日 ～12 月 8 日	未掲載
13	田中遺跡	太田字ツンボリ	宅地造成	3656.72	125	平成 19 年 2 月 21 日 ～2 月 27 日	本書掲載



図 49 平成 18 年度調査位置図

斑鳩小学校遺跡（第4次・第5次調査）

1. 遺跡の所在地

兵庫県揖保郡太子町鶴字斑鳩寺 713

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

第4次調査 平成18年5月9日～5月19日

第5次調査 平成18年5月21日～7月14日

5. 調査面積

730 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺構実測図(1/20、1/40)、遺物実測図(1/1)、航空写真測量(1/40、1/100)

写真記録(カラーリバーサル 35mm、カラーネガ 120mm・3×4版、デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分15秒)、東経(134度34分38秒)

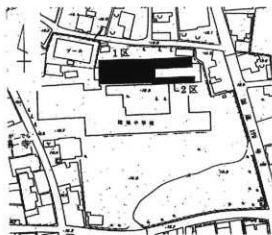


図50 調査区配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立斑鳩小学校校舎北館の改築工事が計画され、同小学校は周知の埋蔵文化財である斑鳩小学校遺跡の包蔵地内であり、また昭和60年度に実施した校舎北西に隣接する屋外プールの建設に伴う発掘調査では、斑鳩寺の子院の一つである等覚坊(青龍院)跡の遺構が検出されており、今回の校舎部分にも等覚坊(青龍院)跡とその東に所在した禅林院跡の遺構が広がることが予測されるため、発掘調査を実施した。なお、調査地の標高は15.20m前後を測る。

8. 第4次調査の概要

第4次調査として、5月9日から19日にかけて現校舎解体工事時に立会調査を実施した。調査の結果、電気ケーブル埋設時の立会調査(第3次調査)の結果と同様、校舎東半部では斑鳩小学校建設時の造成及び旧校舎解体時、現校舎基礎等の攪乱が大規模に及んでいることが確認された。

9. 第5次調査の概要

第5次調査は、校舎新築部分について発掘調査を実施した。調査区を設定するにあたって、第4次調査の結果を踏まえて残土置場の関係から、西側に14×35m、攪乱の著しい東側では、東北部に7×28mのかぎ型に調査区1を設定し、東南側については、西及び東北部の調査終了埋め戻し後3×32mの調査区2を設定して調査を行った。

調査地の土層は、西半部では上層から造成盛土(70～100cm)、旧耕土(20cm)、暗灰褐色土・一部弥生式土器包含(約20cm)で黄色土・地山となっている。東半部では、旧耕土下層で明褐色細砂ないし褐色砂礫となっており、旧河道状の堆積状況を示している。

検出した遺構のほとんどは調査区1西半部からで、土坑23基、井戸1基、溝2条、柱穴28基等である。ほとんどの遺構は江戸期末以降のもので、土坑には集石を伴うもの1基(土坑12)、土層の観察から

水溜めと考えられるもの2基(土坑6・7)がある。柱穴には根石を伴うものも含まれるが、建物としてまとまるものは無かった。調査区1中央部北端で検出された井戸は、埋土中に板ガラス片・モルタル片が混入しており、現校舎への改築時まで使用されていたものであった。溝2は調査区1中央部で検出され、南北に走り、幅3.3m、深さ1.0mを測る。明治6年に作成された「播磨国揖東郡鵜村絵図」に描かれる水路に該当するものと考えられ、旧斑鳩小学校校建設の造成に際して埋め立てられたと考えられる。

調査区2では攪乱が著しく、遺構面はほとんど残っていなかった。

遺物は土坑、溝から近世陶磁器・備前焼・瓦・石臼等が出土した。また、東半部の旧河道状堆積砂礫層から弥生土器・土師器・須恵器が出土した。

10. まとめ

調査の結果、調査地は、旧斑鳩小学校校舎解体や、現校舎建設に伴う攪乱を受けていることが再確認された。特に調査区東半部は斑鳩小学校校建設時に大規模な造成が行われ、それに伴う攪乱を著しく受けていた。当初予測された等覚坊(青龍院)及び禅林院に関連する遺構は検出されなかったが、調査区1中央部で明治6年作成の「播磨国揖東郡鵜村絵図」に描かれている水路に該当すると思われる南北溝を検出することができた。鵜村絵図と、当時の町割を復原する上で貴重資料を得ることができた。

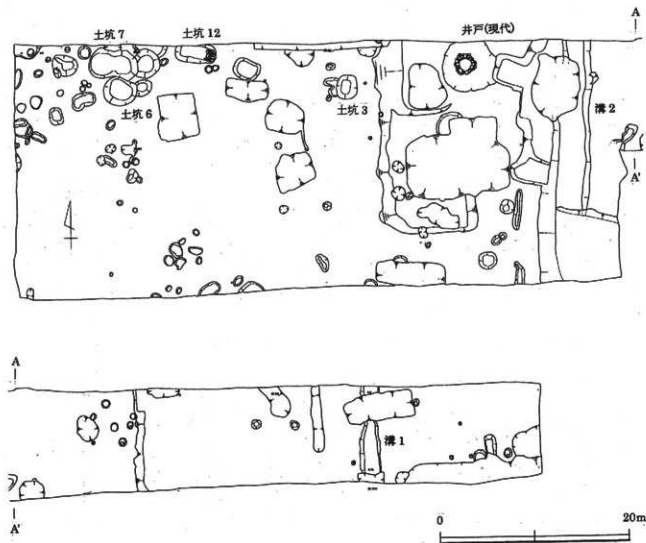
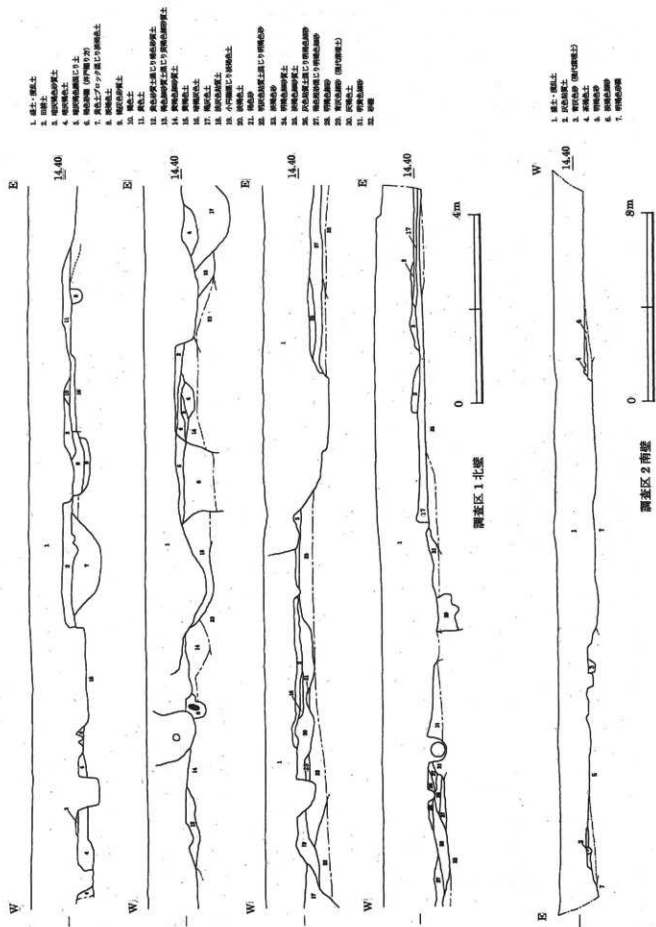


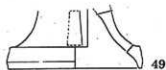
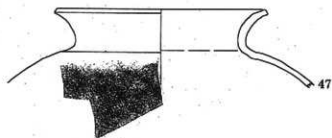
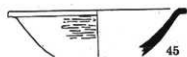
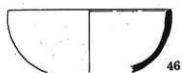
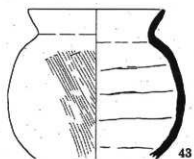
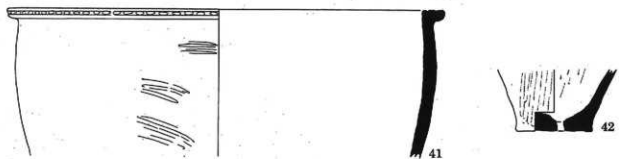
図51 調査区1遺構配置図



1. 粘土・硬底土
2. 砂粘土
3. 砂質粘土
4. 砂質粘板岩土
5. 砂質粘板岩土
6. 砂質粘板岩土 (砂質粘板岩)
7. 黄色土・粘板岩土
8. 粘板岩土
9. 砂質粘板岩土
10. 砂質粘板岩土
11. 砂質粘板岩土
12. 砂質粘板岩土
13. 砂質粘板岩土
14. 砂質粘板岩土
15. 砂質粘板岩土
16. 砂質粘板岩土
17. 砂質粘板岩土
18. 砂質粘板岩土
19. 砂質粘板岩土
20. 砂質粘板岩土
21. 砂質粘板岩土
22. 砂質粘板岩土
23. 砂質粘板岩土
24. 砂質粘板岩土
25. 砂質粘板岩土
26. 砂質粘板岩土
27. 砂質粘板岩土
28. 砂質粘板岩土
29. 砂質粘板岩土
30. 砂質粘板岩土
31. 砂質粘板岩土
32. 砂質粘板岩土

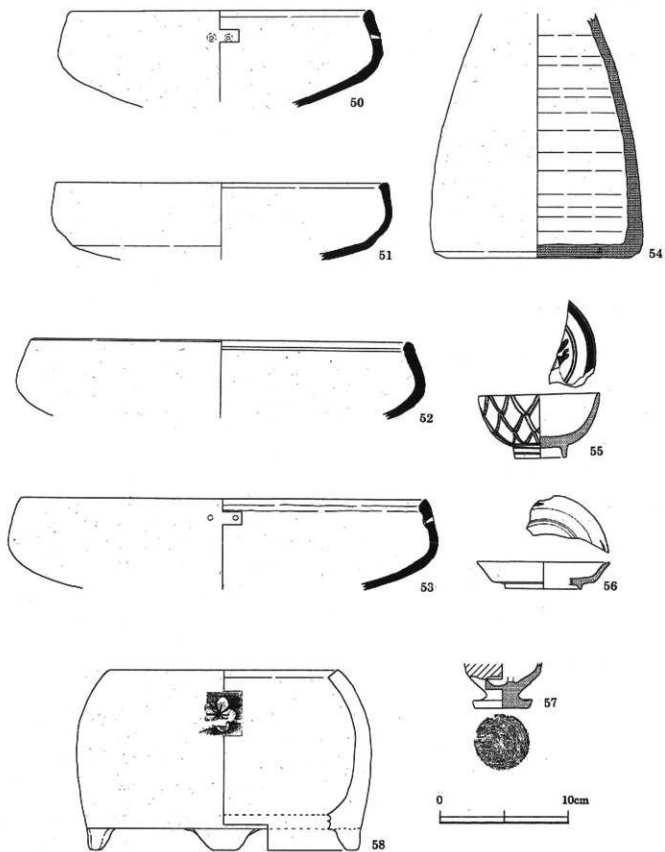
1. 粘土・硬底土
2. 砂粘土
3. 砂質粘土
4. 砂質粘板岩土
5. 砂質粘板岩土
6. 砂質粘板岩土
7. 砂質粘板岩土

图 52 土層断面图



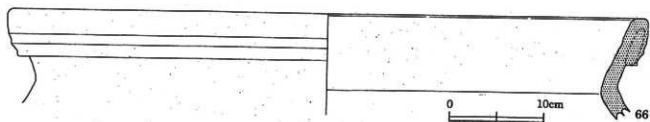
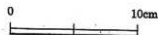
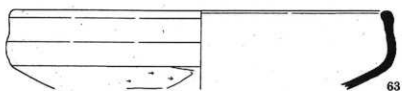
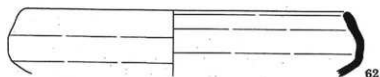
調査区1・東砂礫層 (41~49)

图 53 出土遺物 (1)



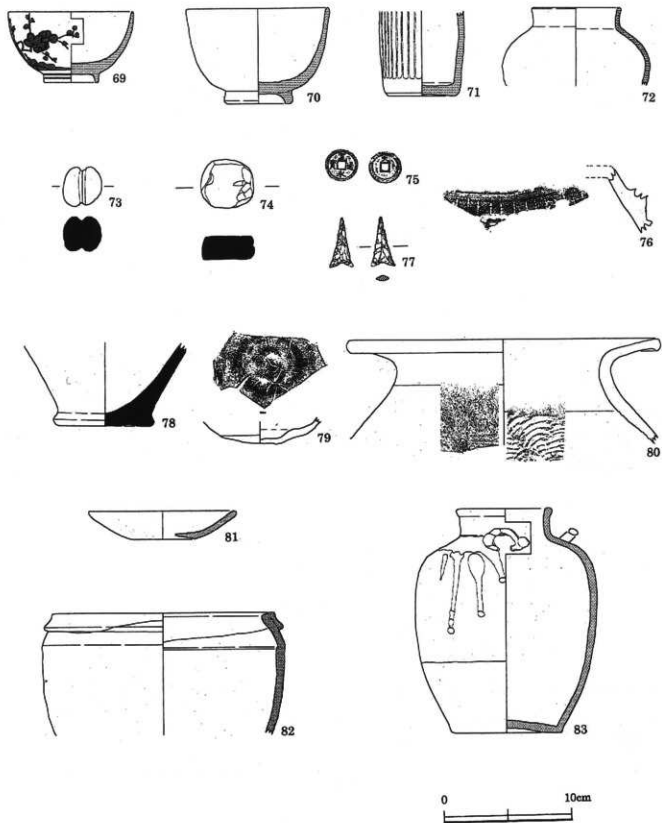
土坑 3 (50~53)、土坑 6 (54~58)

图 54 出土遗物 (2)



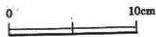
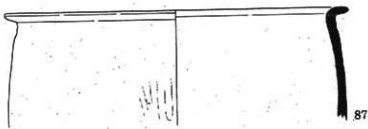
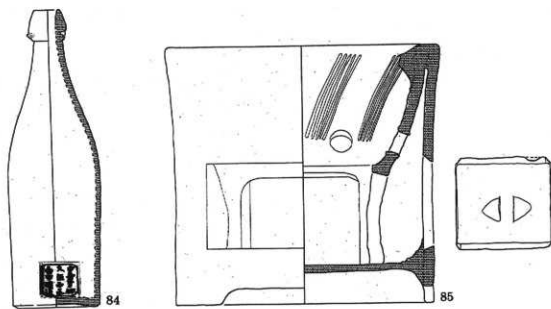
土坑 7 (59)、溝 1 (60·61)、溝 2 (62~68)

图 55 出土遺物 (3)



溝 2 (69~74)、井戸 (75)、遺構面 (76・77)、攪乱 (78~81)

图 56 出土遺物 (4)



搅乱 (84·85)、調査区 2 (86~91)

图 57 出土遺物 (5)

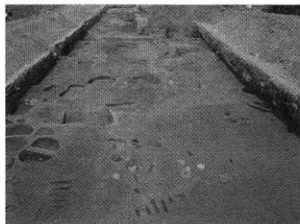


図 58 調査区 1 全景 (西より)

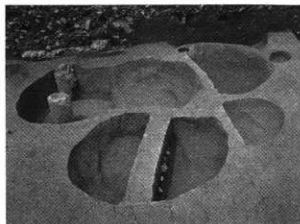


図 59 土坑 6 (手前)・7 (南より)



図 60 土坑 12 (南より)



図 61 溝 2 (南より)



図 62 井戸 (南より)



図 63 調査区 2 全景 (西より)

東南字羽子田

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東南字羽子田 383-2、385-1 の一部

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 10 月 27 日～11 月 1 日

5. 調査面積

18 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 48 秒)、東経(134 度 35 分 13 秒)

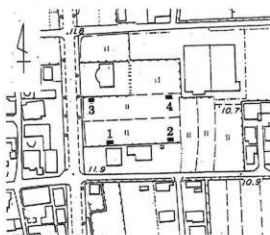


図 64 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東南字羽子田 383-2 及び 385-1 の一部において店舗建設が計画され、建設予定地は周知の埋蔵文化財の包蔵地外であるが、南東約 200m の地点に周知の埋蔵文化財である栗原遺跡が所在することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため試掘調査を実施した。調査地の現況は、標高 10.80m 全後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、1.5×3m のトレンチを 4 本設定して実施した。調査地の土層は、1・4 トレンチでは上層から耕土(20cm)、淡灰褐色土・床土(8～20cm)、暗褐色土(20～26cm)で黄褐色土・地山となる。2 トレンチでは上層から耕土(26cm)、淡灰褐色土・床土(20cm)で黄褐色土・地山となり、さらに約 20cm 下層で砂礫層となる。3 トレンチでは上層から耕土(24cm)、暗褐色土(16～34cm)黄褐色土・地山となる。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、栗原遺跡に関連する遺構及び遺物は検出されず、今回の調査地点までは栗原遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。

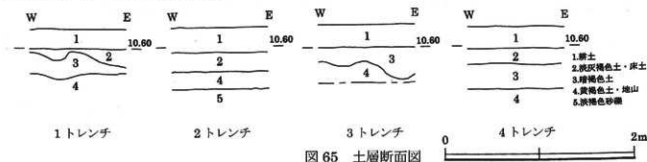


図 65 土層断面図

栗原遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東南宇栗原 412-1、413-3

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 11 月 2 日～11 月 8 日

5. 調査面積

24 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 44 秒)、東経(134 度 35 分 19 秒)

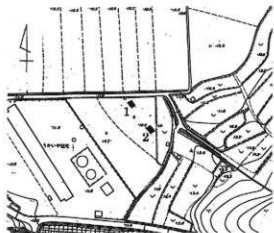


図 66 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東南宇栗原 412-1 及び 413-3 において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である栗原遺跡の包蔵地内であるため、遺構及び遺物包含層の有無について確認するため確認調査を実施した。調査地周辺は、標高 10.70m 全後を測る水田であるが、調査地は近年に盛土造成され標高 11.00m を測り、畑として耕作されている。

8. 調査の概要

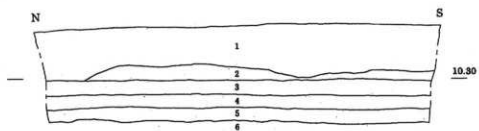
調査は、2×5m のトレンチを 2 本設定して実施したが、南側の檀特山寄りに設定した 2 トレンチは土層の確認のため北側へ 2m 拡張した。なお、今回の調査には平成 18 年度トライやるウィークの活動として太子町立東中学校生 2 名が参加した。

調査地の土層は、上層から現耕土及び盛土(60cm)、旧耕土(20cm)、旧床土(8cm)、淡灰色粘質土(20cm)、灰色粘質土(20cm)で北側の 1 トレンチでは黄白色粘質土、南側の 2 トレンチでは白色岩崩土の地山となる。2 トレンチの白色岩崩土は、トレンチ南端から約 7m 付近から黄白色粘質土へ移行している。

各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

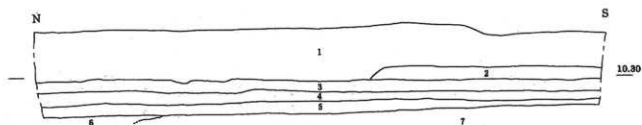
9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点では栗原遺跡に関連する遺構・遺物包含層は確認されなかった。



- 1. 雑土・埴餅土
- 2. 埴餅土
- 3. 灰黄灰色土・田床土
- 4. 灰灰色粘質土
- 5. 灰色粘質土
- 6. 黄白色粘質土・堆山

1トレンチ



- 1. 雑土・埴餅土
- 2. 埴餅土
- 3. 灰黄灰色土・田床土
- 4. 灰灰色粘質土
- 5. 灰色粘質土
- 6. 黄白色粘質土・樹根角
露出
- 7. 白色粘質土

2トレンチ

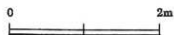


図 67 土層断面図

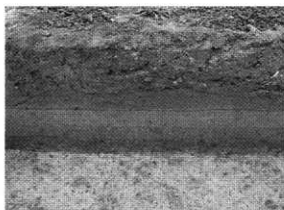


図 68 1トレンチ

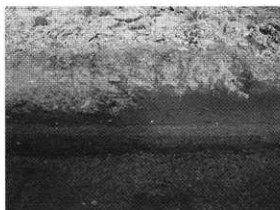


図 69 2トレンチ

吉福遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町吉福及び沖代地内

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 11 月 6 日～11 月 8 日

5. 調査面積

16,150 m²

6. 記録作成

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 48 分 32 秒～34 度 48 分 36 秒)、東経(134 度 33 分 37 秒～134 度 34 分 10 秒)



図 70 調査位置図(1/20,000)

7. 調査に至る経過

太子町経済建設部街づくり課により太子町吉福及び沖代地内において都市計画道路揖保線の整備が計画され、計画路線内には周知の埋蔵文化財である吉福遺跡と吉福西遺跡が所在することか計画路線内の分布調査を実施した。調査には平成 18 年度トライやる・ウィークとして、太子町立東中学校 2 年生 2 名が参加した。

8. 調査の概要

調査は、計画路線内の水田及び畑作地の地表面の遺物散布状況の確認を主に実施した。

調査の結果、吉福遺跡の包蔵地周辺で須恵器片数点を採集したが、吉福西遺跡の包蔵地周辺では遺物の散布は確認できなかった。また、路線東部の沖代地区では、旧河道の痕跡と考えられる 1m 近い水田面の高低差が認められる箇所が存在する。次年度では、分布調査の結果をもとに計画路線内の試掘確認調査を実施する予定である。



図 71 吉福地区(東より)



図 72 沖代地区(東より)



図 73 旧河道痕跡(南西より)

川島遺跡

1. 遺跡の所在地

摂保郡太子町太田字南五反田 1752-1

2. 調査機関

摂保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 18 年 11 月 27 日～11 月 29 日

5. 調査面積

68.3 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/200)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 45 秒)、東経(134 度 36 分 07 秒)



図 74 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字南五反田 1752-1 において共同住宅建築が計画され、建築予定地は周知の埋蔵文化財である川島遺跡の包蔵地内であるため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地の現況は、標高 8.60m 全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、1.5×5m のトレンチ 4 本を設定して実施した。なお、3 トレンチは土層の確認のため、西側へ 3m の拡張を行った。調査地の土層は西側に設定した 1・2 トレンチでは、上層から畦畔盛土(20～30cm)、耕土(26cm)、明灰黄色細砂質土・床土(8～14cm)、明灰色粘質土(18cm)、灰色粘質土混じり明黄色粘質土(20cm)でやや砂質気味明黄色粘質土・地山となっている。3 トレンチでは、上層から耕土(20cm)、明灰黄色細砂質土・床土(30cm)、明灰色粘質土(10cm)、淡灰色粘質土(10～40cm)、灰色粘質土(20～30cm)、黒灰色粘質土(20cm)で黄色粘質土・地山となる。東端に設定した 4 トレンチでは、上層から耕土(24cm)、淡灰色砂質土・旧耕土(10cm)、明灰黄色細砂質土・床土(20cm)、明灰色粘質土(16～20cm)、明灰色粗砂(10～14cm)、暗灰色粘質土(20～30cm)、褐灰色粘質土(20cm)、黒灰色粘質土(30cm)で青灰色粘質土となっており、黄色土の地山面は検出されなかった。ボーリングステッキによる検索では、青灰色粘質土は 1m 以上の深さであることが確認された。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されなかったが、遺物は 4 トレンチの明灰黄色細砂質土・床土から須恵器片 1 点が出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、調査地東側は旧河道流路であることが確認された。遺構は検出されず、遺物も須恵器片 1 点が出土しただけで、今回の調査地点は川島遺跡の立地する微高地の北東端部にあたると考えられる。

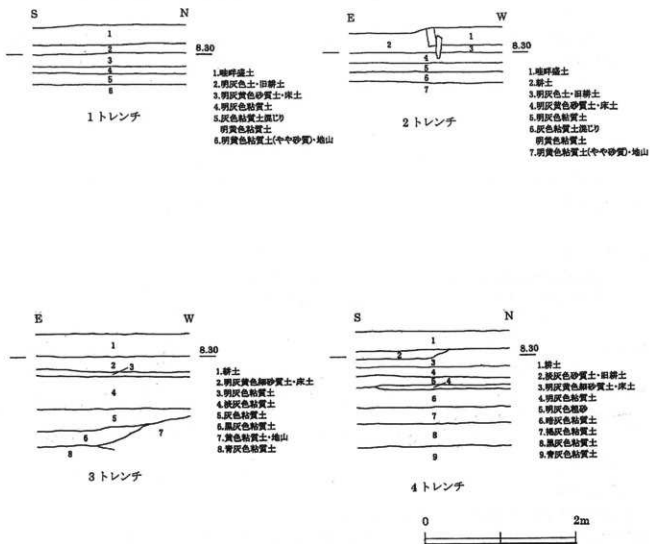


図 75 土層断面図



図 76 1トレンチ



図 77 2トレンチ



図 78 3トレンチ



図 79 4トレンチ

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字ツンボリ 726-1 他 8 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 19 年 2 月 21 日～2 月 27 日

5. 調査面積

125 ㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 03 秒)、東経(134 度 36 分 12 秒)

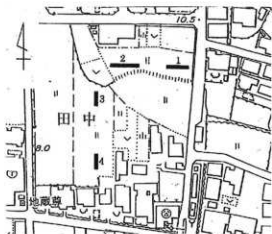


図 80 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字ツンボリ 726-1 他 8 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である田中遺跡の包蔵地内であるため、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地の現況は水田で、北東部は標高 9.70m 前後、西部は標高 8.70m 前後を測り、1m 前後の比高差がある。

8. 調査の概要

調査は、北東部の高台に 2×15m のトレンチ 1 箇所(1 トレンチ)、2×20m のトレンチ 1 箇所(2 トレンチ)、西部の低い水田に 2×10m のトレンチ 2 箇所(3・4 トレンチ)の計 4 本を設定して実施した。

調査地の土層は、北東端に設定した 1 トレンチでは上層から耕土(20cm)、黄色砂質土・床土(10cm)、明褐色砂質土(10cm)、明灰色砂質土(20～40cm)、灰色粘質土(6～28cm)、暗灰色粘質土(14～24cm)、明灰色砂(4～18cm)、暗褐色灰色粘質土(20～30)で黄色砂質土・地山となっているが、地山面はトレンチ西端から約 1m 付近から東側へ落ち込んでおり、灰白色砂となっている。

2 トレンチでは上層から耕土(20cm)、黄色砂質土・床土(6～10cm)、明褐色砂質土(8～14cm)、灰色粘質土混じり灰色砂質土(8～16cm)で黄色砂質土・地山となっている。地山面は、西側へ緩く傾斜している。西部の低い水田では、3 トレンチでは上層から耕土(25cm)、黄灰色砂質土・床土(20cm)で黄白色粘質土・地山となっているが、トレンチ北端から約 3m 付近から南側へ落ち込んで、灰色粘質土混じり灰色砂質土(30cm)、明灰色細砂(30cm)が堆積しており、南端では最下層が明青灰色粘質土となっている。南西端に設定した 4 トレンチでは上層から耕土(25cm)、黄灰色砂質土・床土(28cm)、明灰色粘質土(30～34cm)、明灰色細砂(20cm)、灰色粘質土混じり明褐色細砂(50cm)で青灰色細砂質土となっている。

各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されなかった。遺物は、1～3 トレンチの黄灰色砂質土・床土から弥生土器、土師器、須恵器の小片が出土した。

9. まとめ

調査の結果、遺構は検出されず、遺物も流れ込みと考えられる弥生式土器・土師器・須恵器の小片が出土しただけである。調査地の現況は北東部と南西部とで1mの比高差が認められるが、旧地形は東と南側へ落ち込み、低湿地状を呈することが確認された。今回の調査地点は、田中遺跡の南西縁辺部に位置すると考えられる。

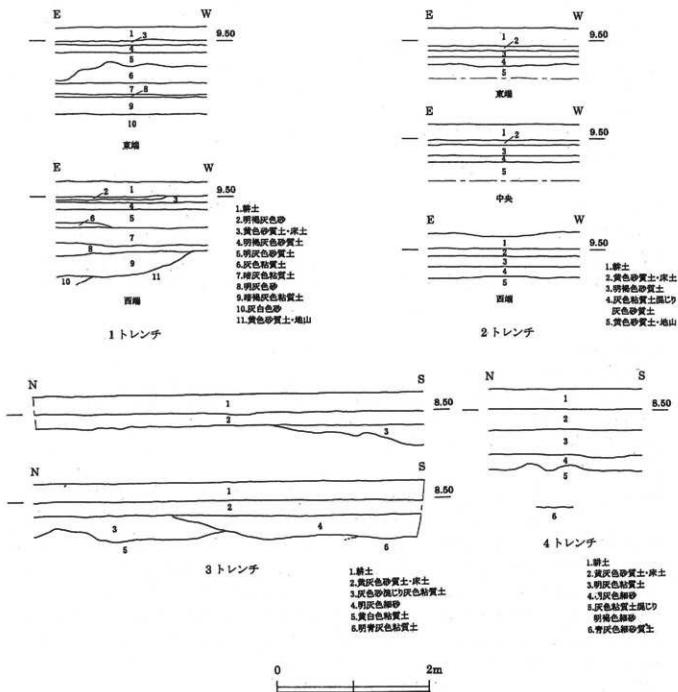
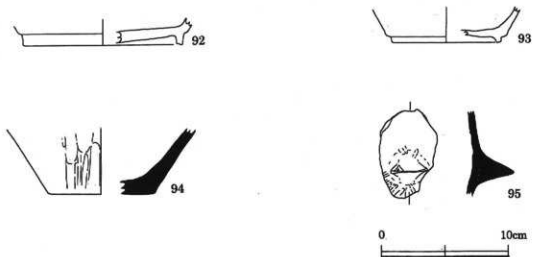


図 81 土層断面図



1トレンチ (92・93)、3トレンチ (94・95)

図 82 出土遺物

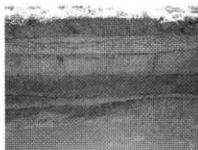


図 83 1トレンチ



図 84 2トレンチ



図 85 3トレンチ



図 86 4トレンチ

Ⅲ 平成19年度調査概要

平成19年度では、10件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が9件、公共事業に伴う試掘確認調査が1件である。そのうち、9箇所の民間開発事業に伴う試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表3 平成19年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	川島遺跡	太田字落久保	宅地造成 国庫補助事業	1043.96	40	平成19年5月7日 ～5月9日	文化財資料 第74集
2	城山遺跡	鷺字城山前	個人住宅建築 国庫補助事業	1080	115.4	平成19年5月26日 ～6月7日	文化財資料 第74集
3	沖代遺跡	沖代字苗代町	診療所建設 国庫補助事業	1793.07	60.4	平成19年7月4日 ～7月6日	文化財資料 第74集
4	東南字田屋	東南字田屋	宅地開発 国庫補助事業	1168.45	16	平成19年9月13日 ～9月18日	文化財資料 第74集
5	吉福西遺跡 他 (第1次調査)	吉福字ウチナウケ 他	都市計画道路 整備	16150 (950m)	177.84	平成19年10月29日 ～12月7日	本書掲載 公共事業
6	王子遺跡	王子字前田	個人住宅建築 国庫補助事業	483	23	平成19年11月19日 ～11月21日	文化財資料 第74集
7	斑鳩寺南遺跡	鷺字秋貞 他	店舗建設 国庫補助事業	3504.13	75	平成19年11月26日 ～11月29日	文化財資料 第74集
8	樋ノ上遺跡	馬場字樋ノ上	宅地造成 国庫補助事業	6321.74	121	平成20年1月9日 ～1月15日	文化財資料 第74集
9	矢田部遺跡	矢田部字南角	宅地造成 国庫補助事業	3945	41	平成20年1月21日 ～1月25日	文化財資料 第74集
10	鷺遺跡 (第24次調査)	東保字高田	宅地造成 国庫補助事業	880	16	平成20年3月21日 ～3月25日	本書未掲載



図 87 平成 19 年度調査位置図

吉福西遺跡（第1次調査）

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町吉福及び沖代地内

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成19年10月27日～12月7日

5. 調査面積

117.84 m²

6. 記録作成

遺構実測図(1/20)、土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、試掘坪配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影・カラーリバーサル 35mm)

北緯(34度48分32秒～34度48分36秒)、東経(134度33分37秒～134度34分10秒)



図88 調査位置図(1/20,000)

7. 調査に至る経過

太子町経済建設部街づくり課により都市計画道路揖保線整備が計画され、計画路線内には周知の埋蔵文化財である吉福遺跡と吉福西遺跡が存在することから両遺跡の範囲確認を目的に試掘確認調査を実施した。前年度に実施した分布調査では、吉福遺跡の包蔵地周辺で須恵器片数点を採集している。また、吉福西遺跡については昭和51年(1976)頃、吉福八幡神社の西北に所在する太子町吉福水源地で、奈良時代の古瓦片等の採集が報告されている。調査地の現況は、標高4.8～7.6m前後を測る水田・畑及び造成地である。なお、調査には平成19年度トライやる・ウィークとして、太子町立東中学校2年生2名と同西中学校2年生3名が参加した。

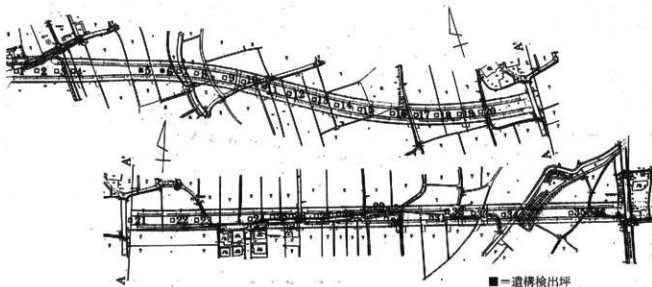


図89 試掘坪配置図(1/4,000)

8. 調査の概要

調査は、計画路線長 950m間の道路センターに2×2mの試掘坪を、原則として20m間隔に50箇所を設定して実施する予定であったが、蓮根畑や用地未買収等による調査不可能部分を除く36箇所の調査となった。試掘坪は、西側から順に番号を付した。以下に各試掘坪の概要を記す。

No.1 坪 調査地西端の標高7.6m前後を測る造成地で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、盛土(1.4m)、耕土(16cm)、黄灰色土・床土(14cm)で淡褐色砂質土・地山となり、20cm下層で明褐色砂礫となっている。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.2 坪 調査地西端の標高7.6m前後を測る造成地で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、盛土(1.6m)、耕土(14cm)、黄灰色土・床土(12cm)で淡褐色砂質土・地山となり、20cm下層で明褐色砂礫となっている。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.3 坪 調査地西端の標高7.6m前後を測る造成地で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、盛土(1.3m)、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(12cm)で明褐色細砂質土(6cm)で淡褐色細砂質土・地山となり、40cm下層で明褐色粗砂となっている。遺構・遺物は検出されなかった。

No.4 坪 標高6.2m前後を測る休耕地で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、明黄灰色土・床土(22cm)で淡褐色細砂質土・地山となり、50cm下層で明褐色粗砂となっている。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.5 坪 標高6.2m前後を測る水田で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(12cm)、灰褐色砂質土(16cm)で淡褐色土・地山となる。遺構は、地山面でビット3基が検出された。遺物は、灰褐色砂質土から土師器・須恵器の小片が出土した。

No.6 坪 標高6.1m前後を測る水田で、吉福西遺跡の包蔵地内に設定した坪である。上層から、耕土(16cm)、黄灰色土・床土(6cm)、灰褐色砂質土(28cm)で淡褐色土・地山となる。遺構は、地山面でビット3基が検出された。遺物は、灰褐色砂質土から土師器・須恵器の小片が出土した。

No.7 坪 雨水8号幹線の西岸の標高5.4m前後を測る休耕地に設定した坪で、西側のNo.6坪を設定した水田とは約1mの比高差がある。上層から、耕土(18cm)、灰色砂質土(20cm)、淡灰色砂質土(32cm)で灰色砂礫となっており、河道状の堆積状況を示している。遺物は、灰色砂質土から須恵器片が出土した。遺構は検出されなかった。

No.8 坪 雨水8号幹線の東岸の標高5.4m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(16cm)、淡褐色細砂質土(24cm)、淡灰色細砂(12cm)、灰色粘質土(30cm)、黄褐色粘質土(10cm)で褐色砂礫となっており、河道状の堆積状況を示している。遺物は、淡褐色細砂質土から須恵器片が出土した。遺構は検出されなかった。

No.9 坪 標高5.7m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(10cm)、淡灰色細砂質土(12cm)、黄灰色粘質土(4cm)、淡褐色土(6cm)、淡褐色細砂質土(10cm)で淡灰色粗砂となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.10 坪 標高5.7m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(18cm)で明褐色砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.11 坪 標高5.7m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(4cm)、黄褐色砂質土(8cm)で明褐色細砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.12 坪 標高5.8m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(18cm)、黄灰色土・床土(20cm)、黄褐色砂質土(6cm)で明褐色細砂質土・地山となり、さらに約12cm下層で明褐色砂礫となる。遺構・

遺物は、検出されなかった。

No.13 坪 標高 5.8m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から耕土(18cm)、黄灰色土・床土(18cm)、黄褐色土(4cm)で明褐色細砂質土・地山となり、さらに約 26cm 下層で明褐色砂礫となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.14 坪 標高 5.8m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(16cm)、淡褐色灰色砂質土(5cm)で褐色砂礫・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.15 坪 標高 5.8m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡褐色灰色土(14cm)、淡褐色砂質土(8 cm)で褐色砂礫・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.16 坪 標高 5.8m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡黄灰色土(14cm)で褐色砂質土・地山となり、さらに約 20cm 下層で褐色砂礫となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.17 坪 標高 5.7m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から耕土(20cm)、黄灰色土・床土(12cm)で明褐色細砂質土・地山となり、さらに約 1.3m で明青灰色細砂質粘土となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.18 坪 標高 5.7m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(16cm)、黄灰色土・床土(10cm)で明褐色細砂質土・地山となり、さらに約 60cm 下層で砂礫となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.19 坪 標高 5.7m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(12cm)、明灰色粘質土(6cm)、黄色細砂質土(10cm)で明褐色細砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.20 坪 標高 5.7m 前後を測る水田で、吉福遺跡の南側に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(18cm)、明灰色粘質土(16cm)、淡黄灰色土(10cm)、明灰色細砂質土(10cm)、黄色細砂質土(10cm)で明褐色細砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.21 坪 標高 5.7m 前後を測る休耕田で、吉福遺跡の南側に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡灰色土・旧耕土(14cm)、黄色土・床土(8cm)、淡灰色細砂質土(34~40cm)で明褐色細砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.22 坪 標高 5.7m 前後を測る水田で、吉福遺跡の南側に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡灰色土・旧耕土(10cm)、黄灰色土・床土(14cm)、淡褐色灰色粘質土(20cm)、淡灰色粘質土(38cm)で青灰色細砂質粘土となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.23 坪 標高 5.7m 前後を測る水田で、吉福遺跡の南側に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡灰色土・旧耕土(10cm)、黄灰色土・床土(16cm)、淡褐色灰色粘質土(14cm)、淡灰色粘質土(26~40cm)で明褐色粘質土となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.24 坪 標高 6.2m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄色粘質土・床土(6cm)、淡褐色砂質土(26cm)で明褐色砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.25 坪 標高 6.2m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(22cm)、黄色粘質土・床土(4cm)、淡褐色砂質土(14cm)で明褐色砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.26 坪 標高 6.2m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(18cm)、黄色粘質土・床土(4~10cm)、淡茶褐色土(24~28cm)で明褐色土・地山となる。地山を断ち割ったところ、地表下約 60cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.27 坪 標高 6.2m 前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(18~22cm)、淡茶褐色土(24~30cm)で明褐色土・地山となる。地表下約 60cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.28 坪 標高 6.2m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(24cm)、黄灰色土・床土(20～26cm)、淡茶褐色土(30cm)で明褐色土・地山となる。地表下約 66cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.29 坪 標高 6.1m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(24cm)、黄色土・床土(8cm)、淡褐色土(12～18cm)、淡茶褐色土(20～24cm)で明褐色土・地山となる。地表下約 70cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.30 坪 標高 5.0m前後を測る休耕地に設定した坪で、この試掘坪以東の耕土面の標高は、No.29 坪を設定した水田とは約 1m の比高差がある。上層から、耕土(18cm)、黄灰色土・床土(8cm)、灰色粘質土・黄色粘質土ブロック混じり淡茶褐色粘質土(16～30cm)、黄灰色粘質土(12～20cm)、明黄灰色粘質土(18cm)、明灰色粘質土(34cm)で明青灰色粘質土となり、河道状の堆積状況を示している。地表下約 60cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.31 坪 標高 4.9m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡褐色砂質土・床土(12cm)、灰色土(14cm)、黄灰色粘質土(6cm)、淡灰色粘質土(18～30cm)、明灰色粘質土(12～22cm)で明灰色粘質土となり、さらに約 50cm で砂礫となっており、河道状の堆積状況を示している。地表下約 90cm で湧水が見られた。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.32 坪 標高 5.0m前後を測る休耕地に設定した坪である。上層から、耕土(20cm)、淡褐色灰色土・床土(14cm)、黄灰色粘質土(14cm)、淡灰色粘質土(16cm)で明灰色粘質土となる。ボーリングステッキによる検索によると、地表下約 1.2m で青灰色細砂質粘土となり、さらに 15cm で砂礫となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.33 坪 標高 4.8m前後を測る水田に設定した坪である。上層から、耕土(18cm)、明褐色土(12cm)、明灰色粘質土(14～24cm)で明褐色細砂および明青灰色細砂となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.34 坪 雨水 7 号幹線水路の西岸の標高 4.8m前後を測る休耕地に設定した坪である。上層から、耕土(14cm)、淡灰色土(8cm)、明褐色細砂質土(14～22cm)、灰色粘質土(48cm)で砂礫となっており、河道状の堆積状況を示している。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.35 坪 調査地東端の沖代地区に位置し、標高 5.2m前後を測る休耕地に設定した坪である。上層から、耕土(28cm)で明褐色礫混じり砂質土・地山となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

No.36 坪 調査地東端の沖代地区に位置し、標高 5.2m前後を測る休耕地に設定した坪である。上層から、耕土(12cm)、灰色土混じり明褐色砂質土(8cm)、明褐色砂質土(6～16cm)で砂礫となる。遺構・遺物は、検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、吉福西遺跡の包蔵地内に設定したNo.5・6坪の2箇所であわせてピット6基の遺構が確認され、遺物は先のNo.5・6坪と、No.6坪の東側で雨水幹線水路を挟んで設定したNo.7・8坪の河道状堆積層から土師器・須恵器等の小片が出土しただけである。吉福遺跡の南側に設定した試掘坪No.20～23では、遺構・遺物は検出されず、同遺跡の範囲が路線内まで及んでいないことが確認された。また、土層の観察から、No.7～9坪間、No.22～23坪間、No.30～34坪間の3箇所で旧河道流路の痕跡が確認された。

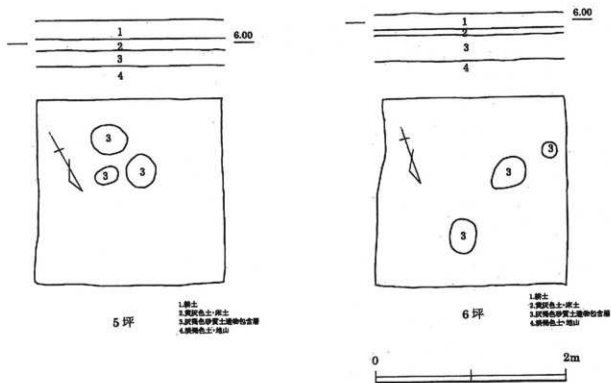
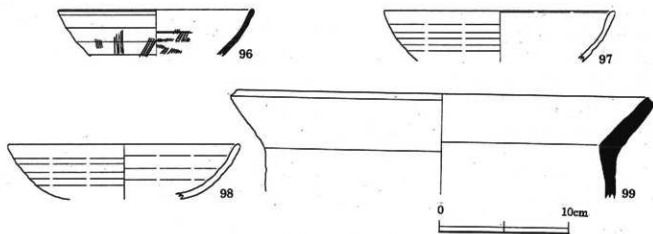


図90 遺構平面・土層断面図



5 坪 (96)、6 坪 (97~99)

図91 出土遺物



図92 5 坪(北西より)

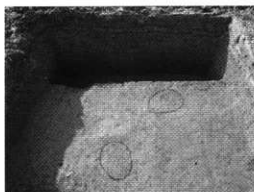


図93 6 坪(北西より)

IV 平成 20 年度調査概要

平成 20 年度では、11 件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が 8 件、公共事業に伴う立会調査が 1 件、町指定文化財修理に伴う立会調査が 1 件、公共事業に伴う本発掘調査が 1 件である。

表 4 平成 20 年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	東保遺跡	東保字東川	宅地造成	1127.11	24	平成 20 年 6 月 4 日 ～6 月 6 日	本書掲載
2	田中遺跡	太田字八幡	宅地造成	2255.97	40	平成 20 年 7 月 23 日 ～7 月 25 日	本書掲載
3	城山遺跡	船字アヲリ	宅地造成	1013	118.84	平成 20 年 8 月 18 日 ～9 月 5 日	本書掲載
4	斑鳩寺遺跡 (第 12 次調査)	船字斑鳩寺	町指定文化財 修理	24	24	平成 20 年 8 月 25 日 ～9 月 25 日	本書掲載 公共事業
5	矢田部城跡	矢田部字才ノ上 他	宅地造成	4397.19	120.9	平成 20 年 10 月 1 日 ～10 月 7 日	本書掲載
6	斑鳩寺南遺跡	船字中宮寺	宅地造成	1720.59	55.35	平成 20 年 10 月 9 日 ～10 月 15 日	本書掲載
7	吉福西遺跡 (第 2 次調査)	吉福字宮ノ前	都市計画道路 整備 受託事業	16,150	1,300	平成 20 年 10 月 15 日 ～平成 21 年 3 月 19 日	本書掲載 公共事業
8	船遺跡 (第 25 次調査)	東保字高田	宅地造成	989	44.5	平成 20 年 11 月 10 日 ～11 月 15 日	本書掲載
9	大津茂川床遺跡	太田部字清水ヶ本	宅地造成	2843.83	90	平成 21 年 1 月 7 日 ～1 月 13 日	本書掲載
10	東保高田遺跡	東保字神田	宅地造成	2550.58	40	平成 21 年 3 月 2 日 ～3 月 4 日	本書掲載
11	山田大山古墳群 分布調査	山田字大山	防災設備設置	5,000	5,000	平成 20 年 10 月 30 日 ～平成 21 年 3 月 31 日	本書掲載 公共事業



図 94 平成 20 年度調査位置図

東保遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町東保字東川 317-2

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 20 年 6 月 4 日～6 月 6 日

5. 調査面積

32 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/200)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 04 秒)、東経(134 度 35 分 13 秒)

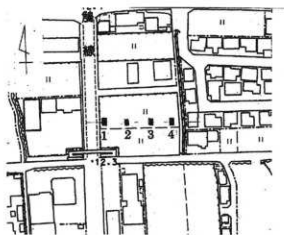


図 95 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東保字東川 317-2 において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である東保遺跡の南西に隣接することから、遺跡の広がりを確認するため試掘調査を実施した。調査地の現況は、標高 11.60m 全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、2×4m のトレンチを 4 箇所設定して実施した。調査地の土層は、上層から耕土(18～22cm)、黄色粘質土・床土(4～12cm)で淡褐色細砂質土・地山となっている。ボーリングステッキによる土層検索の結果、各トレンチで地表下約 1.5m で淡灰色粗砂～粘質土へ移行していることが確認された。

各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、東保遺跡に関連する遺構・遺物は検出されず、今回の調査地点まで東保遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。



図 96 土層断面図

田中遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町太田字八幡 1006-1 他 3 筆

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 20 年 7 月 23 日～7 月 25 日

5. 調査面積

40 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 04 秒)、東経(134 度 36 分 20 秒)



図 97 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字八幡 1006-1 他 3 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である田中遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 9.50～11.70m 全後を測る畑である。

8. 調査の概要

調査は、2×4m のトレンチを 5 箇所設定して実施した。調査地の土層は、北側に設定した 1・2 トレンチでは、耕土(44cm)直下で黄色砂質土・地山となっている。南側に設定した 3 トレンチでは、上層から耕土(25cm)、茶褐色砂質土(50～60cm)で暗灰褐色粗砂となっており、地表下 104cm のレベルで湧水がみられる。東側に設定した 4・5 トレンチでは、上層から表土(10～18cm)、灰色粘質土混じり明褐色粗砂(60cm)で明褐色細砂混じり明褐色粗砂となっており、地表下 125cm のレベルで湧水がみられた。

各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物も須恵器片が 1 点出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、田中遺跡に関連する遺構は検出されなかった。また、4・5 トレンチ設定箇所は、近年まで用水池が存在しており、土層の観察からも池を埋め立て畑としたことが確認された。



図 98 1 トレンチ

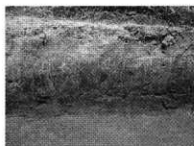


図 99 3 トレンチ



図 100 5 トレンチ

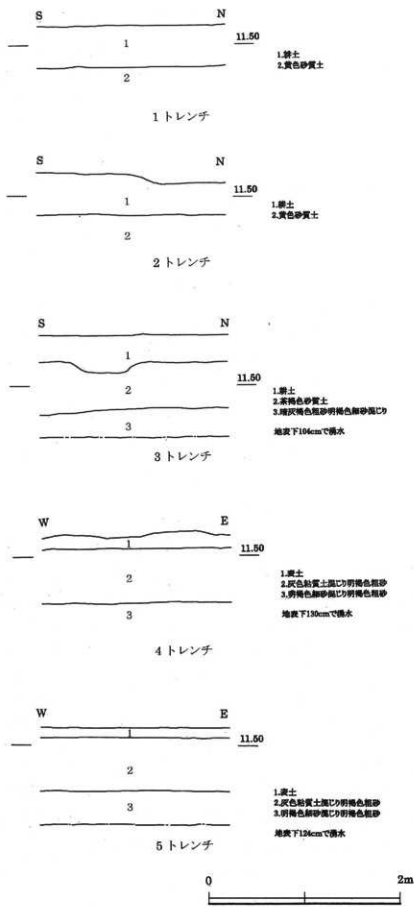


図 101 土層断面図

城山遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町鶴字アフリ 1128-1

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成20年8月18日～9月5日

5. 調査面積

118.84 m²

6. 記録作成

遺構実測図(1/20)、土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影、カラーリバーサル 35 mm)

北緯(34度50分53秒)、東経(134度34分37秒)

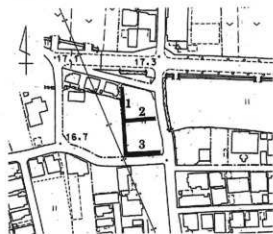


図 102 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字アフリ 1128-1において造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である城山遺跡の包蔵地内に位置することから、遺物及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。

調査地の現況は、標高16.60m 全後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、造成予定地内の西端で南北に1本(1 トレンチ)、中央部北よりで東西に1本(2 トレンチ)、南端部で東西に1本(3 トレンチ)の計3本のトレンチを設定して実施した。調査地は30cm 前後を測る耕土直下で、黄褐色土ないし黄褐色砂質土の地山となっている。遺構は、1 トレンチでは土坑4基、ピット23基、溝2条を、2 トレンチでは土坑3基、ピット15基、溝4条を、3 トレンチでは土坑1基、ピット18基、溝3条をそれぞれ検出した。1 トレンチ南端及び3 トレンチ西端で耕土と地山面との間に暗褐色土が堆積しており、地山面が南西方向に傾斜していることが確認された。遺物は、土坑・ピット及び暗褐色土から弥生式土器・土師器・須恵器が出土したが、総量としては多くない。

9. まとめ

調査の結果、限られたトレンチ調査のため遺構の全容を把握できるものはなかったが、弥生時代後期と古墳時代後期の遺構が検出された。また、今回の調査では1 トレンチの南端及び3 トレンチの西端で地山面が南西側へ向け、傾斜している地形であることが確認された。

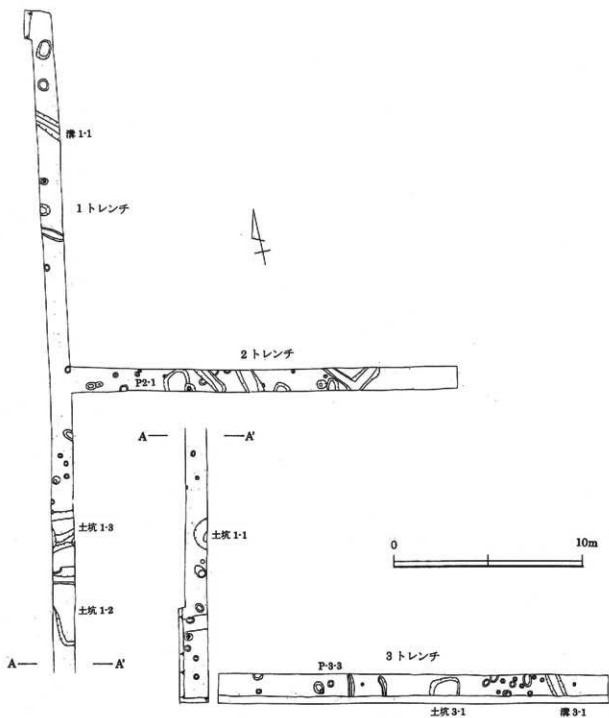


図 103 遺構配置図



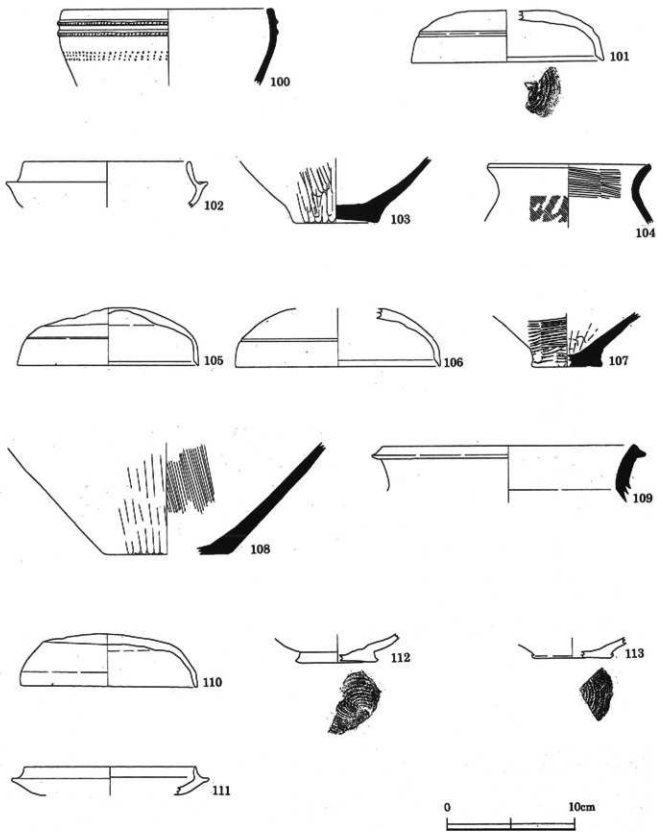
図 104 1トレンチ (北より)



図 105 2トレンチ (西より)

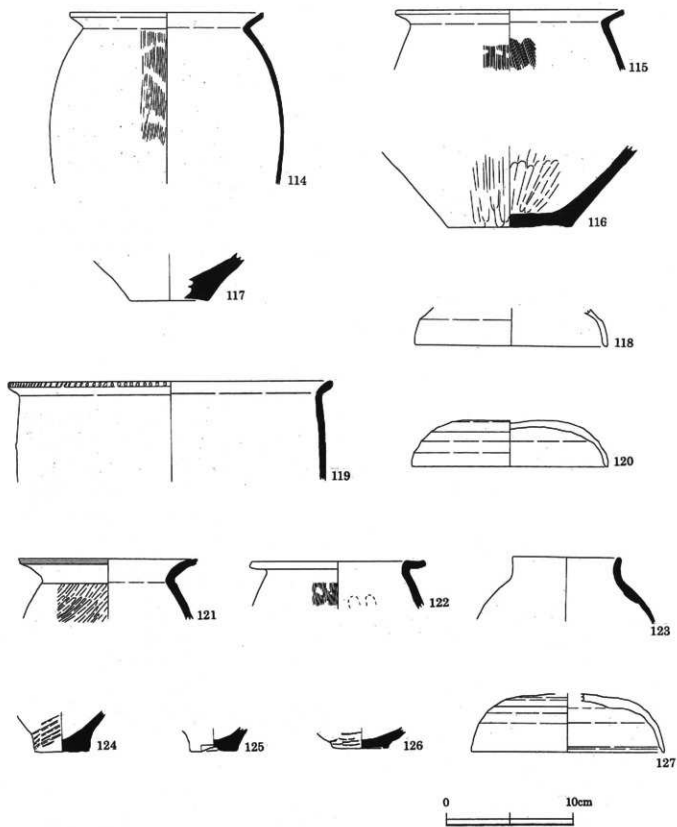


図 106 3トレンチ (東より)



土坑 1-1 (100~102)、土坑 1-2 (103)、土坑 1-3 (104~106)、溝 1-1 (107)
 P2-1 (108)、2 トレンザ暗褐色土 (109~113)

図 107 出土遺物 (1)



土坑 3-1 (114~118)、溝 3-1 (119・120)、P3-3 (121)、3 トレンチ暗褐色土 (122~127)

図 108 出土遺物 (2)

斑鳩寺遺跡（第12次調査）

1. 遺跡の所在地

摂保郡太子町鶴字斑鳩寺 736

2. 調査機関

摂保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成20年8月25日～9月25日

5. 調査面積

24 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34度50分16秒)、東経(134度34分33秒)

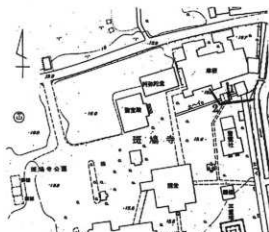


図109 調査区配置図(1/2,000)

7. 調査に至る経過

斑鳩寺境内の庫裏には庭園内と玄関前にあわせて2本のサザンカがあり、庭園内ものは樹齢370有余年、玄関前ものは樹齢320有余年と推定され、太子町指定天然記念物に指定されている。しかし近年、樹木周辺部の雨水の排水不良により枯れ枝の多発、花付の減少等樹勢の衰えが目立ち始めたため、樹勢を回復させるための活性化として、サザンカ周辺部の排水を良好にするための暗渠埋設が計画された。暗渠埋設は幅約30cm、深さ20～60cmの掘り方で総延長80mの規模であるため、調査は施工工程にあわせて立会調査を実施した。なお、第10・11次調査の成果では、地表下25～30cmのレベルから石列等の遺構が検出されている。

8. 調査の概要

調査は暗渠埋設掘方が狭小なため、施工工程にあわせて立会調査を実施したが、庫裏の外から境内外へは既設の排水管を利用するため、庫裏内及び既設排水管への接続部分を中心に実施した。掘削の深度は20～44cmを測る。

調査地の土層は、上層から表土・バラス(4～6cm)、で褐色土となっており、遺構・遺物は検出されなかった。

9. まとめ

調査の結果、斑鳩寺及びその子院等に関連する遺構・遺物は検出されなかった。



図110 サザンカ（玄関前）

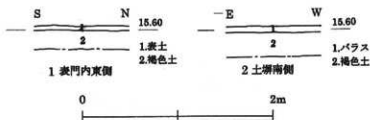


図111 土層断面図

矢田部城跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町東南字前田 149-15 の一部 他 11 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 20 年 10 月 1 日～10 月 7 日

5. 調査面積

120.9 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 49 分 40 秒)、東経(134 度 35 分 08 秒)

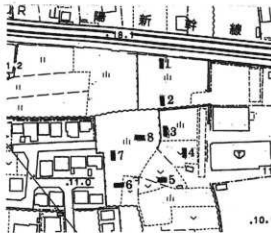


図 112 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東南字前田 149-15 の一部他 11 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である矢田部城跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 10.40m 全後を測る畑と一部造成地である。

8. 調査の概要

調査は、3×5m のトレンチを 8 箇所設定して実施した。調査地の土層は、上層から盛土(110～140cm)、耕土(20～30cm)、黄色土・床土(8～10cm)で淡褐色細砂質土・地山ないし褐色砂礫となる。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物も須恵器片が 4 点出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、矢田部城跡に関連する遺構・遺物包含層は検出されなかった。今回の調査地点では耕土直下で砂礫層となっているトレンチがあり、後世の耕作等により大規模な削平を受けていることが確認された。また、当初城跡の一部と考えられた周辺部よりも一段高い畑も、近年の盛土によることが判明した。

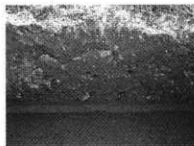


図 113 2 トレンチ



図 114 4 トレンチ

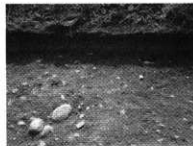


図 115 5 トレンチ

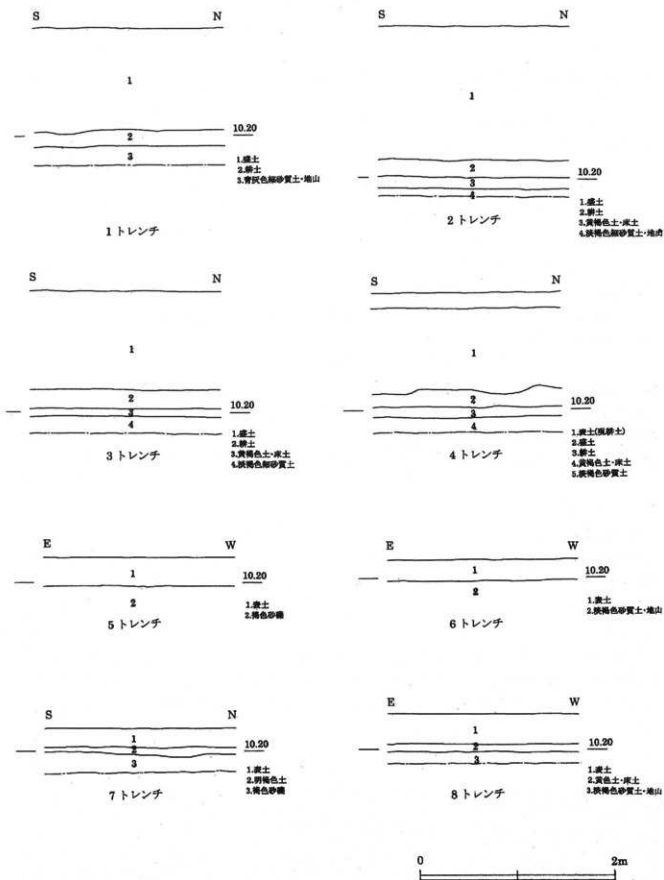


図 116 土層断面図

斑鳩寺南遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鶴字中宮寺 507-1 他 2 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 20 年 10 月 9 日～10 月 15 日

5. 調査面積

55.35 ㎡

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 50 分 03 秒)、東経(134 度 34 分 29 秒)



図 117 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町鶴字中宮寺 507-1 他 2 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である斑鳩寺南遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地は標高 14.70m 全後を測り、以前は自動車販売店の店舗であったが、現況は更地である。

8. 調査の概要

調査は、3×6m のトレンチを 3 箇所設定して実施した。調査地の土層は、上層から盛土(110～130cm)、耕土(20cm)、黄灰色土・床土(12cm)で黄褐色細砂質土・地山となっている。各トレンチとも、遺構・遺物包含層は検出されず、遺物も須恵器片 4 点が出土しただけである。

9. まとめ

調査の結果、今回の調査地点は近現代の瓦粘土採掘及び以前建っていた店舗建築物の解体に伴う攪乱を大規模に受けていることが確認され、斑鳩寺南遺跡に関連する遺構は検出することはできなかった。

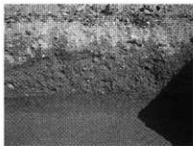


図 118 1 トレンチ

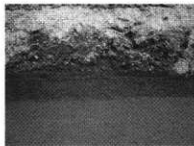


図 119 2 トレンチ

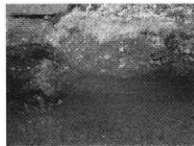


図 120 3 トレンチ

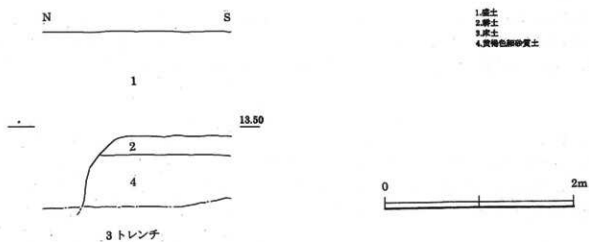
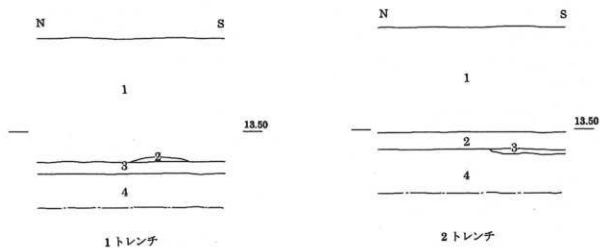


図 121 土層断面図

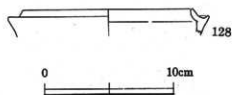


図 122 1 トレンチ出土遺物

吉福西遺跡（第2次調査）

1. 遺跡の所在地

太子町吉福字宮ノ前 209 他 2 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 20 年 10 月 15 日～平成 21 年 3 月 19 日

5. 調査面積

1,300 m²

6. 記録作成

遺構実測図(1/10、1/20)、土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、航空写真測量(1/40、1/100)

写真記録(カラーポジ/ネガ 35 mm、カラーポジ 120 mm・6×7 判、デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 48 分 36 秒)、東経(134 度 33 分 40 秒)

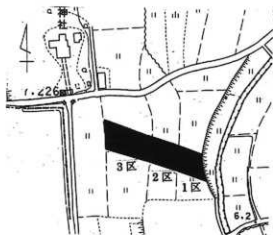


図 123 調査区配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町経済建設部街づくり課により都市計画道路揖保線の整備が計画され、工事予定地内には周知の埋蔵文化財である「吉福遺跡」「吉福西遺跡」の 2 遺跡が存在することから、平成 19 年度に計画路線内に 2×2m の試掘坪を 36 箇所所定して試掘確認調査を実施したところ、吉福西遺跡の範囲内で吉福八幡神社の南東に設定した 2 箇所(5・6 坪)から遺構が検出された。今回の調査は試掘確認調査の結果を踏まえ、遺構の確認された坪の周辺 1300 m² の範囲について記録保存のための発掘調査を実施したものである。調査地の現況は、標高 6.10～6.20m 前後を測る水田及び運根畑である。

8. 調査の概要

調査は、東から 1 区～3 区を設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から耕土(16～20 cm)、黄灰色土・床土(6～12 cm)、灰褐色砂質土・遺物包含層(16～28 cm)で淡褐色土・地山あるいは褐色砂礫層となっている。

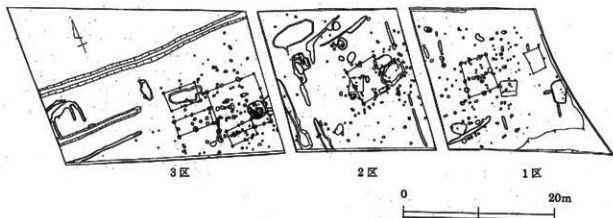


図 124 調査区全体図

1区の概要 1区は一番東に設定した調査区で、東側は旧河道と考えられる1mほど低い田圃になっている。この調査区で検出された遺構には、ピット133基、土坑15基、溝2条がある。

ピットには、根石あるいは根固めと考えられる河原石を伴うもの、地鎮のためと考えられる土師器を埋納したものがある。ピット群からは1×2間の掘立柱建物2棟が復原できた。土坑のなかには、集石土坑1基(土坑1-9)がある。

調査区の南東端と北東端はそれぞれ南と北へ落ち込んでいる地形であることも確認された。

遺物は、灰褐色砂質土層及び各遺構から土師器・瓦質土器・須恵器・輸入磁器・渡米銭等が出土している。また、調査区南北の東端部に確認された茶褐色砂礫層から弥生土器が出土している。

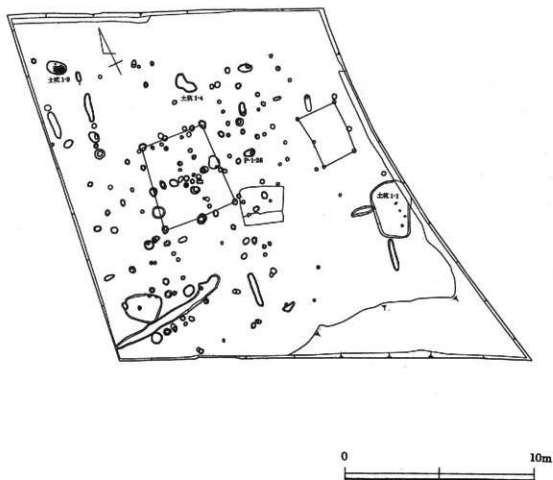


図 125 調査1区遺構配置図

2 区の概要 2 区は中央部に設定した調査区である。この調査区で検出された遺構には、ピット 119 基、土坑 16 基、溝 6 条がある。ピットには、調査 1 区と同様に根石あるいは根固め石を伴うもの、地鎮のためと考えられる土師器を埋納したものがある。また、ピット群からは、2×2 間の掘立柱建物 1 棟分が復元できる。土坑のなかには、土坑墓と考えられるもの 4 基(土坑 2-2、2-3、2-10、2-16)がある。遺物は、灰褐色砂質土層及び各遺構から土師器・瓦質土器・須恵器・輸入磁器・鉄製品等が出土している。

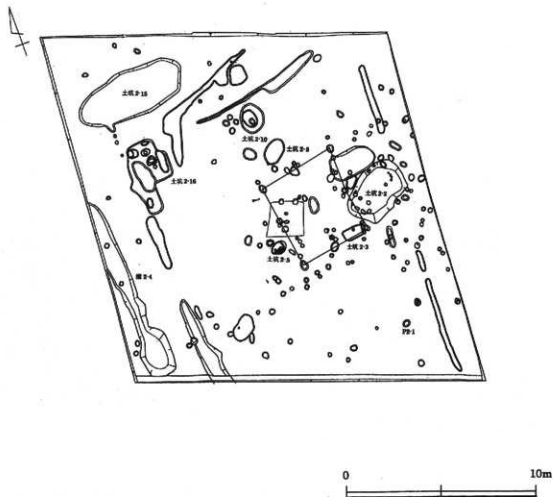


図 126 調査 2 区遺構配置図

3区の概要 3区は一番西側に設定した調査区である。この調査区で検出された遺構には、ピット150基、土坑8基、溝5条がある。ピットには、他の調査区と同様に根石あるいは根固め石を伴うものがある。また、ピット群からは、1×2間の掘立柱建物3棟分、3×3間の掘立柱建物1棟分が復元できるが、建物には新旧の時期差が認められる。

土坑の中には土坑墓と考えられるものが1基(土坑3-7)と、調査1区と同様な集石土坑1基(土坑3-1)がある。土坑墓と考えられる土坑には、頭部と考えられる位置から土師器の小皿と坏及び刀子が出土している。調査区の北半で検出された溝(溝3-1)はほぼ東西方向に走り、溝底の高低差から西から東に流れていたと考えられ、溝から北側では遺構が確認されていないことから、居住区域を区画するための溝の可能性が考えられる。遺物は、灰褐色砂質土層及び各遺構から土師器・瓦質土器・須恵器・布目瓦・輸入磁器・石製品・鉄製品等が出土している。また、調査区西北部の褐色砂礫層から弥生土器・古墳時代初頭の土師器が出土している。

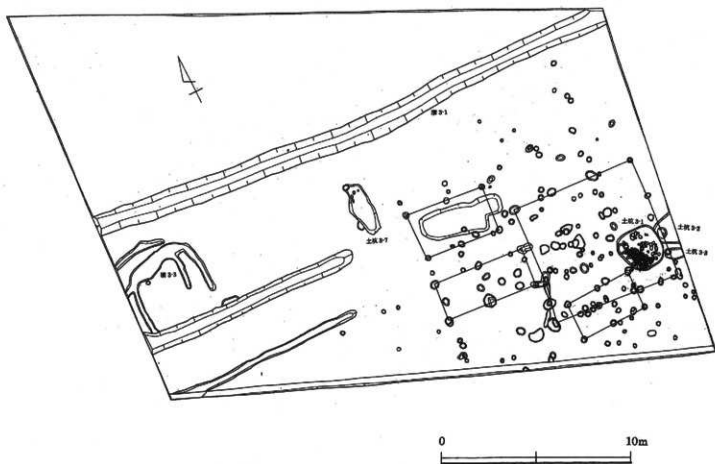
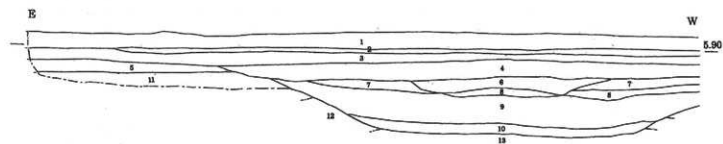


図 127 調査3区遺構配置図



- | | |
|-------------|----------------|
| 1. 粘土 | 7. 緑褐色砂質土 |
| 2. 黄灰色土・赤土 | 8. 黄灰褐色土 |
| 3. 明褐色砂質土 | 9. 深褐色土 |
| 4. 灰褐色砂質土 | 10. 茶褐色砂質土 |
| 5. 緑褐色凝縮じり土 | 11. 高褐色凝縮じり砂質土 |
| 6. 褐色砂質土 | 12. 凝縮 |

調査区1 東壁土層断面



- | | |
|---------------|------------------|
| 1. 粘土 | 8. 深褐色土 |
| 2. 黄灰色土・赤土 | 9. 凝縮じり灰褐色土 |
| 3. 明褐色砂質土 | 10. 褐色砂質じり灰褐色砂質土 |
| 4. 小片凝縮じり灰褐色土 | 11. 高褐色凝縮砂質土 |
| 5. 灰褐色砂質土 | 12. 褐色砂質 |
| 6. 褐色砂質 | 13. 凝縮じり黄褐色砂質土 |
| 7. 黄褐色土 | |

調査区1 南壁土層断面

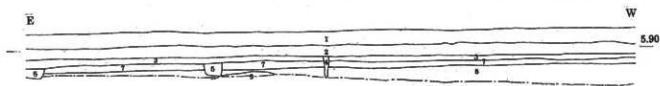
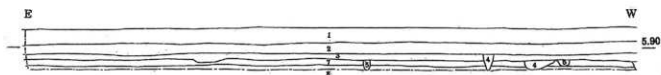


図 128 土層断面図 (1)



1. 粘土
2. 黄褐色土・灰土
3. 明褐色砂质土
4. 黄褐色砂质土
5. 黄褐色土(透水性土)
6. 明褐色土(透水性土)
7. 明黄褐色土
8. 褐色砂质土

調査区2南壁土層断面



- | | |
|-----------------|----------|
| 1. 粘土 | 7. 明黄褐色土 |
| 2. 黄褐色土・灰土 | 8. 褐色砂质土 |
| 3. 明褐色砂质土 | 9. 砂層 |
| 4. 黄褐色土(透水性土) | |
| 5. 明褐色土(透水性土) | |
| 6. 黄褐色砂质土(透水性土) | |

調査区3南壁土層断面

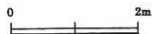
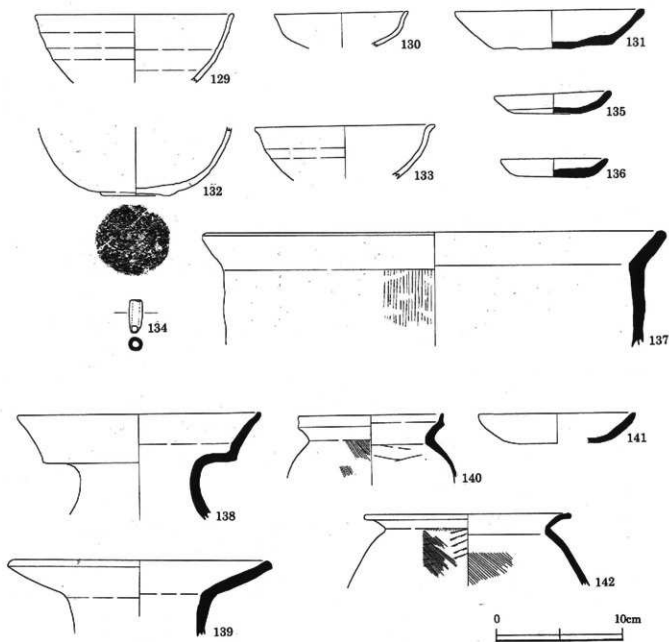


图 129 土層断面图 (2)

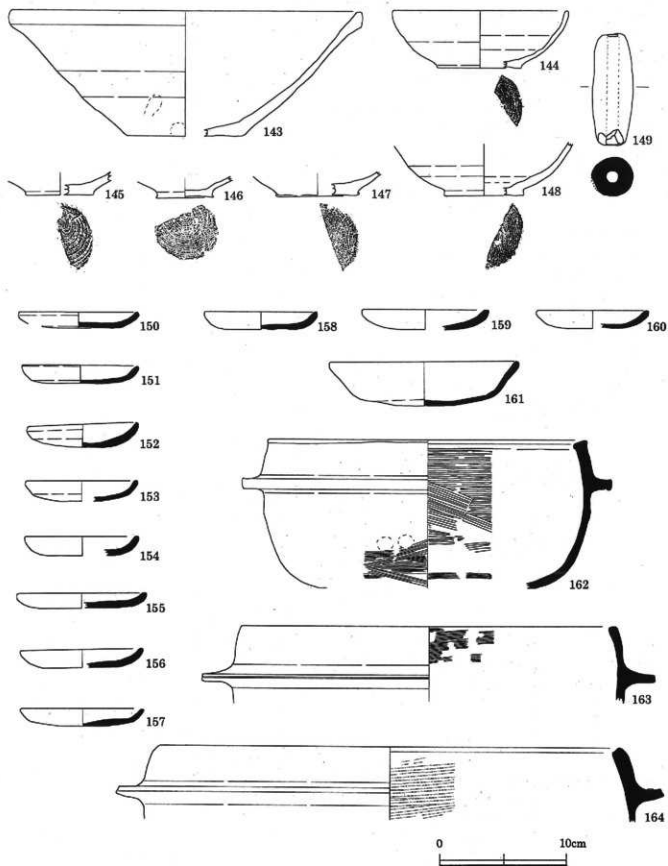
9. まとめ

吉福西遺跡は、昭和 51(1976)年頃吉福八幡神社の北西の太子町吉福水源地で奈良時代の古瓦等の遺物が採集されていただけで、遺跡の詳細についてわかっていなかった。今回の調査ではじめて遺構が検出され、出土した遺物等から中世の集落遺跡が存在することが確認された。古代の寺院址については、布目瓦の小片が数点出土しただけで、寺院に関連すると考えられる遺構は確認されなかった。また、調査区 1 及び 3 で検出された砂礫層からは、流れ込みと考えられる弥生土器と古墳時代初頭の土師器が出土しており、近隣に弥生時代から古墳時代初頭の遺跡が存在する可能性が考えられる。



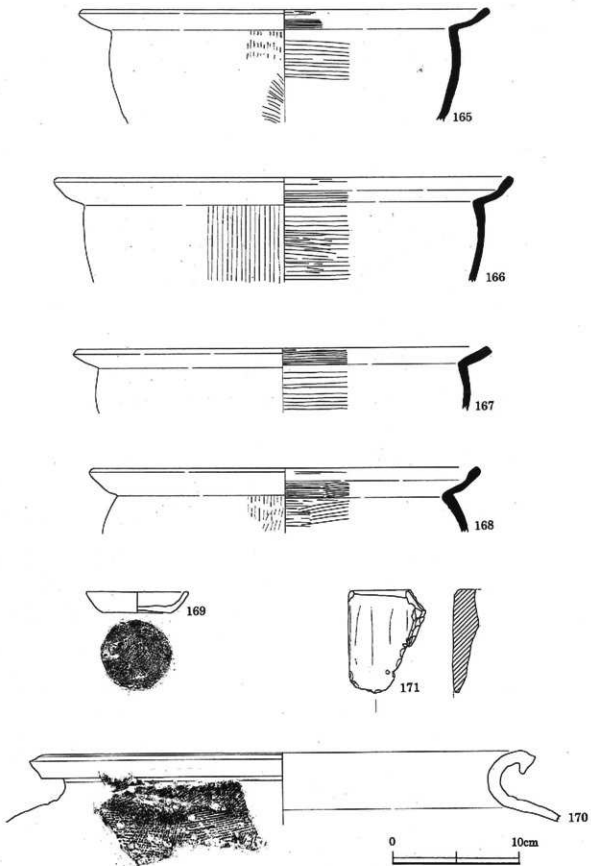
土坑 1-3 (129)、土坑 1-4 (130)、P1-3 (131・132)、P1-4 (133)、P1-16 (134)、P1-26 (135)
P1-34 (136)、P1-42 (137)、1 区茶褐色砂礫 (138~142)

図 130 出土遺物 (1)

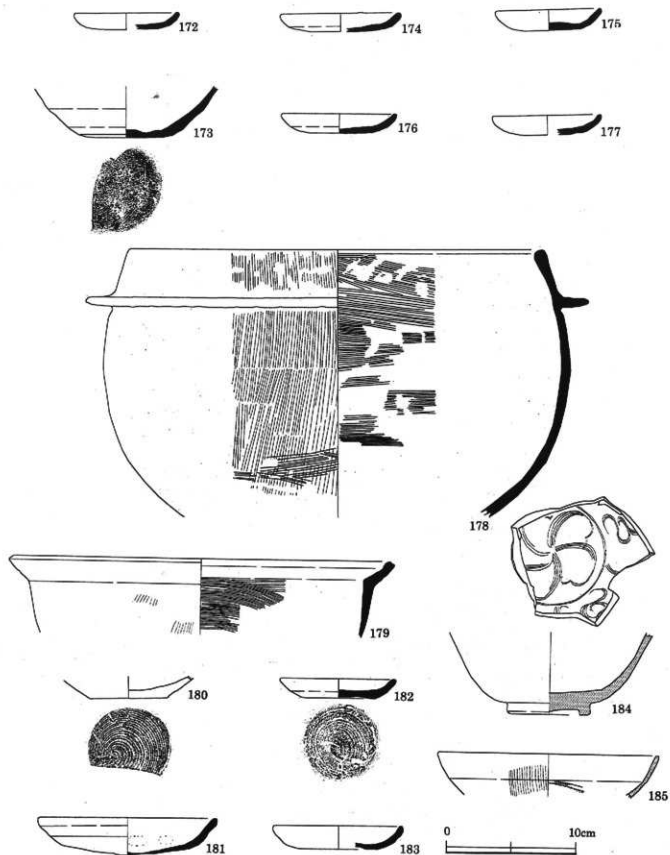


1区遺構面(143~149)、土坑2-2(150~164)

图 131 出土遗物(2)

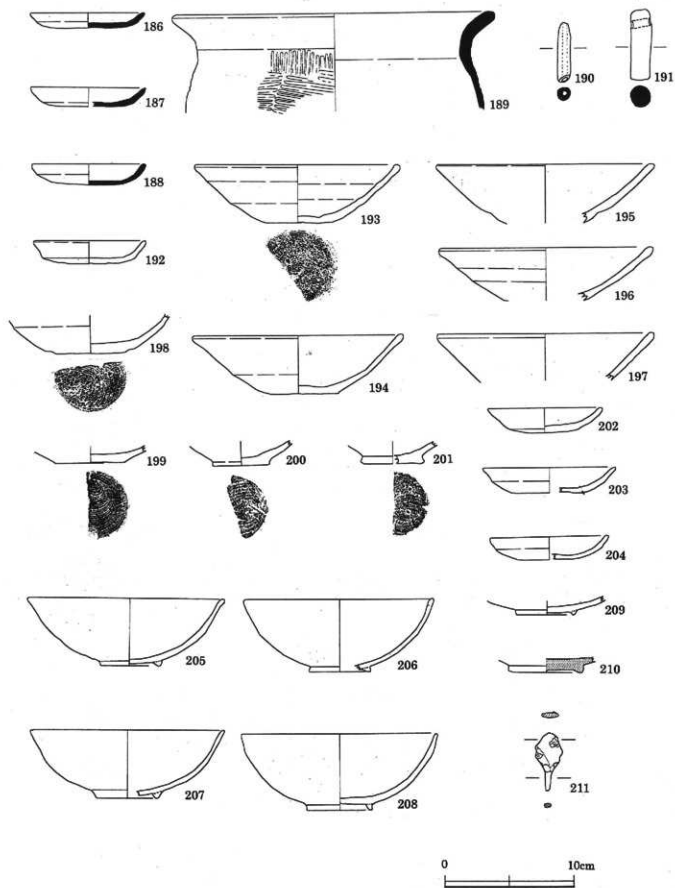


土坑 2-2 (165~171)
 图 132 出土遺物 (3)

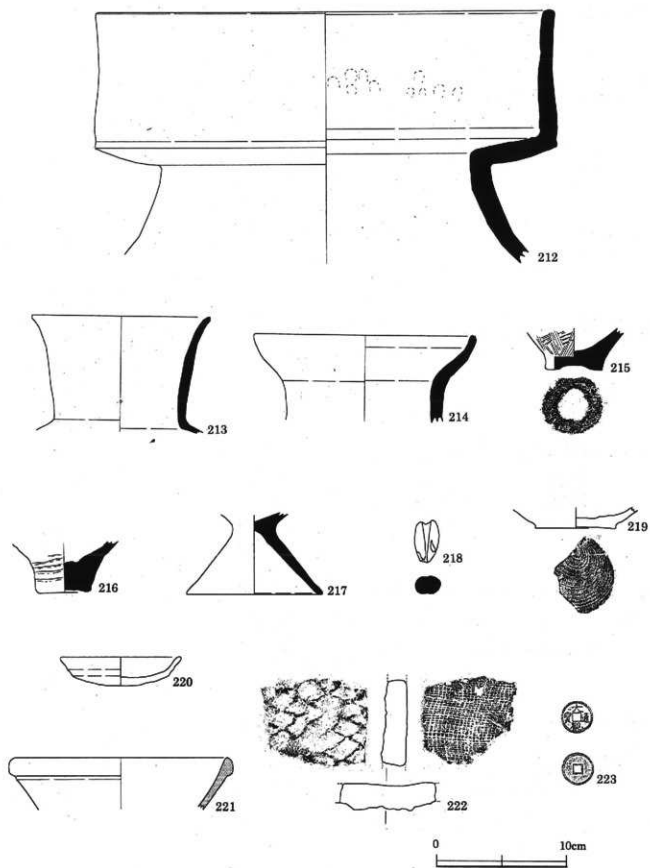


土坑 2-5 (172·173)、土坑 2-8 (174~177)、土坑 2-10 (178)、土坑 2-15 (179·180)、土坑 2-16 (181)
 P2-1 (182)、P2-52 (183)、P2-56 (184)、P2-58 (185)

图 133 出土遗物 (4)

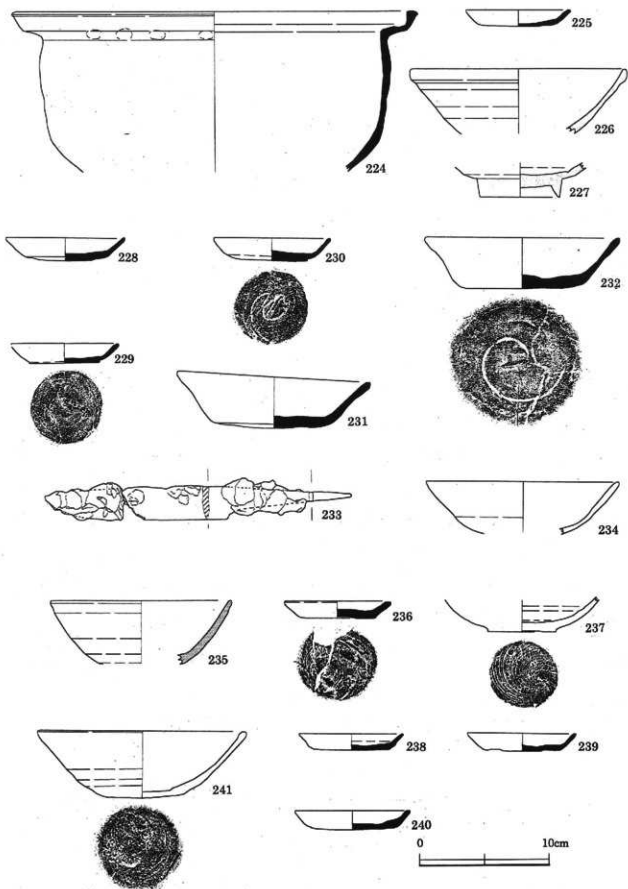


溝 2-4 (186~211)
 图 134 出土遗物 (5)



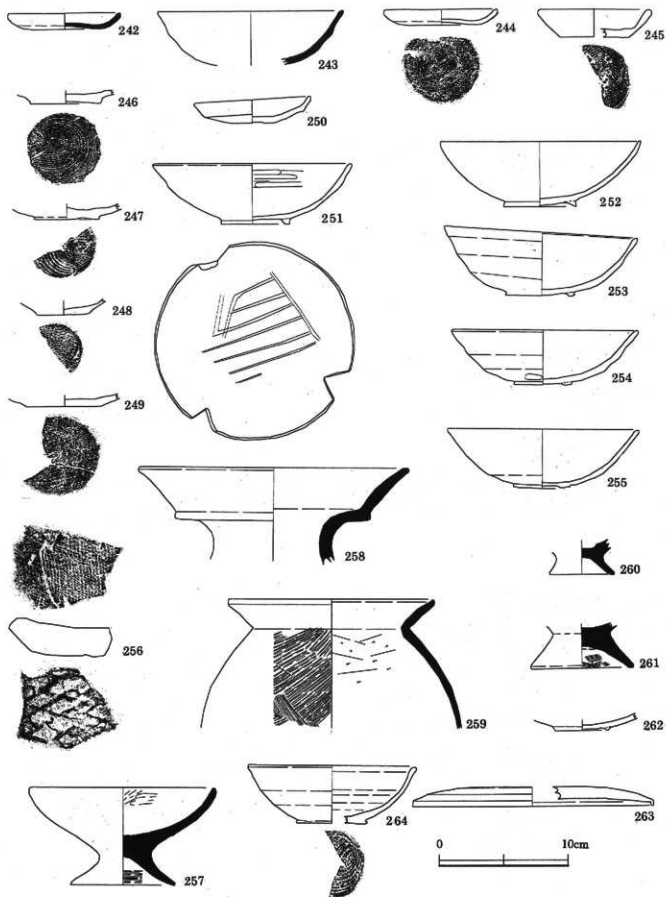
2区西北端褐色砂硬 (212~216)、2区床土~灰褐色砂質土 (217~223)

图 135 出土遺物 (6)



土坑 3-1 (224)、土坑 3-2 (225)、土坑 3-3 (226·227)、土坑 3-7 (228~233) P3-13 (234)、P3-57 (235)
 P3-71 (236)、P3-90 (237)、P3-94 (238)、P3-107 (239)、P3-119 (240·241)

圖 136 出土遺物 (7)



溝 3-1 (242~256)、溝 3-3 (257)、3 区北半褐色砂礫 (258~262)、3 区床土~灰褐色土 (263·264)

圖 137 出土遺物 (8)



図 138 調査区全景 (西より)



図 139 調査区 1 (北より)



図 140 調査区 2 (北より)



図 141 調査区 3 (北より)



図 142 土坑 1-10 (南より)

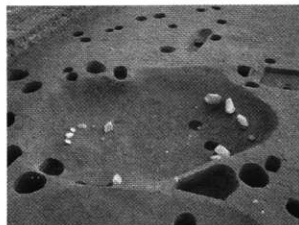


図 143 土坑 2-2 (北より)



図 144 土坑 2-2 遺物出土状況 (西より)

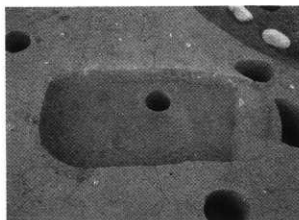


図 145 土坑 2-3 (南より)



図 146 土坑 2-5 (北より)

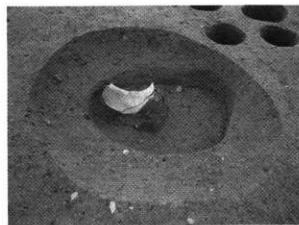


図 147 土坑 2-10 (東より)

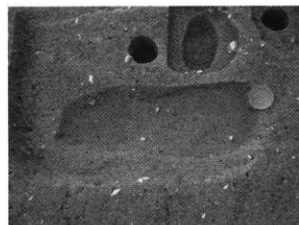


図 148 土坑 2-16 (東より)



図 149 土坑 2-16 遺物出土状況 (南より)



図 150 土坑 3-1 (東より)



図 151 土坑 3-7 (東より)



図 152 土坑 3-7 遺物出土状況 (南より)



図 153 溝 3-1 (東より)

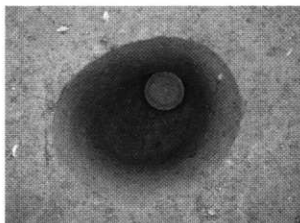


図 154 P1-26 (南より)

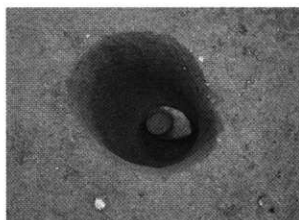


図 155 P2-1 (西より)

鳩遺跡(第25次調査)

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町東保字高田 53-2

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次

4. 調査期間

平成20年11月10日～10月15日

5. 調査面積

44.5 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影、カラーネガ 35mm)

北緯(34度 50分 08秒)、東経(134度 34分 56秒)

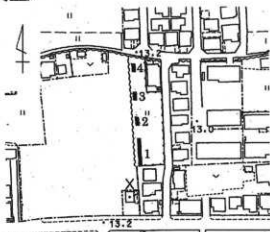


図 156 トレンチ配置図(1/250)

7. 調査に至る経過

調査地区は、法隆寺傾播磨国鳩荘絵図(嘉暦四年)の甘条「下堅田」の西端に位置する。また、東保村地限図「播磨国揖東郡東保村／保長／森澤武平」では、「西等」と記載されている。

今回、鳩遺跡内の東北部に宅地造成工事が計画された。調査は、太子町立東・西中学校の生徒によるトライやる・ウィークの一環として、9名(東中学校生徒3名、西中学校生徒6名)を受け入れ確認調査を実施した。

8. 調査の概要

開発予定地内に1.5×5mのトレンチを4箇所設定して確認調査を実施した。基本土層は、耕作土、床土、灰黄褐色土もしくは、褐灰色、鈍い黄橙色土のベースとなる。1 トレンチでは、灰黄褐色粘砂質土のベースに近代の井戸に伴う幅約1.6m、深さ14cmを測る浅い溝状の落ち込みを南端で検出した。

2 トレンチでは、耕作土、床土、褐灰色砂質土のベースである。

3 トレンチでは、耕作土、床土、灰黄褐色粘砂質土である。

4 トレンチは、調査区の北端に位置する。耕作土、床土、鈍い灰褐色砂質土の遺物包含層を確認した。

9. 遺物の概要

出土遺物は、4 トレンチから、弥生時代後期の壺・甕などコンテナケースにして1箱があるほか、1 トレンチの溝から須恵器坏・土師器鍋の脚・瓦の破片等がみられる。

10. まとめ

1 トレンチから近代の井戸と溝が検出された、各トレンチとも明確な遺構は何等検出されなかった。また、4 トレンチから出土した遺物も全体に磨耗していることから他の地点から流れて来た可能性もっている。今回の調査結果から、調査地点は鳩遺跡の北東部にあたると考えられる。明確な遺構が存在

していないが遺物の出土状況から当該地の北西部で遺構・遺物が検出される可能性がある。

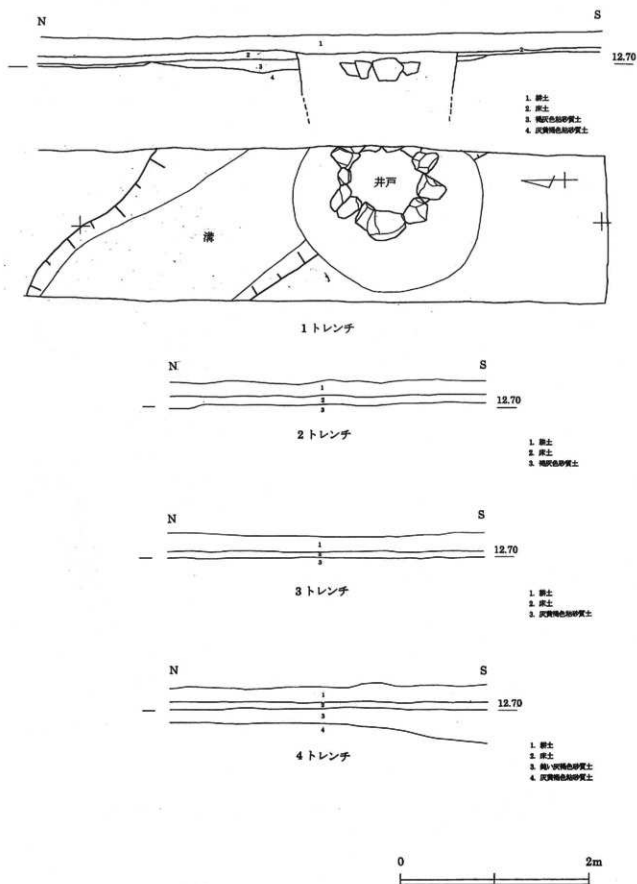
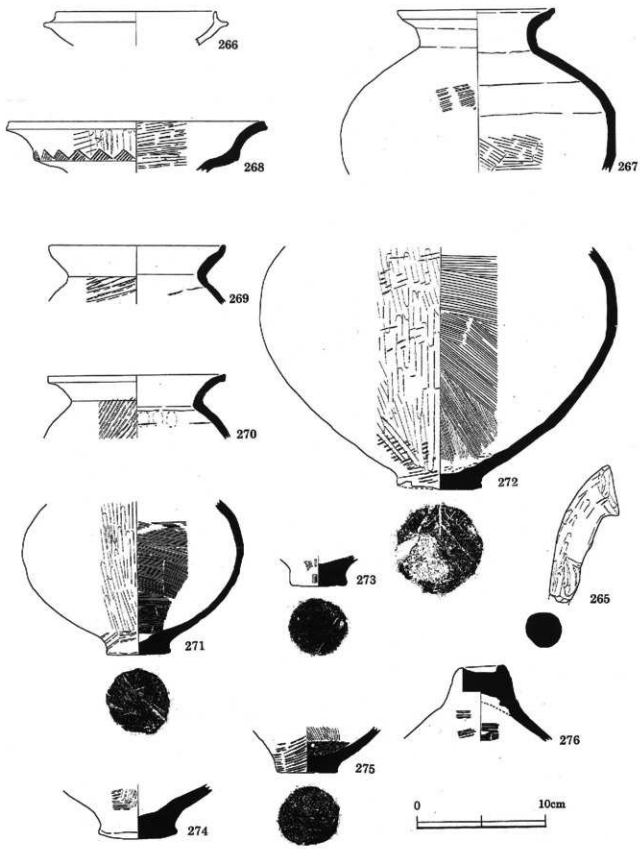


図 157 平面図・土層断面図



1 トレンチ溝 (265・266)、4 トレンチ灰褐色砂質土 (267~275)

図 158 出土遺物

大津茂川床遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町太田字清水ヶ本 2228-1 他 4 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 21 年 1 月 7 日～1 月 13 日

5. 調査面積

90 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)
北緯(34 度 49 分 50 秒)、東経(134 度 35 分 58 秒)

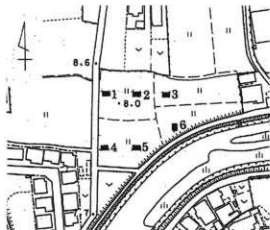


図 159 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町太田字清水ヶ本 2228-1 他 4 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である大津茂川床遺跡の北西に隣接することから、遺跡の広がりを確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 7.20～7.40m 全後を測る水田である。

8. 調査の概要

調査は、3×5m のトレンチを 6 箇所設定して実施した。調査地の土層は、上層から耕土(20～30cm)、灰黄色砂質土(6～20cm)、褐灰色粘質土(6cm)、灰色粘質土(4～40cm)で調査地北西端に設定した 1 トレンチでは、白黄色細砂質土の地山が検出されたが、2～6 トレンチでは暗灰色粘質土となっており、ボーリングステッキによる検索では 1m 以上の厚みを持つことが確認された。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、大津茂川床遺跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。土層の観察から、調査地点は大津茂川の旧流路内あるいは、その影響を受けた地域に位置していると考えられる。



図 160 1 トレンチ



図 161 2 トレンチ

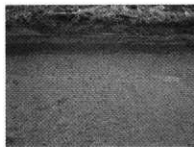
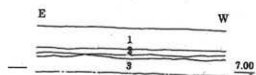
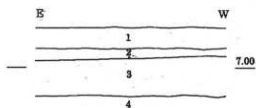


図 162 4 トレンチ



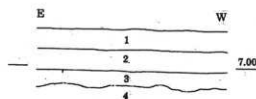
1トレンチ

- 1.赤土
- 2.灰黄色砂質土
- 3.弱白黄色砂土混じり灰色粘質土
- 4.弱白黄色砂質土



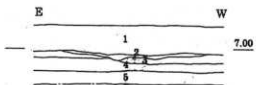
2トレンチ

- 1.赤土
- 2.灰黄色砂質土
- 3.灰色粘質土
- 4.黒灰色粘質土



3トレンチ

- 1.赤土
- 2.黄灰色砂質土
- 3.弱灰色砂質土混じり灰色粘質土
- 4.弱灰色砂質土混じり黒灰色粘質土



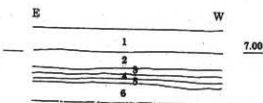
4トレンチ

- 1.赤土
- 2.弱褐色粗石
- 3.灰色砂質土
- 4.灰色粘質土
- 5.暗灰色粘質土



5トレンチ

- 1.赤土
- 2.灰黄色砂質土
- 3.灰色粘質土
- 4.暗灰色粘質土



6トレンチ

- 1.赤土
- 2.灰黄色砂質土
- 3.灰色粘質土
- 4.暗灰色粘質土
- 5.灰色粘質土
- 6.暗灰色粘質土



図 163 土層断面図

東保高田遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町東保字神田 220-1 他 5 筆

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 21 年 3 月 2 日～3 月 4 日

5. 調査面積

40 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)、写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 11 秒)、東経(134 度 35 分 06 秒)



図 164 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町東保字神田 220-1 他 5 筆において宅地造成が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である東保高田遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無を確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 12.50m 全後を測る水田と畑である。

8. 調査の概要

調査は、2×5m のトレンチを 4 箇所設定して実施した。調査地の土層は、上層から耕土(14～20cm)、黄色土・床土(4～10cm)、淡褐色土(6～12cm)ないし明灰色粘質土(8～18cm)、黄灰色粘質土(8～24cm)、暗茶灰色粘質土(20～24cm)と堆積し、西端に設定した 1 トレンチでは黄褐色土・地山となるが、1 トレンチ以東の 2～4 トレンチでは地山面は検出されなかった。暗茶灰色粘質土はボーリングステッキによる検索の結果、4 トレンチでは 1m 以上の厚みを持つことが確認された。各トレンチとも遺構・遺物包含層は検出されず、遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、東保高田遺跡に関連する遺構・遺物は確認されなかった。黄褐色土の地山面は東側へ向けて落ち込んでおり、今回の調査地点が東保高田遺跡の立地する微高地の北東端部に位置することが判明した。

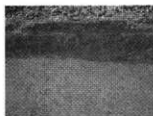


図 165 1 トレンチ

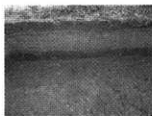


図 166 2 トレンチ



図 167 3 トレンチ

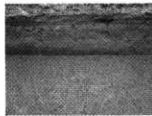
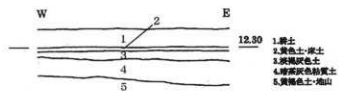
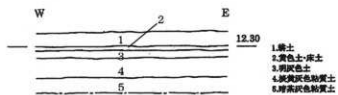


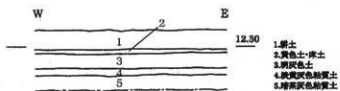
図 168 4 トレンチ



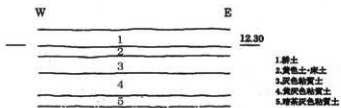
1トレンチ



2トレンチ



3トレンチ



4トレンチ

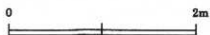


図 169 土層断面図

山田大山 7号墳・10号墳

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町山田字大山 664-10 他

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 三村修次

4. 調査期間

平成 20 年 10 月 30 日～平成 21 年 3 月 31 日

5. 調査面積

5,000 m²

6. 記録作成

写真記録(デジタルカメラ撮影、カラー35mm ネガ)

北緯(34 度 50 分 20 秒)、東経(134 度 36 分 53 秒)

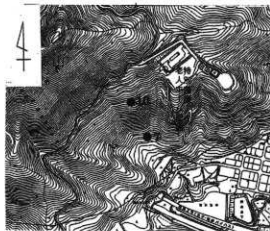


図 170 古墳位置図(1/10,000)

7. 分布調査に至る経過

平成 20 年 10 月 22 日に国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所防災課による国道 2 号線城山トンネル内にスプリンクラー設置工事に伴う防火水槽設置及び配水管設置工事について、太子町役場内で工事内容説明会が行われた。この事業が国の直轄事業によることから、太子町教育委員会では、この事業について兵庫県立考古博物館内企画調整班の指示を仰いだ。また、平成 20 年 10 月 23 日付けで施工者である株式会社香山組から埋蔵文化財〔分布〕調査依頼書の提出を受けた。同時に姫路河川国道事務所より遺跡の有無について照会を受け、埋蔵文化財分布調査を 10 月 30 日・11 月 14 日に実施することにした。

8. 分布調査の概要

2 回にわたって分布調査を実施した。その結果、新たに 5 基(9～13 号墳)の横穴式石室古墳と工事予定地内の山田大山 7 号墳を確認することが出来た。これにより、配水管設置予定地内に 2 基の古墳(7 号墳・10 号墳)がかかることになり、姫路河川国道事務所工務課との協議の結果、配水管設置位置を移動して古墳を保存する処置をとることとし、念のため工事中の立会調査を実施することとした。

9. 工事予定地内の古墳の概要

山田大山 7 号墳(450150)

城山(橋岩城)の山頂から南東方向、太子龍野バイパス城山トンネル東坑口に延びる尾根の東側に並行していくつもの砂防堰堤が階段状に並ぶ、その東側の小さな尾根の標高 79.56m に古墳は位置している。

古墳は、山道によって前提部が削られている。

7 号墳は、墳丘は削平を受けており、前庭部は破壊され、全体規模は不明であるが、直径 7m 前後の円墳であったと推定できる。盛土は、流出しているが山道との比高差は約 2.20m である。

本墳の主体部は、主軸を南東方向に開口する無袖の横穴式石室である。奥壁は幅 1.35m、現高は 1.45 m を測り、一枚石と 2 段の上に、両側壁の 5 段目の上に天井石を架構していると推測される。右壁長 2.60

m、左壁長1,80m、前幅1.15mの規模である。羨道部は山道により破壊、削平されている。



図 171 7号墳全景(東より)



図 172 同 奥壁

山田大山 10号墳(450248)

山田大山7号墳から北へ100m、標高130mの斜面に位置する。本古墳は、封土は残っておらず、羨道部は陥没し、玄室部の天井石が1個露出している。本古墳の主体部は、主軸を東方向に開口する両袖の横穴式石室である。石室は、すでに一石の天井石を残して両側壁の上半部を失っている。玄室の奥壁を確認することができないため、石室全長は不明である。玄室の幅1.08m、羨道の幅0.77mを測るが高さは不明である。



図 173 10号墳全景(西より)



図 174 同 玄室部(西より)

10. 立会調査の結果

工事掘削範囲は、両古墳ともに古墳の範囲から外した状況で工事が行われ、古墳等への影響はなかった。また、当該地において新たな遺跡の所在を示すものは見られなかった。

表5 遺物観察表

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			輪 成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
1	輪郭跡 (第22次調査)	1区北端 西河邊	銅器	0504+1	1.4 (高)	4.05 (長さ)	0.3 (厚さ)				
2	"	"	土製器 甕	0504+2	9.4	12.5		良好	外 5YR4/4 緑・黄 内 7.5YR4/4 黄緑～7.5YR3/1 黒	胎土・胎色白 内 ナブ・胎色白・調整土直	外 ナブ・胎色白・調整土直 内 ナブ・調整土直・縫目直
3	"	"	土製器 甕	0504+3	13.8	4.8		良好	外 7.5YR6/6 黄緑 内 7.5YR6/2 黒	胎土多く含む	外 胎色白・ヘラ磨 内 磨削のため不明
4	"	"	土製器 甕	0504+4	15.0	8.8		良好	外 10YR6/2 灰白～10YR6/2 灰黄 内 10YR6/2 灰黄	胎土多く含む	外 可き・調整土直 内 ヘラ磨・胎色白
5	"	"	土製器 甕	0504+5	14.4	4.4		良好	外 7.5YR6/4 緑・黄 内 5YR4/1 黄緑～7.5YR6/4 緑・黄	胎土を含む	外 ナブ・胎色白 内 ナブ
6	"	"	土製器 甕	0504+6	11.0	7.7		良好	外 7YR7/5 緑・黄 内 5YR7/4 緑・黄	胎土少量含む	外 ナブ・胎色白 内 ナブ・縫目直
7	"	"	土製器 甕	0504+7	15.2	4.1		良好	外 10R6/4 緑・黄緑～7.5YR6/2 灰黄 内 10R6/4 緑・黄緑～7.5YR6/2 灰黄	胎土多く含む	外 可き 内 磨削が強い
8	"	"	土製器 甕	0504+8	14.0	2.2		良好	外 2.5Y7/1 灰白 内 2.5Y7/1 灰白	胎土少量含む	外 ナブ 内 ヘラ磨り
9	"	"	土製器 甕	0504+9	17.8	9.4		良好	外 7.5YR7/4 緑・黄 内 7.5YR7/4 緑・黄	胎土 大の石 胎土含む	外 胎色白・ナブ 内 ヘラ磨り・ナブ
10	"	"	土製器 甕	0504+10	24.0	7.9		良好	外 6YR6/6 黄 内 5YR6/6 黄～7.5YR7/4 緑・黄	胎土含む	外 ナブ 内 ナブ・工具直
11	"	"	土製器 甕	0504+11	3.4	9.1		良好	外 7.5YR6/5 黄緑 内 7.5YR6/5 黄緑	胎土多く含む	外 ナブ・ヘラ磨き 内 ヘラ磨り後ナブ
12	"	"	土製器 甕	0504+12	6.7	11.0		やや甘い	外 10R6/6 黄緑～2.5YR6/8 緑 内 10R6/6 黄緑～2.5YR6/8 緑	胎土胎色含む	外 内 磨削のため不明 2箇所穿孔
13	"	"	土製器 甕	0504+14	6.0	12.3		やや甘い	外 6YR7/6 黄 内 6YR7/6 黄	胎土多く含む	外 内 磨削のため不明 3箇所穿孔
14	"	"	土製器 甕	0504+13	8.0			良好	外 7.5YR6/5 黄緑～5YR7/4 緑・黄 内 10YR6/5 黄緑～5YR7/4 緑・黄	胎土 大の石 と胎土含む	外 ヘラ磨き・ナブ 内 ヘラ磨き・胎色白
15	"	"	土製器 甕	0504+15	10.0	6.0		良好	外 10YR6/5 黄緑～10YR7/2 灰・黄 内 7.5YR6/2 灰黄	胎土含む	外 磨削のため不明 内 胎色白・ナブ・調整土直
16	"	"	土製器 甕	0504+17	4.0	4.0		良好	外 7.5YR6/4 緑・黄 内 7.5YR6/4 緑・黄	胎土胎色多く含む	外 ナブ 内 磨削のため不明
17	"	"	土製器 甕	0504+18	2.6	6.0		良好	外 7.5YR4/1 黄 内 7.5YR6/2 灰白	胎土胎色含む	外 可き 内 工具直
18	"	"	土製器 甕	0504+19	3.2	4.2		良好	外 10YR4/1 黄～10YR7/2 灰・黄 内 2R 黒	胎土を含む	外 内 磨削のため不明
19	"	"	土製器 甕	0504+16	4.7	2.9		良好	外 7.5YR7/6 黄 内 6YR6/6 黄	胎土胎色少量含む	外 可き 内 ヘラ磨り
20	"	1区南端 中河邊段上	土製器 甕	0504+2	20.8	7.9		やや甘い	外 10YR6/6 黄 内 10YR6/6 黄	胎土 大の石 と胎土含む	外 内 磨削のため不明 磨削外に出る3箇の穴
21	"	"	土製器 甕	0504+1	15.6	3.7		良好	外 10YR6/2 灰白 内 10YR6/2 灰白	胎土胎色含む	外 可き・ナブ 内 ヘラ磨り・ナブ
22	"	1区 南端段上	土製器 甕	0504+20	15.2	2.6		良好	外 2R 灰～2R 灰 内 2R 灰	胎土	外 胎色白 内 胎色白
23	"	2区 中河邊段上	土製器 甕	0504+1	23.6	2.9		良好	外 6YR7/6 黄 内 6YR7/6 黄	胎土胎色胎色少量含む	外 ナブ 内 ナブ
24	"	"	土製器 甕	0504+2	23.6	3.9		良好	外 7.5YR6/5 黄緑 内 7.5YR7/5 緑・黄	胎土胎色含む	外 ナブ 内 ナブ
25	"	"	土製器 甕	0504+3	3.0	4.8		良好	外 10YR6/2 灰白 内 10YR6/2 灰白	胎土含む	外 可き・調整土直 内 胎色白
26	"	"	土製器 甕	0504+4	3.0	2.9		良好	外 10YR6/2 灰白 内 7.5YR7/6 黄～5YR6/4 緑・黄	胎土胎色少量含む	外 胎色白・ナブ 内 調整土直
27	"	"	土製器 甕	0504+5	4.6	6.8		良好	外 7.5YR7/3 緑・黄 内 10YR7/3 緑・黄	胎土含む	外 内 磨削のため不明

番号	遊 跡 名	出土地点	種別 器 種	遺物番号	法 量(cm)			組成	色 調	胎 土	調 整
					口 径	器 高	底 径				
28	輪廊鉢 (第22次調査)	3区 南端1号溝	土師器 甕	0504-4-1	32.2	8.6		良好	外 7.5YR6/3 灰黄緑 内 7.5YR6/3 灰黄緑	緑褐色多く含む	外 ナブ 内 ヘラ柄すり・ナブ
29	"	"	土師器 甕	0504-4-2	12.8	4.8		良好	外 5YR8/4 黄緑 内 5YR2/6 黒	含む	外 ナブ 内 工具ナブ
30	"	"	土師器 甕	0504-4-3	13.2	5.8		良好	外 7.5YR7/4 紅褐色 内 7.5YR7/4 紅褐色	緑褐色少量と黒色 を含む	外 叩き・ナブ 内 ヘラ柄すり・ナブ
31	"	"	土師器 甕	0504-4-4	18.0	3.6		良好	外 7.5YR7/3 紅褐色 内 7.5YR6/2 黒	緑褐色多く含む	外 叩き・ナブ 内 ヘラ柄すり・ナブ
32	"	"	土師器 高坏	0504-4-5	8.5	15.0		良好	外 7.5YR7/6 緑 内 7.5YR7/6 緑	2-3mm 大小の 石灰質骨片を含む	外 ヘラ柄すり後ナブ 内 ナブ
33	"	"	弥生 甕	0504-4-6	7.7	2.5		良好	外 7.5YR7/4 紅褐色 内 7.5YR7/6 緑	砂粒多く含む	外 ヘラ柄すり後ナブ 内 工具ナブ・出現位置
34	"	"	弥生 甕	0504-4-7	3.3	1.8		良好	外 7.5YR7/4 紅褐色 内 7.5YR7/2 暗黄緑	緑褐色含む	外 叩き 内 ヘラ柄すり・ナブ
35	"	"	弥生 甕	0504-4-8	3.2	6.0		良好	外 10YR5/2 暗黄緑 内 7.5YR5/2 黄緑	2-3mm 大小の 石灰質骨片を含む	外 叩き・ナブ 内 ナブ・工具類
36	"	"	弥生 甕	0504-4-9	3.2	3.8		良好	外 2.5YR1 黒 内 2.5YR1 黒	緑褐色含む	外 叩き・ナブ 内 工具類
37	"	"	弥生 甕	0504-4-10	4.2	3.8		良好	外 5YR7/6 緑 内 10YR7/2 黒	緑褐色含む	外 ナブ 内 工具類
38	"	"	土師器 コシブ	0504-4-11	5.6	5.8	4.1	良好	外 10YR7/4 紅黄緑 内 10YR7/4 紅黄緑	緑褐色含む	外 叩き・ヘラ柄すり 内 ナブ・指環・土師器
39	"	"	弥生 甕	0504-4-12	4.7			良好	外 7.5YR7/4 黄緑 内 7.5YR6/3 黄緑	2-3mm 大小の 石灰質骨片を含む	外 叩き・細土甕 内 磁器皿
40	"	"	土師器 甕	0504-4-15	2.3			良好	外 7.5YR8/4 黄緑 内 7.5YR7/4 紅褐色	緑褐色含む	外 叩き 内 柄すり
41	尾尾小学校遺跡 (第5次調査)	調査区1 東部南西	弥生 甕	0001-2-6	35.2		11.6	良好	外 5YR8/6 緑 内 5YR6/6 緑	2mm 大小の小 と細砂を含む	外 ヘラ柄すり・白磁器片・陶器片・瓦片 内 ナブ
42	"	"	弥生 甕	0001-2-4	6.0	4.8		良好	外 2.5YR6/6 紅褐色 内 10YR8/2 暗黄緑・7.5YR6/2 黒褐色	白色砂粒多く含む	外 ナブ柄すり・ナブ 内 ヘラ柄すり・ナブ
43	"	"	土師器 甕	0001-2-2	10.4		11.7	良好	外 5YR8/6 緑 内 7.5YR6/2 黄緑	赤褐色多く含む	外 磁器皿・漆片 内 ナブ
44	"	"	土師器 甕	0001-2-9	13.4		4.8	良好	外 10YR6/2 紅白 内 10YR6/2 紅白	緑褐色と細砂 多く含む	外 磁器皿 内 ヘラ柄すり・ナブ
45	"	"	土師器 鉢	0001-2-1	12.4		3.7	良好	外 5YR7 黒 内 5YR1 黒	緑褐色と黒色 を含む	外 ヘラ柄すり 内 ナブ
46	"	"	土師器 罎	0001-2-5	12.8		4.8	やや小さい	外 7.5YR6/3 黄緑 内 7.5YR6/4 黄緑	緑褐色と細砂 を含む	外 内 磁器片のため不明
47	"	"	弥生 甕	0001-2-7	16.4		5.9	良好	外 10YR 灰・5YR7/3 紅褐色 内 10Y 灰	白色砂粒を含む	外 叩き・目録ナブ 内 土師器ナブ
48	"	"	弥生 甕	0004-2-3	12.3	4.4	4.1	良好	外 10Y 灰 内 10Y 灰	6mm 程度の赤褐色 を含む	外 土師器ナブ・高野田紅ヘラ柄すり 内 土師器ナブ・磁器ナブ
49	"	"	弥生 高坏	0001-2-8	10.8	4.5		良好	外 10Y 灰 内 10Y 灰	緑褐色含む	外 磁器ナブ・4箇所有骨片 内 土師器ナブ
50	"	調査区1 土坑3	土師器 杯	0001-3-5	25.6		12.6	良好	外 7.5YR7/4 紅褐色 内 7.5YR6/3 黄緑・6YR7/4 紅褐色	緑褐色と黒色 を含む	外 ナブ・2箇一対の穿孔・2箇所 内 ナブ
51	"	"	土師器 鉢	0001-3-3	26.0		6.0	良好	外 7.5YR7/4 紅褐色 内 10YR7/4 紅褐色	赤褐色と黒色 を含む	外 ヘラ柄すり後ナブ・漆片 内 ナブ
52	"	"	土師器 埴輪	0001-3-4	20.4		6.0	良好	外 5YR7/4 紅褐色 内 5YR5/2 暗黄緑・5YR7/4 紅褐色	赤褐色少量と黒色 を含む	外 塚村集のたぬき 内 ナブ
53	"	"	土師器 洗滌	0001-3-6	31.8		7.1	良好	外 5YR6/4 紅褐色 内 5YR6/4 紅褐色・5YR4/1 黄緑	赤褐色と黒色 を含む	外 ヘラ柄すり後ナブ・2箇一対の 穿孔・2箇所 内 ナブ
54	"	"	陶器 甕	0001-3-7	14.6	19.1		劣悪	外 10YR6/4 赤褐色・2.5YR6/6 緑 内 2.5YR7/6 黒	緑褐色含む	外 ヘラ柄すり後ナブ 内 磁器片

番号	道 路 名	山上地点	地 形 種 別	造形番号	法 尺 (cm)			状 況	色 調	給 土	調 整
					口 径	器 高	産 径				
55	相中小学校道路 (第5式調整)	調整区1 土坑6	段付 前	0601-4-1	9.4	3.0	4.0	良好	地色 10Y7.5 灰白 段付 10B301 黒灰	並	外 道路・道路脇 内 道路
56	"	"	段付 直	0601-4-2	10.4	2.1	6.0	良好	地色 N8 灰白 段付 藍色	並	外 道路 内 道路
57	"	"	海側 堤防	0601-4-5		4.2	3.5	良好	地色 2.5YR2 灰白 断面 7.5YR32 黒灰	調整少量含む	外 道路・河川堤防・水辺 内 道路
58	"	"	瓦葺 大井	0601-4-4	18.0	21.2	14.1	良好	外 N8 灰白 内 N8 灰白	調整少量含む	外 壁・ナブ・瓦葺 内 工具ナブ
59	"	調整区1 土坑7	段付 前	0601-4-2	10.4		6.4	悪化	地色 10Y7.1 灰白 段付 10B301 黒灰	並	外 道路 内 道路
60	"	調整区1 溝1	溝式 溝	0601-4-2		4.5		良好	外 10YR3 紺・調整 内 10YR32 灰白	調整多く含む	外 橋子明き 内 ナブ
61	"	"	海側 前	0601-4-1	12.4	4.8	4.0	悪化	粘土 5YR4 紺・調整 断面 7.5YR32 黒灰・7.5YR21 黒	並	外 道路・田舎道・道路脇 内 道路
62	"	調整区1 溝2	土留置 溝	0601-7-2	27.4	5.0		やや悪い	外 5YR36 紺 内 7.5YR3 紺・調整	調整少量含む 含む	外 ナブ・堤付 内 ナブ
63	"	"	上家賃 道路	0601-7-10	39.4	6.1		良好	外 7.5YR4 調整・7.5YR2 紺 内 10YR24 紺・調整	調整含む	外 ヘラ柄りなナブ・堤付 内 工具ナブ
64	"	"	壁式 溝	0601-7-12	32.4	4.9		悪化	外 2.5YR4 紺・調整 内 5YR41 調整・5YR6 紺	調整少量含む	外 ナブ 内 ナブ・8本一対の溝目
65	"	"	溝式 溝	0601-7-13		5.2		悪い	外 N8.5 灰白・2.5YR6 紺 内 2.5YR6 紺	調整少量含む	外 ナブ 内 ナブ・10本一対の溝目
66	"	"	溝式 溝	0601-7-11	66.6	9.7		悪化	外 2.5YR4 紺・調整 内 10B45 紺	調整含む	外 自然 内 ヘラ柄りなナブ
67	"	"	白磁 瓦	0601-7-3	7.8	4.2	2.8	悪化	外 N8 灰白 内 N8 灰白	並	外 道路・高台堤防 内 道路
68	"	"	白磁 瓦	0601-7-4		4.8	3.6	悪化	外 N8 灰白 内 N8 灰白	並	外 道路・高台堤防 内 道路
69	"	"	段付 前	0601-7-6	9.8	5.55	4.2	悪化	地色 N8 灰白 段付 藍色	並	外 道路 内 道路
70	"	"	海側 溝	0601-7-1	11.0	7.45	5.0	悪化	外 10YR3 調整 内 10YR3 調整	並	外 道路・瓦入 内 道路
71	"	"	調整 溝	0601-7-5	0.6	5.4		悪化	粘土 5YR1 灰白 断面 50Y 赤・調整	並	外 道路・ヘラ柄りなナブ・道路脇 内 調整
72	"	"	海側 溝	0601-7-2	7.0	6.1		悪化	粘土 2.5YR24 紺・調整 断面 10YR21 調整	並	外 道路 内 調整
73	"	"	土留置 溝	0601-7-8	3.0 (壁)		2.7 (壁)	良好	外 10B4 紺・調整・調整 断面 4.5YR4 調整	調整多く含む	外 ナブ
74	"	"	瓦葺 瓦子	0601-7-7	4.2 (長径)	3.8 (短径)	1.8 (厚さ)	やや悪い	外 N8 灰白 ~N7 灰白	白色調整含む	外 ナブ 瓦葺
75	"	調整区1 井戸	井戸 瓦水鏡	0601-4-1	2.6 (壁径)						文蔵
76	"	調整区1 溝	溝式 溝	0601-4-4		4.8		悪化	外 N4 灰白・調整 内 2.5YR2 紺	調整少量含む	外 調整ナブ・調整 内 ナブ
77	"	"	石積 溝	0601-4-3	1.9 (壁)	3.85 (長径)	0.4 (厚さ)				
78	"	調整区1 溝	溝式 溝	0601-10-2		7.4	6.2	良好	外 10B56 紺・調整 内 10YR32 紺・調整	2~7mm 大小の石・調整多く含む	外 同色目・調整 内 ナブ
79	"	"	調整 溝	0601-10-1		1.4		悪化	外 N5 灰 内 N6 灰	調整含む	外 ナブ・高台ヘラ柄り 内 ナブ・調整
80	"	"	調整 溝	0601-10-3	24.2	7.7		悪化	外 N7 灰白 内 N8.5 灰白・調整	調整含む	外 橋子明き・ナブ・自然 内 調整
81	"	"	調整 溝	0601-4-2	11.4	2.2	5.0	悪化	粘土 2.5YR2 灰白 断面 5YR1 灰白	並	外 調整・高台・調整 内 道路

番号	遺跡名	出土地点	種別 群種	遺物番号	法 量(cm)			構成	色 質	胎 土	調 査	
					口 径	器 高	底 径					
82	高砂小学校遺跡 (第5次調査)	調査区1 溝長	埴輪 埴	0001-9-1	17.4	9.5		陶眼	赤土 5YR2/4 灰青 緑黄 5YR2/3 緑イリーブ-5YR2 灰白	黒砂粘土	外 陶輪・口縁部が崩れ 内 地味・口縁部が崩れ	
83	"	"	陶器 甕	0001-10-5	7.2	17.6	8.4	陶眼	赤土 5YR2/1 灰白 緑黄 10YR2/9 黄・黄赤-10YR2/1 黒 →5YR2 緑イリーブ	黒砂粘土	外 地味・底縁部が崩れ・ナズ 内 ナズ	
84	"	"	磁器 瓶	0001-10-6	1.9	23.3	6.0	陶眼	赤土 N8 灰白 黄赤 N8 灰白	黒砂粘土	外 地味・「益田線道 大坂西区 百五番地」印 内 穴開のため不明	
85	"	"	陶器 埴	0001-10-4	21.5 (一辺)	20.4 (一辺)	20.3 (一辺)	瓦葺	赤土 7.5YR2/4 赤・黄 黄赤 7.5YR2/8 黄	黒砂粘土	外 地味 内 ナズ	
86	"	調査区2	弥生 土	0001-1-1	24.2	2.2		良好	外 10YR2/6 赤・黄 内 5YR2/4 赤・黄	2~3mm 大の 小石多くと黒砂 粘土	外 ナズ・口縁部が崩れ 内 ナズ	
87	"	"	弥生 土	0001-1-2	27.0	8.8		良好	外 5YR2/4 赤・黄 内 7.5YR2/4 赤・黄	2~3mm 大の 小石と粘土	外 ヘラ跡き・ナズ 内 遺物のため不明	
88	"	"	弥生 土	0001-1-3		3.1		良好	外 7.5YR2/4 赤黄 内 7.5YR2/4 赤黄	2~3mm 大の 小石多くと赤粘 土	外 遺物のため不明 内 遺物のため不明	
89	"	"	弥生 土	0001-1-4		4.2		良好	外 7.5YR2/4 赤・黄 内 7.5YR2/4 赤・黄-5YR2/6 黄	2~4mm 大の 小石多くと黒砂 粘土	外 遺物のため不明・瓦線文 内 ナズ	
90	"	"	弥生 土	0001-1-5		4.7		良好	外 10YR2/1 黄赤 内 10YR2/1 黄赤	2~3mm 大の 小石と赤粘土	外 遺物のため不明 内 遺物のため不明	
91	"	"	石函	0001-1-6	1.7 (幅)	1.8 (長さ)	0.4 (高さ)					ラメカイト
92	日中遺跡	1トレンチ	弥生 土	0005-1-1	1.5	12.6		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	黒砂粘土	外 日輪ナズ 内 ナズ	
93	"	"	弥生 土	0005-1-2	2.5	8.5		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	黒砂粘土	外 ナズ 内 ナズ	
94	"	3トレンチ	弥生 土	0005-2-1	6.0	8.4		良好	外 10YR2/1 灰白 内 10YR2/1 灰白	白色粘土 粘土	外 ヘラ跡き・武器ナズ 内 遺物のため不明	
95	"	"	土師 器	0005-2-2		6.8		良好	外 10YR2/2 灰白 内 10YR2/2 灰白	黒砂粘土	外 ヘラ跡き・ナズ 内 ナズ	
96	吉原遺跡 (第1次調査)	5坪	青磁 器	0703-1-1	14.8	3.6		陶眼	黄赤 7.5YR2/3 灰白	黄	外 地味 内 地味	
97	"	6坪	赤磁 器	0703-2-1	17.6	3.9		良好	外 5YR/1 灰白 内 5YR/1 灰白	黒砂粘土	外 日輪ナズ 内 日輪ナズ	
98	"	"	赤磁 器	0703-2-2	17.8	4.3		良好	外 N6 灰~N7 灰白 内 N6 灰白	黄	外 日輪ナズ 内 日輪ナズ	
99	"	"	土師 器	0703-2-3	31.6	7.9		良好	外 7.5YR2/4 赤・黄-7.5YR2/2 黄赤 内 5YR2/4 赤・黄	2~3mm 大の 石炭粉多く含む	外 ナズ 内 ナズ	
100	旭山遺跡	土坑1-1	弥生 土	0801-1-4	16.4	6.0		ややいい	外 2.5YR/1 灰白 内 2.5YR/1 灰白	赤	外 ナズ・2条の溝が自己溝 内 ナズ	
101	"	"	赤磁 器	0801-1-5	15.0	4.1		良好	外 10YR/1 灰白 内 7.5YR/1 灰	黒砂粘土と黄 粘土	外 ナズ・瓦印が崩れ 内 日輪ナズ・工具	
102	"	"	赤磁 器	0801-1-6	13.0	3.6		良好	外 N7 灰白 内 N6 灰	黒砂粘土と黄 粘土	外 日輪ナズ 内 日輪ナズ	
103	"	土坑1-2	弥生 土	0801-1-7		4.9	6.4	良好	外 7.5YR2/4 赤・黄 内 7.5YR2/1 黄赤	粘土と黒砂粘土	外 ヘラ跡き・ナズ 内 遺物のため不明	
104	"	土坑1-4	土師 器	0801-1-3	12.4	4.6		良好	外 7.5YR2/1 黄赤 内 7.5YR2/8 赤・黄-7.5YR2/2 黄赤	黒砂粘土	外 射石・ナズ 内 射石・ナズ	
105	"	"	赤磁 器	0801-1-1	14.1	4.0		良好	外 N5 灰白~N7 灰白 内 N5 灰白~N7 灰白	黒砂粘土と黄 粘土	外 ナズ・瓦印が崩れ 内 日輪ナズ	
106	"	"	赤磁 器	0801-1-2	16.0	4.05		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	黒砂粘土と黄 粘土	外 ナズ・瓦印が崩れ 内 日輪ナズ	

番号	通 路 名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 器(cm)		製 成	色 質	胎 土	調 整
					口 径	底 径				
107	城山遺跡	溝1-1	弥生 甕	0801-1-8	4.0	5.2	良好	外 10YR20 灰白 内 7.5YR20 灰黄緑	黒粘土含む	外 明き・ナブ 内 ヘラ磨き・底面磨削痕あり
108	＃	P2-1	弥生 甕	0801-2-7	8.4	9.8	良好	外 7.5YR24 赤 4E 内 7.5YR24 赤 4E	黒粘土と白砂 含む	外 ヘラ磨き 内 黒粘土
109	＃	2 トレンチ 埴輪色土	弥生 甕	0801-2-5	19.4	4.5	良好	外 7.5YR20 赤 4E 内 7.5YR20 赤 4E	黒粘土含む	外 ナブ 内 ナブ
110	＃	＃	弥生 甕	0801-2-1	13.8	4.3	良好	外 9G51 黒灰 内 9G51 黒灰	白砂粘土多量 含む	外 磨き・ナブ・底面 内 工具ナブ
111	＃	＃	弥生 甕	0801-2-2	13.2	2.2	不良	外 2.5YR2 灰白 内 2.5YR2 灰白	黒粘土多量 含む	外 ナブ・底面磨削痕 内 黒粘土
112	＃	＃	弥生 甕	0801-2-3	1.9	5.8	良好	外 N7.5 灰白 内 N7 灰白	赤粘土多量 含む	外 黒粘土・赤粘 内 黒粘土
113	＃	＃	弥生 甕	0801-2-4	1.2	6.0	良好	外 2.5YR2 灰白 内 2.5YR2 灰白	黒粘土と白砂 含む	外 ナブ・赤粘 内 ナブ
114	＃	土坑3-1	土師 甕	0801-3-7	16.2	13.4	やや悪い	外 2.5YR24 赤 4E～7.5YR24 赤 4E 内 2.5YR24 赤 4E	白砂粘土多量 含む	外 磨き 内 磨削のため不明
115	＃	＃	土師 甕	0801-3-8	17.8	4.6	良好	外 7.5YR20 赤 4E 内 7.5YR22 赤 4E～10YR22 灰白	黒粘土多量 含む	外 磨き・ナブ 内 磨削のため不明
116	＃	＃	弥生 甕	0801-3-9	6.0	9.8	良好	外 10YR20 灰白 内 10YR20 灰白～10YR22 灰黄緑	赤粘土と白砂 多量含む	外 ヘラ磨き・ナブ 内 ヘラ磨き
117	＃	＃	弥生 甕	0801-3-10	2.2	6.2	良好	外 7.5YR20 赤 4E～9E～7.5YR20 赤 4E 内 10YR22 赤 4E	2～3mm 大小 の黒粘土含む	外 ヘラ磨き・ナブ 内 磨削のため不明
118	＃	＃	弥生 甕	0801-3-11	15.1	2.9	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	赤粘土 含む	外 黒粘土 内 黒粘土
119	＃	溝3-1	弥生 甕	0801-3-13	35.0	8.0	やや悪い	外 7.5YR20 赤 4E 内 7.5YR20 赤 4E	2mm 大小の 赤粘土多量 含む	外 磨削のため不明 内 磨削のため不明
120	＃	＃	弥生 甕	0801-3-12	15.2	3.5	良好	外 9G51 黒灰 内 N5 灰	黒粘土と白砂 含む	外 ナブ・底面磨削痕 内 黒粘土
121	＃	P3-3	土師 甕	0801-3-14	14.0	4.7	良好	外 7.5YR24 赤 4E 内 9YR26 緑	赤粘土 含む	外 磨き・ナブ 内 ナブ
122	＃	3 トレンチ 埴輪色土	土師 甕	0801-3-6	13.4	3.5	良好	外 9YR24 赤 4E 内 9YR24 赤 4E	黒粘土と白砂を 含む	外 磨き・ナブ 内 ナブ
123	＃	＃	土師 甕	0801-3-5	8.2	5.0	やや悪い	外 7.5YR20 赤 4E 内 9YR26 緑	2～4mm 大小 の赤粘土含む	外 磨削のため不明 内 磨削のため不明
124	＃	＃	弥生 甕	0801-3-2	2.8	4.2	良好	外 7.5YR24 赤 4E 内 7.5YR24 赤 4E	黒粘土含む	外 磨き・底面磨削 内 磨削のため不明
125	＃	＃	弥生 甕	0801-3-3	1.7	3.8	良好	外 9YR24 赤 4E 内 9YR24 赤 4E	黒粘土含む	外 磨 内 ナブ
126	＃	＃	弥生 甕	0801-3-4	1.2	4.2	良好	外 10YR22 灰黄緑～9YR24 赤 4E 内 7.5YR20 赤 4E	2～3mm 大小 の赤粘土含む	外 磨 内 ナブ
127	＃	＃	弥生 甕	0801-3-1	15.0	4.1	良好	外 N6 内 N6	黒粘土と白砂 含む	外 ナブ・底面磨削痕 内 黒粘土
128	御津中河遺跡	1 トレンチ	弥生 甕	0802-1-1	13.0	2.1	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	白砂粘土少量 含む	外 黒粘土 内 黒粘土
129	古瀬田遺跡 (第2次調査)	調査区1 土坑1-3	弥生 甕	0805-1-13	15.2	5.3	良好	外 N7 灰白 内 N5 灰	黒粘土含む	外 黒粘土 内 黒粘土
130	＃	土坑1-4	弥生 甕	0805-1-14	10.4	2.7	良好	外 N4 灰～N5 灰 内 N6 灰	黒粘土含む	外 ナブ 内 ナブ
131	＃	＃	土師 甕	0805-1-16	3.0	9.2	悪い	外 7.5YR24 赤 4E 内 7.5YR24 赤 4E	黒粘土含む	外 磨削のため不明・底面ヘラ切 内 磨削のため不明
132	＃	＃	弥生 甕	0805-1-15	5.3	5.4	不良	外 7.5YR20 赤 4E 内 7.5YR20 灰白	黒粘土含む	外 磨削のため不明・赤粘 内 磨削のため不明
133	＃	P1-4	弥生 甕	0805-1-17	14.0	4.2	不良	外 10YR20 灰白 内 2.5YR2 灰白	赤粘土 含む	外 黒粘土 内 黒粘土

番号	道 路 名	出土地点	種別 等級	建物番号	法 量(cm)			状 況	色 調	給 土	調 整
					口 径	深 度	深 径				
134	吉野内線跡 (旧2次調査)	調整区1 P1-16	土留 土堤	0805-1-21	1.0	2.5		良好	外 7.5YR5/2 赤褐・6YR5/3 赤・黄 内 7.5YR5/2 赤褐・6YR5/3 赤・黄	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
136	"	P1-26	土留 小堀	0805-1-18	9.0	1.8	3.9	良好	外 6YR3/8 黄 内 5YR3/6 黄	腐葉土含む	外 ナゾ 内 ナゾ
136	"	P1-34	土留 小堀	0805-1-19	8.0	2.0	5.5	やや甘い	外 10YR5/2 灰白 内 10YR5/2 灰白	腐	外 ナゾ・底部へラ切り後ナゾ 内 ナゾ
137	"	P1-42	土留 土堀	0805-1-20	30.0	8.7		良好	外 7.5YR5/3 赤・黄 内 7.5YR5/3 赤・黄	2~4mm 大小の 小石・腐葉・砂 较多く含む	外 腐葉土 内 腐葉土のため不明
138	"	"	茶褐色砂礫 土留 崖	0805-1-1	18.4	7.8		不良	外 10YR5/2 灰白 内 7.5YR5/3 赤黄緑	腐葉土多く含む	外 腐葉土のため不明 内 腐葉土のため不明
138	"	"	土留 崖	0805-1-2	18.8	5.7		甘い	外 6YR3/8 黄 内 6YR3/8 黄・6YR5/6 黄	腐葉土多く含む	外 腐葉土のため不明 内 腐葉土のため不明
140	"	"	土留 崖	0805-1-3	11.0	4.6		良好	外 10YR5/4 赤・黄褐・5YR5/3 赤・黄緑 内 10YR5/2 赤・黄緑	腐葉土含む	外 ナゾ・腐葉土 内 ナゾ・へラ切り
141	"	"	土留 崖	0805-1-4	12.0	2.3		良好	外 7.5YR5/2 赤黄 内 7.5YR5/2 赤黄	腐	外 ナゾ 内 ナゾ
142	"	"	土留 崖	0805-1-5	15.8	5.6		良好	外 6YR4/4 赤・黄褐 内 2.5YR5/6 赤黄緑	腐葉土と腐葉土 含む	外 ナゾ・明き後腐葉土・ 内 腐葉土・ナゾ
143	"	調整区1 遺構跡	筑込 掘跡	0805-1-6	27.0	9.7	8.8	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	腐葉土含む	外 ナゾ・底部へラ切り 内 ナゾ
144	"	"	築込 掘跡	0805-1-7	13.6	4.4	6.6	良好	外 N6 灰・N7 灰白 内 N6 灰・N7 灰白	腐	外 調整ナゾ・赤黄緑 内 調整ナゾ
145	"	"	築込 掘跡	0805-1-8		1.1	5.2	良好	外 2.5GY 明オリーブ灰 内 2.5GY 明オリーブ灰	腐葉土少量含む	外 ナゾ・赤黄緑 内 ナゾ
146	"	"	築込 掘跡	0805-1-9		1.3	4.4	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	腐葉土少量含む	外 ナゾ・赤黄緑 内 ナゾ
147	"	"	築込 掘跡	0805-1-10		1.5	6.4	良好	外 N6 灰 内 N7 灰白	白色腐葉土含む	外 ナゾ・赤黄緑 内 調整ナゾ
148	"	"	築込 掘跡	0805-1-11		3.9	6.0	良好	外 N6.5 灰 内 N6.5 灰	腐葉土含む	外 調整ナゾ・赤黄緑 内 調整ナゾ
149	"	"	土留 土堀	0805-1-12		8.7	3.2	良好	外 2.5YR2 赤黄 内 2.5YR2 赤黄	腐葉土含む	外 ナゾ
150	"	調整区2 土溝2-2	土留 小堀	0805-2-1	9.2	1.8	7.0	良好	外 6YR3/8 黄・6YR3/4 赤・黄 内 6YR3/8 黄	腐葉土含む	外 ナゾ 内 ナゾ
151	"	"	土留 小堀	0805-2-2	8.8	1.5	7.3	やや甘い	外 7.5YR5/2 赤黄緑 内 7.5YR5/3 赤黄緑	腐	外 ナゾ 内 ナゾ
152	"	"	土留 小堀	0805-2-4	8.5	2.0	5.0	やや甘い	外 7.5YR5/2 灰白 内 7.5YR5/2 灰白	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
153	"	"	土留 小堀	0805-2-6	8.6	1.6		やや甘い	外 7.5YR3/2 赤黄緑 内 7.5YR3/2 赤黄緑	腐	外 ナゾ 内 ナゾ
154	"	"	土留 小堀	0805-2-7	8.6	1.5	5.8	やや甘い	外 7.5YR4/4 赤黄緑 内 7.5YR4/4 赤黄緑	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
155	"	"	土留 小堀	0805-2-8	10.0	1.15	8.0	やや甘い	外 7.5YR4/4 赤黄緑 内 7.5YR4/4 赤黄緑	腐	外 ナゾ 内 ナゾ
156	"	"	土留 小堀	0805-2-9	9.4	1.4	6.0	やや甘い	外 7.5YR5/3 赤黄緑 内 7.5YR5/3 赤黄緑	腐	外 ナゾ 内 ナゾ
157	"	"	土留 小堀	0805-2-10	8.4	1.4	8.0	やや甘い	外 6YR3/4 赤・黄 内 5YR3/4 赤・黄	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
158	"	"	土留 小堀	0805-2-11	8.6	1.4	5.6	やや甘い	外 7.5YR4/4 赤黄緑 内 7.5YR4/4 赤黄緑	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
159	"	"	土留 小堀	0805-2-12	9.8	1.6	6.4	やや甘い	外 7.5YR4/4 赤黄緑 内 7.5YR4/4 赤黄緑	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ
160	"	"	土留 小堀	0805-3-12	8.6	1.4	5.0	やや甘い	外 7.5YR4/4 赤黄緑 内 7.5YR4/4 赤黄緑	腐葉土少量含む	外 ナゾ 内 ナゾ

番号	産 場 名	出土地点	種別 産種	産物番号	注 釈(cm)			採 取	色 状	結 晶	異 状
					口 径	器 高	差 径				
161	内野産物部 (第2次産品)	新庄区3 土灰2-2	土灰類 灰	0805-2-5	14.4	3.4	10.0	甘い	外 7.5YR5 浅緑色 内 7.5YR5 浅緑色	黒	外 ナブ 内 ナブ
162	#	#	土灰類 羽釜	0805-2-14	24.8	11.5		良好	外 7.5YR36 緑 内 7.5YR26 灰	黒砂状と赤砂多 く含む	外 ナブ・黒毛目 内 黒毛目
163	#	#	土灰類 羽釜	0805-2-15	38.0	6.0		良好	外 10YR26 灰白 内 10YR22 灰白	黒砂状含む	外 ナブ 内 黒毛目
164	#	#	土灰類 羽釜	0805-2-17	35.2	5.7		良好	外 10YR22 灰白 内 10YR20 灰白	赤砂多く含む	外 ナブ 内 ナブ・黒毛目
165	#	#	土灰類 土鍋	0805-2-18	31.4	8.7		良好	外 5YR41 灰 内 7.5YR65 灰-黒~7.5YR24 灰黒	赤砂含む	外 ナブ・赤い後粒・黒毛目 内 黒毛目・黒毛目
166	#	#	土灰類 土鍋	0805-2-19	35.2	8.1		良好	外 10YR20 純-黄緑 内 7.5YR24 緑-黄	赤砂含む	外 ナブ・黒毛目 内 黒毛目
167	#	#	土灰類 土鍋	0805-2-20	31.8	5.0		良好	外 10YR22 純-黄緑 内 10YR20 純-黄緑	赤砂含む	外 ナブ 内 黒毛目
168	#	#	土灰類 土鍋	0805-2-21	30.0	5.0		良好	外 10YR20 純-黄緑 内 10YR20 純-黄緑	赤砂含む	外 ナブ・黒い黒毛目 内 黒毛目
169	#	#	前志類 小皿	0805-2-3	7.9	1.7	5.4	良好	外 N5 灰~N7 灰白 内 N7 灰白	黒	外 黒いナブ・赤い黒 内 黒いナブ
170	#	#	前志類 甕	0805-2-16	36.6	5.2		良好	外 10YR21 黒 内 10YR22 灰黒	赤砂含む	外 ナブ・赤い 内 ナブ
171	#	#	滑石	0805-2-22			8.2				
172	#	土灰2-5	土灰類 小皿	0805-2-23	8.0	1.35	5.4	良好	外 7.5YR24 浅緑 内 7.5YR24 浅緑	黒	外 ナブ 内 ナブ
173	#	#	灰山類 甕	0805-2-24		3.8	7.3	不良	外 N8 灰 内 N9 灰	2~4mm 大小 石と黒砂を含む	外 ナブ・赤い黒 内 ナブ
174	#	土灰2-8	土灰類 小皿	0805-2-25	9.0	1.4	8.0	甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 7.5YR20 浅緑	黒	外 ナブ 内 ナブ
175	#	#	土灰類 小皿	0805-2-26	8.0	1.6	5.2	甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 7.5YR20 浅緑	黒砂状少量含む	外 ナブ 内 ナブ
176	#	#	土灰類 小皿	0805-2-27	8.8	1.5	5.0	甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 7.5YR20 浅緑	黒	外 ナブ 内 ナブ
177	#	#	土灰類 小皿	0805-2-28	8.4	1.5	4.0	甘い	外 7.5YR24 浅緑 内 7.5YR24 浅緑	黒	外 ナブ 内 ナブ
178	#	土灰2-10	土灰類 羽釜	0805-2-29	31.6	20.8		良好	外 7.5YR24 純-黒~7.5YR24 灰 内 10YR22 灰白	黒砂多く含む	外 ナブ・黒毛目・黒い後粒 内 黒毛目
179	#	土灰2-15	土灰類 土鍋	0805-2-30	29.4	6.0		やや甘い	外 10YR24 浅緑 内 10YR26 浅緑*	赤砂含む	外 黒毛目・ナブ 内 黒毛目
180	#	#	前志類 甕	0805-2-31		1.5	6.1	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	黒砂含む	外 黒いナブ・赤い黒 内 黒いナブ
181	#	土灰2-16	土灰類 甕	0805-2-32	15.8	3.0	9.8	やや甘い	外 6YR24 浅緑 内 7.5YR24 浅緑	赤砂少量と黒砂 を含む	外 ナブ 内 ナブ
182	#	P2-1	土灰類 小皿	0805-2-67	8.8	1.5	5.7	良好	外 6YR26 黄 内 2.5YR26 灰	黒砂を含む	外 ナブ 内 ナブ
183	#	P2-52	土灰類 小皿	0805-2-68	9.6	1.8	6.2	やや甘い	外 10YR22 灰白 内 10YR22 灰白	黒砂を含む	外 ナブ 内 ナブ
184	#	P2-56	青磁 甕	0805-2-70		6.2	6.0	堅軟	粘土 10YR20 純-黄緑 細面 10Y オリーブ灰	黒砂少量含む	外 黒い・黒い砂出し・赤い後粒 内 黒い
185	#	P2-58	青磁 甕	0805-2-72		3.3		堅軟	外 10YR22 オリーブ灰 内 10YR22 オリーブ灰	黒	外 黒い・黒い 内 黒い・黒い
186	#	清2-4	小皿	0805-2-68	9.0	1.2	6.0	やや甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 10YR24 浅緑	黒砂と少量の 黒を含む	外 ナブ 内 ナブ
187	#	#	土灰類 小皿	0805-2-51	9.0	1.5	5.0	甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 7.5YR20 浅緑	黒砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
188	#	#	土灰類 小皿	0805-2-52	8.8	1.6	5.1	甘い	外 7.5YR20 浅緑 内 7.5YR20 浅緑	黒	外 ナブ 内 ナブ

番号	遊跡名	山土地点	種別 詳細	遺物番号	法 量(cm)			炭 成	色 調	土 質	具 型
					口 径	器 高	底 径				
189	吉野内遺跡 (第2次調査)	調査区2 溝2-4	土師器 壺	0805-2-61	24.6	7.6		良好	外 6YR6/4 赤-黄 内 7.5YR6/4 赤-黄	2~3mm次の小 石少量と破片含む	外 ナブ・明き 内 ナブ
190	"	"	土師器 土埴	0805-2-60	1.1	4.6		やや甘い	外 7.5YR6/6 黄-2.5YR6/6 黄	細砂少量含む	外 ナブ
191	"	"	土師器 土埴	0805-2-73	1.4	5.6		良好	外 10YR6/2 灰白	砂多量含む	外 磨耗のため不明
192	"	"	灰土器 小皿	0805-2-46	8.6	1.8		良好	外 N7 灰白~N6 灰 内 N7 灰白~N6 灰	細砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
193	"	"	須恵系 土埴	0805-2-39	16.0	4.5	8.4	やや甘い	外 N15 灰白 内 N15 灰白	細砂少量と炭 破片多量含む	外 ナブ・糸切痕 内 ナブ
194	"	"	須恵系 土埴	0805-2-53	18.2	4.5	6.0	甘い	外 N7 灰白~N5 灰 内 N7 灰白	細砂少量と炭 破片多量含む	外 ナブ・ヘア割り 内 ナブ
195	"	"	須恵系 土埴	0805-2-41	16.4	4.6		良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
196	"	"	灰土器 土埴	0805-2-47	16.4	4.1		良好	外 N 灰~N2 黄灰 内 N6.5 灰白	白色顔料の多 量含む	外 灰土ナブ・ナブ・自然釉 内 ナブ
197	"	"	須恵系 土埴	0805-2-54	16.2	3.6		良好	外 7.5Y7/4 灰白 内 7.5Y7/4 灰白	細砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
198	"	"	灰土器 土埴	0805-2-55		2.6	5.4	良好	外 5Y7/1 灰白 内 5Y7/1 灰白	細砂少量と炭 破片含む	外 ナブ・糸切痕 内 ナブ
199	"	"	須恵系 土埴	0805-2-44		1.9	5.6	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	細砂少量のこ ろ含む	外 ナブ・糸切痕 内 ナブ
200	"	"	灰土器 土埴	0805-2-56		1.6	4.4	良好	外 N7 灰白 内 N7 灰白	細砂少量含む	外 ナブ・糸切痕 内 ナブ
201	"	"	須恵系 土埴	0805-2-57		1.5	4.9	良好	外 N15 灰白 内 N15 灰白	細砂少量と炭 破片含む	外 ナブ・糸切痕 内 ナブ
202	"	"	瓦器 小皿	0805-2-45	8.8	1.9	5.3	良好	外 N6 灰 内 N3 灰	細砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
203	"	"	瓦器 小皿	0805-2-49	10.2	1.5	5.0	やや甘い	外 N3 黄灰 内 N4 黄灰	細砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
204	"	"	瓦器 小皿	0805-2-80	9.0	1.8	5.0	やや甘い	外 N4 灰 内 N4 灰~N4 灰	細砂少量含む	外 ナブ 内 ナブ
205	"	"	瓦器 土埴	0805-2-40	15.2	5.25		良好	外 N2 黄~10YR6/2 灰白 内 N2 黄~10YR6/2 灰白	細砂少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
206	"	"	瓦器 土埴	0805-2-42	14.4	5.7	4.8	やや甘い	外 N7 灰白~N2 黄 内 N7 灰白~N2 黄	細砂少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
207	"	"	瓦器 土埴	0805-2-58	15.0	5.25	4.6	やや甘い	外 N7 灰白~N5 灰 内 N7 灰白~N6 灰	細砂少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
208	"	"	瓦器 土埴	0805-2-59	14.8	5.9	4.8	甘い	外 2.5YR6/2 灰白~N2 黄 内 2.5YR6/2 灰白~N2 黄	炭	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
209	"	"	瓦器 土埴	0805-2-43		1.1	4.6	やや甘い	外 N5 灰~5YR1 灰白 内 N5 灰~5YR1 灰白	細砂少量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
210	"	"	白磁	0805-2-62		5.2	5.8	無炭	粘土 7.5Y7/4 灰白 釉薬 7.5Y7/1 灰白	炭	外 施釉・付出し裏面 内 施釉
211	"	"	磁	0805-2-74		2.0	4.8				
212	"	西北遺築色 砂層	土師器 土埴	0805-2-36	34.4	16.7		良好	外 5YR6/4 赤-黄 内 6YR6/4 赤-黄	細砂多量含む 炭少量含む	外 ナブ 内 ナブ・指痕直
213	"	"	土師器 土埴	0805-2-38	14.0	9.0		甘い	外 7.5YR7/6 黄 内 7.5YR7/6 黄	細砂多量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
214	"	"	土師器 土埴	0805-2-33	16.6	6.7		やや甘い	外 10YR6/6 黄黄 内 10YR6/4 黄黄	細砂多量含む	外 磨耗のため不明 内 磨耗のため不明
215	"	"	外生 甕	0805-2-35		2.9	4.4	良好	外 10YR6/1 黄灰~10YR6/1 黄灰 内 7.5YR7/3 黄-灰	3mm 大小の小 石と炭少量含む	外 明き・刷毛目 内 ナブ

番号	遊跡名	出土地点	埋蔵器種	遺物番号	法 量(cm)		説 成	色 調	胎 土	注 記	
					口 径	底 径					
216	古部内遺跡 (第2次調査)	調査区2 西北隅褐色 砂層	土灰 夾	0805-2-35	3.9	4.0	良好	外 NS 48R 内 NS 10C	黒粘土	外 厚さ・ナブ 内 厚さ後ナブ	
217	#	#	土灰 砂層	0805-2-37	6.2	10.6	やや甘い	外 SYR26 壁 内 SYR26 壁	黒粘土	外 厚粘 内 厚粘	
218	#	床土→灰層 色砂質土	土灰 土層	0805-2-64	2.0	3.36	良好	外 NS 1C 内 NS 1C	黒粘土	外 ナブ	
219	#	#	土灰 砂層	0805-2-65	1.4	6.2	良好	外 4801 帯灰 内 4801 帯灰	黒粘土	外 ナブ・赤切り底 内 ナブ	
220	#	#	土灰 小皿	0805-2-63	9.2	2.3	良好	外 NS 3C~NS 10C 内 NS 1C~NS 10C	黒粘土	外 ナブ 内 ナブ	
221	#	#	土灰 小皿	0805-2-71	16.6	4.0	悪化	胎土 SY71 灰 厚底 SY62 灰オリーブ	黒	外 厚粘・赤粘土 内 厚粘	
222	#	#	土灰 小皿	0805-2-68	2.0	9.75		外 NS 48R 内 NS 48R	黒粘土	黒 赤粘土 凸部赤粘土	
223	#	#	土灰 小皿	0805-2-69	2.4	6.25					
224	#	調査区3 土灰3-1	土灰 土層	0805-3-13	30.0	12.5	良好	外 10YR20 6/2 赤 内 2.5Y7.5 10R	黒粘土	外 ナブ 内 厚粘のため不明	
225	#	土灰3-2	土灰 小皿	0805-3-14	8.0	1.3	5.7	良好	外 SYR26 壁 内 SYR26 壁	黒粘土	外 ナブ・ヘラ切り底 内
226	#	土灰3-3	土灰 小皿	0805-3-15	16.6	5.0	悪化	胎土 10YR1 灰白 厚底 2.5Y7.5 10R	黒粘土	外 厚粘・下層粘 内 厚粘	
227	#	#	土灰 小皿	0805-3-16	2.7	6.0	悪化	胎土 7.5Y7.5 10R 厚底 7.5Y7.5 10R	黒粘土	外 厚粘・削り出し灰白 内 厚粘	
228	#	土灰3-7	土灰 小皿	0805-3-18	9.2	1.7	やや甘い	外 SYR26 壁~SYR26 赤粘土 内 SYR26 壁~SYR26 赤粘土	黒粘土・赤粘土 少量含む	外 厚粘・底面ヘラ切り後ナブ 内 厚粘のため不明	
229	#	#	土灰 小皿	0805-3-19	8.5	1.6	5.4	良好	外 SYR26 壁 内 7.5Y7.5 10R 壁~10YR2 灰白	黒	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
230	#	#	土灰 小皿	0805-3-20	8.9	1.8	5.4	良好	外 SYR26 壁 内 SYR26 壁	黒	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
231	#	#	土灰 小皿	0805-3-21	14.8	4.4	8.6	良好	外 SYR26 壁~10YR24 赤・壁 内 SYR26 壁~10YR2 灰白	黒粘土	外 ナブ・指節直直 内 ナブ
232	#	#	土灰 小皿	0805-3-17	15.0	4.0	9.4	良好	外 SYR26 壁~10YR2 灰白 内 SYR26 壁~10YR2 灰白	黒	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
233	#	#	土灰 小皿	0805-3-46	2.5	24.2	(金糸)				
234	#	P3-13	土灰 小皿	0805-3-30	15.0	4.1	良好	外 NS 灰 内 NS 灰	黒粘土	外 厚粘ナブ 内 厚粘ナブ	
235	#	P3-57	土灰 小皿	0805-3-31	14.0	4.9	悪化	胎土 2.5Y7.5 10C 厚底 2.5Y7.5 10R	黒	外 厚粘・下層粘 内 厚粘	
236	#	P3-71	土灰 小皿	0805-3-32	8.1	15.0	5.7	良好	外 2.5Y7.5 10R 内 2.5Y7.5 10R	黒粘土	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
237	#	P3-90	土灰 小皿	0805-3-35	2.7	6.2	良好	外 NS 灰 内 NS 灰	黒粘土	外 厚粘ナブ・赤粘土 内 厚粘ナブ	
238	#	P3-94	土灰 小皿	0805-3-45	8.0	1.26	5.8	やや甘い	外 7.5Y7.5 10R 壁 内 4808 灰	黒粘土	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
239	#	P3-107	土灰 小皿	0805-3-36	5.4	1.4	6.0	やや甘い	外 SYR26 壁~SYR26 赤粘土 内 SYR26 壁	黒	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
240	#	P3-119	土灰 小皿	0805-3-37	8.8	1.5	6.4	良好	外 10YR20 6/2~10YR2 赤 内 10YR20 6/2~10YR2 赤	黒・赤粘土	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
241	#	#	土灰 小皿	0805-3-38	15.9	3.2	6.1	良好	外 NS 灰 内 NS 灰	黒粘土	外 ナブ・赤粘土 内 ナブ
242	#	調査区3 土灰3-1	土灰 小皿	0805-3-3	8.6	1.2	良好	外 7.5Y7.5 10R 壁 内 7.5Y7.5 10R 壁	黒粘土	外 ナブ 内 ナブ	

番号	遺跡名	出土地区	種別 部類	遺物番号	法 量(cm)			築成	色 質	新 土	調 査
					口径	高さ	底径				
243	古墳群遺跡 (第2次調査)	調査区3 溝3-1	土師器 土師碗	0805-3-44	14.4	4.1		良好	外 2.5Y02 灰黄 内 2.5Y02 灰黄	新	外・内 多量の焼付けのため調査 不明
244	"	"	灰土器 小皿	0805-3-1	7.9	1.8	8.7	良好	外 N8 灰 内 N6 灰	白土質の灰土 外 白ナズ・赤灰 内 白土ナズ	外 白ナズ・赤灰 内 白土ナズ
245	"	"	須恵器 小皿	0805-3-39	8.5	5.2	6.4	良好	外 N3.5 灰～N8 灰 内 N3.5 灰	須恵器の灰土	外 ナズ・赤切り底 内 ナズ
246	"	"	須恵器 飯	0805-3-40		2.15	5.4	良好	外 N8 灰 内 N8 灰	白土質の少量 の灰土	外 白土ナズ・赤灰 内 白土ナズ
247	"	"	須恵器 飯	0805-3-41		1.1	5.0	良好	外 N8 灰 内 N6 灰	新	外 ナズ・赤切り底 内 ナズ
248	"	"	灰土器 飯	0805-3-42		1.2	4.2	良好	外 5Y70 灰白 内 5Y70 灰白	須恵器の灰土	外 ナズ・赤灰 内 ナズ
249	"	"	須恵器 飯	0805-3-43		0.9	6.8	皆い	外 2.5Y70 灰白 内 2.5Y70 灰白	須恵器の灰土	外 ナズ・赤切り底 内 ナズ
250	"	"	瓦器 小皿	0805-3-10	9.0	2.0	4.0	良好	外 N2 灰～2.5YR72 灰黄 内 2.5Y70 灰白～5Y90 灰	須恵器の灰土	外 ナズ 内 ナズ
251	"	"	瓦器 小皿	0805-3-3	15.3	4.8	5.2	良好	外 N2 黒 内 N2 黒	須恵器の灰土	外 ナズ 内 ナズ・ヘラ跡・焼紋
252	"	"	瓦器 飯	0805-3-7	15.4	5.05	5.6	やや皆い	外 10YR04 8/6 赤～10YR04 10/6 赤 内 10YR04 8/6 赤～10YR04 10/6 赤	新	外 焼付けのため不明 内 焼付けのため不明
253	"	"	瓦器 飯	0805-3-8	15.0	5.3	6.4	良好	外 2.5Y74 灰黄～N3 焼灰 内 N3 焼灰	須恵器の灰土	外 ナズ 内 ナズ
254	"	"	瓦器 飯	0805-3-9	14.3	4.25	4.4	やや皆い	外 N8 灰～2.5Y70 灰黄 内 N8 灰～2.5Y70 灰黄	須恵器の灰土	外 ナズ 内 焼付けのため不明
255	"	"	瓦器 飯	0805-3-11	14.5	4.5		やや皆い	外 5Y40 灰 内 5Y40 灰～2.5Y70 灰黄	須恵器の灰土	外 焼付けのため不明 内 焼付けのため不明
256	"	"	瓦 平瓦	0805-3-4	9.4 (9.2)	2.4		良好	外 N3 焼灰 内 N3 焼灰	須恵器の灰土	田 布目焼 凸 創縁子印
257	"	溝3-3	土師器 高杯	0805-3-12	14.4	7.5	10.2	良好	外 5YR06 8/2～10YR06 10/2 黄 内 5YR06 8/2～10YR06 10/2 黄	須恵器の灰土	外 焼付けのため不明 内 ヘラ跡・ヒラシナズ・磨り目
258	"	北平地色砂 土	土師器 飯	0805-3-23	20.5	7.3		やや皆い	外 2.5YR08 8/2 内 2.5YR08 8/2	須恵器の灰土	外 焼付けのため不明 内 焼付けのため不明
259	"	"	土師器 飯	0805-3-22	15.5	10.0		良好	外 2.5YR28 8/2 黄 内 2.5YR28 8/2 黄	須恵器の灰土	外 ナズ・叩き・磨り目 内 ナズ・ヘラ柄
260	"	"	土師器 鉢	0805-3-24		5.0	2.7	良好	外 2.5YR76 黄～2.5YR82 灰白 内 10YR82 灰白	須恵器の灰土	外 ナズ 内 ナズ
261	"	"	土師器 鉢	0805-3-26		3.5	7.8	良好	外 2.5YR72 明黄～2.5YR91 黄 内 2.5YR72 明黄	須恵器の灰土	外 ナズ 内 磨り目
262	"	"	瓦器 飯	0805-3-25		1.3	4.0	やや皆い	外 N9 灰 内 5Y70 灰白	須恵器の少量の 灰土	外 焼付けのため不明 内 焼付けのため不明
263	"	灰土～灰黄 灰土	須恵器 杯	0805-3-27	18.5	1.5		良好	外 N7.5 灰白～N6.5 灰 内 N7.5 灰白～N6.5 灰	須恵器の灰土	外 白土ナズ・ナズ 内 ナズ
264	"	"	須恵器 飯	0805-3-28	13.0	4.45	5.2	良好	外 N6.5 灰白 内 N6.5 灰白	須恵器の少量の 灰土	外 白土ナズ・赤切り底 内 白土ナズ・ナズ
265	須恵器 (第2次調査)	1トレンチ 溝	土師器 飯	0804-1-1		11.4		良好	外 2.5YR08 灰黄 内 2.5YR08 灰黄	白土質の少量の 灰土	外 ヘラ跡 内 ヘラ跡
266	"	"	須恵器 杯	0804-1-2	12.6	2.7		良好	外 N6 灰～N7 灰 内 N7 灰	須恵器の灰土	外 白土ナズ 内 白土ナズ
267	"	4トレンチ 灰黄色砂土	須恵器 飯	0804-2-8	12.0	13.0		良好	外 2.5YR78 黄～黄 内 10YR71 灰白～2.5YR81 灰	須恵器の灰土	外 叩き後ナズ 内 磨り目
268	"	"	赤土 土	0804-2-6	20.2	4.1		良好	外 10YR02 灰白 内 10YR02 灰白	須恵器の灰土	外 ナズ・ヘラ跡・叩き 内 ヘラ跡
269	"	"	赤土 土	0804-2-9	13.6	4.5		良好	外 2.5YR70 黄～黄 内 2.5YR74 黄～黄	須恵器の灰土	外 ナズ・叩き 内 ナズ

番号	道 路 名	出土地点	種 別 種 類	遺物番号	法 器(cm)			製 成	色 調	胎 土	裏 蓋
					口 径	器 高	底 径				
270	稲穂野 (西26次運動)	4トレンチ 灰黄色砂質 土	弥生 壺	0804-23	14.0	4.9		良好	外 75YR65 浅緑色 内 75YR74 緑・黄	緑褐色・黒褐色 含む	外 ナブ・可き 内 刷毛目後ナブ
271	#	#	弥生 壺	0804-22		12.2	5.1	良好	外 5YR74 緑～5YR76 黄 内 2.5YR41 ～10YR72 緑・黄	2mm大の小石 と磁粒含む	外 刷毛・可き 内 刷毛後ナブ・刷毛目
272	#	#	弥生 壺	0804-21		19.2	6.6	良好	外 5YR74 緑・黄 内 5YR74 緑・黄	白色砂粒含む	外 可き・刷毛目後～ウツ磨き 内 刷毛目
273	#	#	弥生 壺	0804-25		4.3	2.15	良好	外 5YR74 緑・黄～5YR51 緑 内 5YR74 緑・黄	2mm大の小石 と磁粒多く含む	外 刷毛目・ナブ 内 磨純
274	#	#	弥生 壺	0804-24		3.8	0.2	良好	外 7.5YR73 緑・黄 内 10YR83 浅黄緑	2～3mm大の 小石少量と磁粒 と含まれる	外 可き・ナブ 内 ナブ
275	#	#	弥生 壺	0804-27		3.4	4.7	良好	外 10YR72 緑・黄～10YR51 黄 内 10YR72 緑・黄	黒褐色・黄褐色 含む	外 可き・磨純 内 刷毛目
276	#	#	弥生 壺	0804-210		5.9		良好	外 7.5YR65 緑・黄 内 10YR62 緑～10YR61 黄灰	黒褐色・黄褐色 少量含む	外 可き後ナブ 内 ナブ

報告書抄録

ふりがな	へいせい17・18・19・20ねんど まいぞうぶんかざいちょうさねんぼう
書名	平成17・18・19・20年度 埋蔵文化財調査年報
副書名	一町単費事業及び受託事業対象分一
巻次	
シリーズ名	太子町文化財資料
シリーズ番号	第76集
編著者名	三村修次 海野浩幸
編集機関	太子町教育委員会
所在地	〒671-1561 掛保郡太子町鵜 1369-1 TEL.079-277-1017
発行年月日	西暦 2010年3月31日

平成17年度

遺跡名	山田畑田山遺跡					
所在地	掛保郡太子町山田字畑田					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 4"	134° 37' 17"	2005・8・3	12	携帯電話基地局 建設
28464	450171			~8・4		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
山田畑田山 遺跡	散布地	古墳				

遺跡名	斑鳩寺遺跡(第11次調査)					
所在地	掛保郡太子町鵜字斑鳩寺					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 13"	134° 34' 31"	2005・9・7	81	雨水排水設備 整備
28464	450010			~9・22		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
斑鳩寺遺跡	社寺	弥生・中世・近世	石列		東西方向に延びる石列遺構を検出。	

遺跡名	立岡東遺跡					
所在地	掛保郡太子町立岡字小畑					
コード	北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 39"	134° 34' 47"	2005・9・26	50	宅地造成
28464	450206			~9・30		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡東遺跡	集落跡	古墳・中世				

遺 跡 名		太田字山ノ下				
所 在 地		揖保郡太子町太田字山ノ下				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 49' 41"	134° 36' 23"	2005・10・6	60	宅地造成
28464				～11・11		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
					遺跡が所在しないことが確認された。	

遺 跡 名		春日社跡				
所 在 地		揖保郡太子町馬場字春日				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 34"	134° 34' 00"	2005・10・17	36	無線送信用鉄塔建設
28464	450001			～10・20		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
春日社跡	社寺	中世				

遺 跡 名		田中遺跡				
所 在 地		揖保郡太子町太田字五反田				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 04"	134° 36' 09"	2005・12・12	56	宅地造成
28464	450107			～12・16		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
田中遺跡	集落跡	弥生・古墳				

遺 跡 名		鵜遺跡 (第22次調査)				
所 在 地		揖保郡太子町鵜字久治田				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 04"	134° 34' 49"	2006・1・10	96	公共下水道敷設
28464	450017			～1・30		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
鵜遺跡	集落跡	弥生・古墳・中世	旧河道	弥生土器・土師器・須恵器・銅鑿	旧河道から柳葉式銅鑿1点が出土。	

遺 跡 名		船 遺 跡 (第 23 次 調 査)						
所 在 地		揖保郡太子町 船 字久治田						
コ ー ド		北	緯	東	経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 02"		134° 34' 50"		2005・12・28	69	水路改修
282464	450017					~2006・2・13		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
船遺跡	集落跡	弥生・古墳・中世						

遺 跡 名		東保遺跡						
所 在 地		揖保郡太子町東保字中ノ壺						
コ ー ド		北	緯	東	経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 09"		134° 35' 21"		2006・2・8	32	宅地造成
28464	450078					~2・10		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
東保遺跡	集落跡	平安・中世						

遺 跡 名		田中遺跡						
所 在 地		揖保郡太子町田中字住田						
コ ー ド		北	緯	東	経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 49' 56"		134° 36' 19"		2006・2・10	249	土地区画整理
28464	450107					~2・22		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
田中遺跡	集落跡	弥生・古墳						

遺 跡 名		斑鳩小学校遺跡 (第 3 次 調 査)						
所 在 地		揖保郡太子町 船 字斑鳩寺						
コ ー ド		北	緯	東	経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 15"		134° 34' 39"		2006・2・28	104	校舎改築
28464	450011					~3・7		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項			
斑鳩小学校遺跡	社寺	弥生・中世・近世						

遺跡名		東保遺跡					
所在地		揖保郡太子町東保字前田					
コード		北緯東経		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 06"	134° 35' 10"	2006・3・7	70	町道改良工事	
28464	450078			～3・8			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
東保遺跡	集落跡	平安・中世					

平成 18 年度

遺跡名		斑鳩小学校校遺跡 (第4次・第5次調査)					
所在地		揖保郡太子町鵜字斑鳩寺					
コード		北緯東経		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 15"	134° 34' 38"	2006・5・9	730	校舎改築	
28464	450016			～5・19			
				2006・5・21 ～7・14			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
斑鳩小学校遺跡	社寺	弥生・中世・近世		土坑・溝・柱穴 井戸	弥生土器・土師器 須惠器・近世陶磁器	鵜村絵図に記載の南北溝を確認。	

遺跡名		東南字羽子田					
所在地		揖保郡太子町東南字羽子田					
コード		北緯東経		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 48"	134° 35' 13"	2006・10・27	18	店舗建設	
28464	450016			～11・1			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
						遺跡が所在しないことが確認された。	

遺跡名		栗原遺跡					
所在地		揖保郡太子町東南字栗原					
コード		北緯東経		調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 44"	134° 35' 19"	2006・11・2	24	宅地造成	
28464	450016			～11・8			
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項	
栗原遺跡	集落跡	中世					

遺跡名		吉福遺跡						
所在地		揖保郡太子町吉福 他						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 48' 36"	~	134° 33' 37"	~	2006・11・6 ~11・8	16,150	都市計画道路整備
28464	450016	34° 48' 32"	~	134° 34' 10"	~			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
吉福遺跡	集落跡	中世						
吉福西遺跡								

遺跡名		川島遺跡						
所在地		揖保郡太子町太田字五反田						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 45"	~	134° 36' 07"	~	2006・11・27 ~11・29	68.3	共同住宅建築
28464	450016							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
川島遺跡	集落跡	弥生~中世		須恵器				

遺跡名		田中遺跡						
所在地		揖保郡太子町太田字ツンボリ						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 03"	~	134° 36' 12"	~	2007・2・21 ~2・27	125	宅地造成
28464	450016							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
田中遺跡	集落跡	弥生・古墳		弥生土器・土師器 須恵器				

平成19年度

遺跡名		吉福西遺跡(第1次調査)						
所在地		揖保郡太子町吉福字ウチナウケ 他						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 48' 36"	~	134° 33' 37"	~	2007・10・29 ~12・7	177.84	都市計画道路整備
28464	450221	34° 48' 32"	~	134° 34' 10"	~			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
吉福西遺跡	集落跡	平安・中世	柱穴	土師器・須恵器・輸入磁器				

平成20年度

遺跡名		東保遺跡						
所在地		揖保郡太子町東保字東川						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 04"		134° 35' 13"		2008・6・4	32	宅地造成
28464	450078					～6・6		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東保遺跡	集落跡	弥生・古墳						

遺跡名		田中遺跡						
所在地		揖保郡太子町太田字八幡						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 04"		134° 36' 20"		2008・7・23	40	宅地造成
28464	450107					～7・25		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
田中遺跡	集落跡	弥生・古墳						

遺跡名		城山遺跡						
所在地		揖保郡太子町鵜字アヲリ						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 53"		134° 34' 37"		2008・8・18	118.84	宅地造成
28464	450016					～9・5		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
城山遺跡	集落跡	縄紋～古墳・中世	土坑・溝・柱穴	弥生土器・土師器 須恵器				

遺跡名		斑鳩寺遺跡 (第12次調査)						
所在地		揖保郡太子町鵜字斑鳩寺						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 16"		134° 34' 33"		2008・8・25	24	町指定文化財修理
28464	450010					～9・25		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
斑鳩寺遺跡	集落跡	弥生～中世・近世						

遺跡名		矢田部城跡					
所在地		揖保郡太子町東南字前田・矢田部字才ノ上					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 49' 40"	134° 35' 08"	2008・10・1	120.9	宅地造成	
28464	450082			～10・7			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
矢田部城跡	城跡	古墳・中世		須恵器			

遺跡名		斑鳩寺南遺跡					
所在地		揖保郡太子町鵜字中宮寺					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 03"	134° 34' 29"	2008・10・9	55.35	宅地造成	
28464	450013			～10・15			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
斑鳩寺南遺跡	集落跡	縄紋～古墳・中世					

遺跡名		吉福西遺跡 (第2次調査)					
所在地		揖保郡太子町吉福字宮ノ前					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 48' 36"	134° 33' 40"	2008・10・15	1,300	都市計画道路建設	
28464	450221			～2009・3・19			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
吉福西遺跡	集落跡	平安・中世	土坑・土坑墓・溝柱穴	弥生土器・土師器 須恵器・瓦器・瓦 輸入磁器・鉄製品 石製品	中世の集落跡を確認した。		

遺跡名		鵜遺跡 (第25次調査)					
所在地		揖保郡太子町東保字高田					
コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(㎡)	調査原因	
市町村	遺跡番号	34° 50' 08"	134° 34' 56"	2008・11・10	44.5	宅地造成	
28464	450017			～11・15			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
鵜遺跡	集落跡	弥生・古墳・中世					

遺跡名		大津茂川床遺跡						
所在地		揖保郡太子町太田字清水ヶ本						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 49' 50"		134° 35' 58"		2009・1・7	90	宅地造成
28464	450016					~1・13		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
大津茂川床遺跡	散布地	縄紋・弥生						

遺跡名		東保高田遺跡						
所在地		揖保郡太子町東保字神田						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 11"		134° 35' 06"		2009・3・2	40	宅地造成
28464	450079					~3・4		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東保高田遺跡	集落跡	弥生・古墳・中世						

遺跡名		山田大山7号墳・10号墳						
所在地		揖保郡太子町山田字大山						
コード		北	緯	東	経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
市町村	遺跡番号	34° 50' 20"		134° 36' 53"		2008・10・30	5,000	防災設備設置
28464	450150					~2009・3・31		
	450248							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
山田大山7号墳・10号墳	古墳	古墳	横穴式石室		新たに横穴式石室を主体部にもつ古墳5基を確認した。			

平成17・18・19・20年度 埋蔵文化財調査年報

発行日 平成22年 3月31日

発 行 太子町教育委員会

兵庫県揖保郡太子町鵜1369-1

電話 079-277-1017

印 刷 合名会社 柳生印刷所

